MZK-MF300N2

User's Manual

目次

第 1 章 安全上のご注意

1.1 本製品を安全にご利用いただくために

本製品のご利用に際して、以下の警告および注意をご覧いただき必ずお守りください。これらの事項が守られないとき、**「感電」「火災」「故障」**などが発生する場合があります。
これによって人が負傷されたり、死亡につながる 恐れがあります。また、万一**「発火」「発煙」「溶解」**などが発生した場合には速やかに本製品の利用を中止し、弊社サポートセンターへ連絡するようお願いいたします。

⚠警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が負傷されたり、死亡につながる恐れが想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が負傷されたり、物的損傷を引き起こす恐れが想定される内容を示しています。

⚠警告	
	電源は AC100V（50 ／ 60Hz）以外では絶対に使用しないでください。 本製品と本製品の定格電力ラベルに記載されている電圧・電流のものをお使いください。異なる電圧・電流でご使用すると発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障などの原因となります。
	必ず付属の専用 AC アダプタ（または電源ケーブル）を使用してください。 本製品付属以外の AC アダプタ（または電源ケーブル）の使用は発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障のなどの原因となります。
	AC アダプタ（または電源ケーブル）の取り扱いを守ってください。 AC アダプタ（または電源ケーブル）に加熱や無理な曲げ、引っ張ったりするなどといった行為はしないでください。発煙、感電、火災、または製品の誤作動や故障などの原因となります。また、AC アダプタ（または電源ケーブル）を抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。
	動作環境範囲外で本製品をご利用にならないでください。 範囲外の温度や湿度の環境でご利用になることで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
	本製品を分解、改造しないでください。 感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。また改造は法律で禁止されています。

強制指示	**コンピュータの取り付け口に異物などが混入しているときは直ちに取り除いてください。** そのまま使用することで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
水濡禁止	**本製品の近くに液体が入った容器を置かないでください。** 本製品に液体がこぼれることで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
プラグを抜く	**煙が出たり、異臭がしたら直ちに使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いてください。** そのまま使用することで、感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
濡手禁止	**本製品を濡れた手で触れないでください。また事前に指輪、腕時計などの装身具を外しておいてください。** これらの状態で本製品に触れると感電、火災、または製品の誤作動、故障などの原因となります。
禁　止	**本製品を重ねて設置しないでください。** 本製品が加熱し、感電、火災、または本製品の誤作動、故障などの原因となります。
触手禁止	**雷のときは本製品や接続されているケーブル等に触れないでください。** 落雷による感電の原因になります。
強制指示	**本製品は一般家庭や小規模事業所におけるブロードバンド環境下での利用を前提にしています。** 本製品は、物理的・論理的に規模の大きなネットワークや、一般的ではない環境または目的で本製品を使用した場合、正常に動作しない可能性があります。
禁　止	**金融機器、医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、高い安全性が要求される用途には使用しないでください。**

⚠注意	
	本製品を次のような場所での使用や保管はしないでください。 ● 直射日光の当たる場所 ● 暖房器具の近くなどの高温になる場所 ● 温度変化の激しい場所 ● 湿気やほこりの多い場所 ● 振動の多い場所や不安定な場所 ● 静電気が多く発生する場所 ● 油煙や湯気があたる場所 ● 腐食性ガスの発生する場所 ● 壁の中などお手入れが不可能な場所 ● 強い磁気や電磁波が発生する装置が近くにある場所
	本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。 本製品の誤作動、故障などの原因となります。
	移動させるときは AC アダプタ(または電源ケーブル)を外してください。 必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してください。
	お手入れの際は以下の内容に注意してください。 ● 電源プラグをコンセントから抜いてください。 ● シンナーやベンジン等の有機溶剤で本製品を拭かないでください。
	定期的にデータのバックアップを行ってください。 本製品のご利用にかかわらず、パソコンのデータのバックアップを定期的に取得してください。万一不測の事態が発生し、不用意なデータの消失や復旧が不可能な状態に陥ったときの回避策になります。なお、本製品のご利用に際しデータ消失などの障害が発生しても、弊社では保証いたしかねることをあらかじめご了承ください。
	RJ-45 ポートのある製品は、以下の内容に注意してください。 RJ-45 ポートには電話線コネクタを差し込まないでください。本製品が損傷する場合があります。

■無線製品に関して

本製品を下記のような状況でご使用になるのはおやめください。

- 本製品を心臓ペースメーカーや補聴器など医療機器の近くや医療機関の中でのご使用はおやめください。電磁障害を及ぼし生命の危険があります。
- 本製品を交通機関内、特に航空機の中でのご使用はおやめください。機内での電子機器や無線機器の利用が禁止されており、航空機の装置などへ影響を与えて事故の原因になる恐れがあります。
- 本製品を電子レンジの近くでのご使用はおやめください。電子レンジをご使用のとき、電磁波の影響によって、無線通信が妨害される恐れがあります。

■電波に関して

本製品の無線 LAN の周波数帯は、医療機器や電子レンジなどの産業・科学機器、工場の生産ラインなどで使用される移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局と重複しているため、電波の干渉による無線通信の障害が発生する恐れがあります。

- 本製品のご利用の前に、干渉範囲内に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品使用中に移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波の干渉が発生したときは、速やかに周波数を変更するか使用を中止してください。
- その他、本製品から移動体識別装置用の構内無線局や特定省電力無線局に対して電波干渉など、何かお困りのことが発生したときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。
- 本製品の電波の種類と干渉距離について

2.4 DS/OF 4
■■■

2.4 : 2.4GHz 帯を使用する無線設備を表します。

DSOF : DS-SS 方式および OFDM 方式を表します。

4 : 想定される干渉距離が 40m 以下を表します。

■ ■ ■ : 全帯域を使用し、かつ「構内局」あるいは「特小局」、「アマチュア局」帯域の回避が可能なことを表します。

■ご利用上の注意

- 接続においては、IEEE802.11n(2.4GHz 帯)または IEEE802.11g、IEEE802.11b 無線 LAN その他の無線機器の周囲、電子レンジなど電波を発する機器の周囲、障害物の多い場所、その他電波状態の悪い環境で使用した場合に接続が頻繁に途切れたり、通信速度が極端に低下したり、エラーが発生したりする可能性があります。
- 5.2GHz 帯を屋外で使用することは、電波法により禁止されています。IEEE802.11a は屋外で使用することはできませんのでご注意ください。
- 本書内に記載されている無線 LAN 規格における数値は理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。
- 本製品はすべての無線 LAN 機器との接続動作を確認したものではありません。
- 弊社は、無線機器によるデータ通信時に発生したデータおよび情報の漏洩につき、一切の責任を負いません。
- Bluetooth と無線 LAN は同じ 2.4GHz 帯の無線周波数を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いの Bluetooth、無線 LAN のいずれかの使用を中止してください。

■無線 LAN におけるセキュリティに関するご注意

お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線 LAN カードや無線 LAN アクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線 LAN 機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物(壁など)を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

- 通信内容を盗み見られる
  悪意ある第三者が電波を故意に傍受し、ID やパスワード又はクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。
- 不正に侵入される
  悪意ある第三者が無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す(情報漏洩)、特定の人物になりすまして通信し不正な情報を流す(なりすまし)、傍受した通信内容を書き換えて発信する(改ざん)、コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する(破壊)などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。ただし、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があり、また無線 LAN の仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、弊社サ

ポートセンターまでお問い合わせください。セキュリティ対策を施さず、あるいは無線 LAN の仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、弊社ではこれによって生じた損害に対する責任を負いかねます。
弊社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

1.2 おことわり

■ご注意

- 本製品の故障・誤作動・不具合・通信不良、停電・落雷などの外的要因、第三者による妨害行為などの要因によって、通信機会を逃したために生じた損害などの経済損失につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 通信内容や保持情報の漏洩、改ざん、破壊などによる経済的・精神的損害につきましては、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本製品のパッケージ等に記載されている性能値(スループット)は、当社試験環境下での参考測定値であり、お客様環境下での性能を保証するものではありません。また、バージョンアップ等により予告無く性能が上下することがあります。
- ハードウェア、ソフトウェア(ファームウェア)、外観に関しては、将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品内部のソフトウェア(ファームウェア)更新ファイル公開を通じた修正や機能追加は、お客様サービスの一環として随時提供しているものです。内容や提供時期に関しての保証は一切ありません。
- 一般的に、インターネットなどの公衆網の利用に際しては、通信事業者との契約が必要になります。
- 通信事業者によっては公衆網に接続可能な端末台数を制限、あるいは台数に応じた料金を設定している場合がありますので、通信事業者との契約内容をご確認ください。
- 輸送費、設定、調整、設置工事などは、お客様負担となります。
- 本製品は日本の国内法(電気用品安全法・電波法等)のもとで利用可能な製品であるため、別途定める保証規定は日本国内でのみ有効です。海外での利用はできません。また、本製品ご利用の際は各地域の法令や政令などによって利用の禁止や制限がなされていないかご確認してください。
- 本製品を廃棄するときは、地方自治体の条例に従ってください。

■著作権等

- ユーザーズ・マニュアルに関する著作権は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社に帰属します。ユーザーズ・マニュアルの記載内容の一部、または全部を転載または複製することを禁じます。
- ユーザーズ・マニュアルの記述に関する、不明な点や誤りなどございましたら、弊社までご連絡ください。
- ユーザーズ・マニュアルの記載内容は、将来予告なく変更されることがあります。

■電波に関するご注意

この装置は、クラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信妨害を起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

VCCI-B

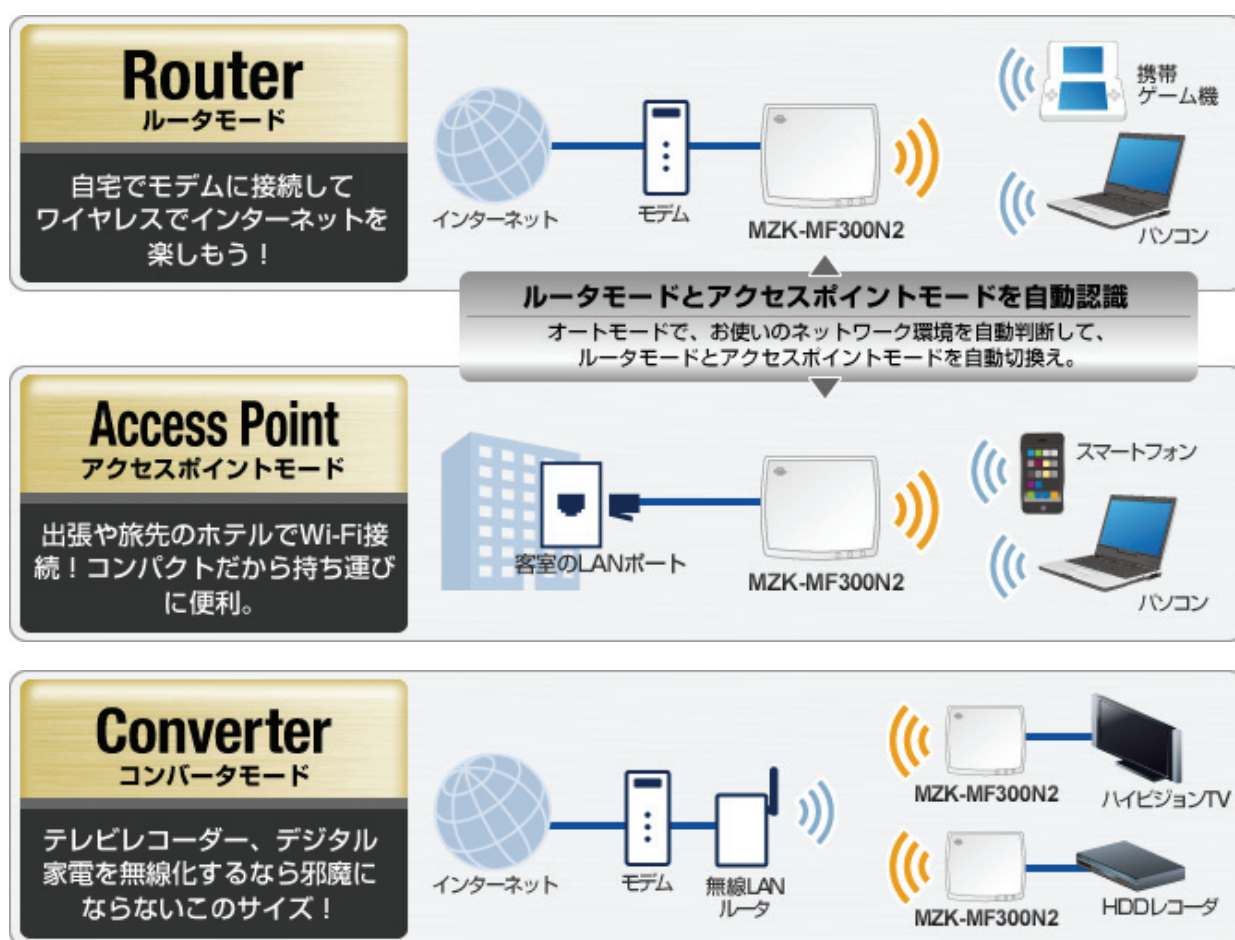
■RoHS 対応

生産から廃棄処分にいたる製品のライフサイクルにおいて、人の健康や環境への負荷を最小限に抑えることを目的とし、プラネックスコミュニケーションズでは、EU（ 欧州連合） の RoHS 指令準拠を始めとし、環境汚染物質の削減を積極的に進めております。

第 2 章 はじめに

2.1 本製品の特長

✧ **1 台 3 役！オート、アクセスポイント、コンバータが選べる 3 種のモード切り換え**

オートモード（ルータ / アクセスポイント自動切り換え）で、ほぼ全てのインターネット回線に対応。また、アクセスポイントモードのみで使用できるほか、コンバータモードに切り替えて LAN 接続可能な機器を簡単に無線化することができます。さらに、それぞれのモードで設定値を保存できますので、用途に合わせて切り替えて使用していただくのに最適な製品です。

✧ **マルチ SSID 機能搭載**

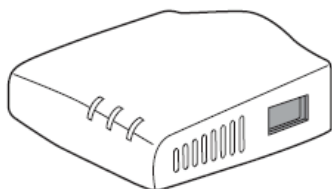
3G モバイル通信端末を使用してインターネットへ接続するため、ケーブル配線を必要とせず簡単に Wi-Fi 環境を構築することができます。また、コンパクトサイズで設置場所の自由度が高く場所を選ばずにお使いいただけます。

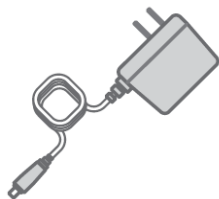
✧ **洗練されたデザイン　＜Designed by MID MILANO Design＞**

イタリアのデザイナーが手がけたボディーは、柔らかいフォルムと光沢のあるカラーで高級感が漂う洗練されたデザイン。リビングやデジタル家電の近くにおいても部屋全体の美観を損ないません。

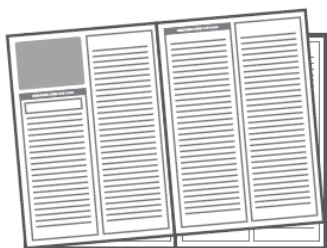
2.2 同梱物

パッケージに次の付属品が含まれていることを確認してください。

☐ MZK-MF300N2（本製品）

☐ LAN ケーブル

☐ AC アダプタ

☐ USB 電源ケーブル

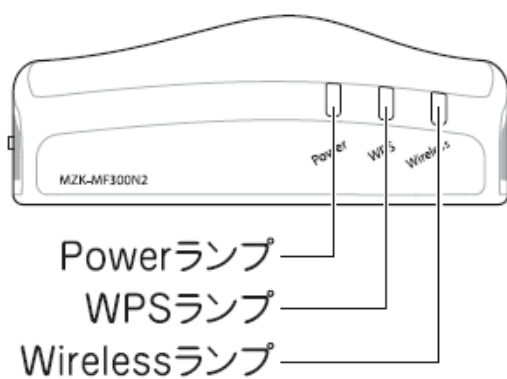
（FFP-PKR03 には含まれません）

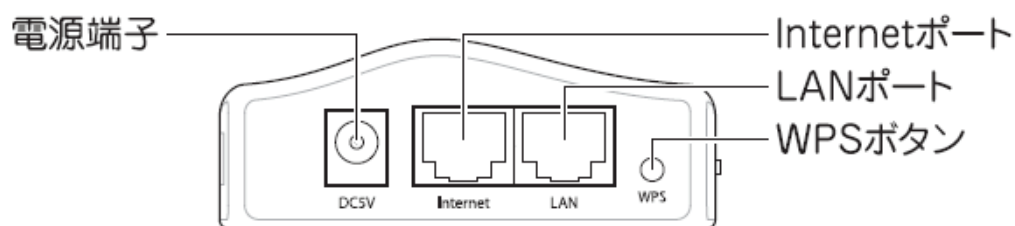
☐ ルータ・アクセスポイント設定ガイド（前編・後編）
☐ コンバータ設定ガイド

☐ 安全に関する説明書／保証書

※パッケージ内容に破損または欠品があるときは、販売店または弊社までご連絡ください。

2.3 各部の名称とはたらき

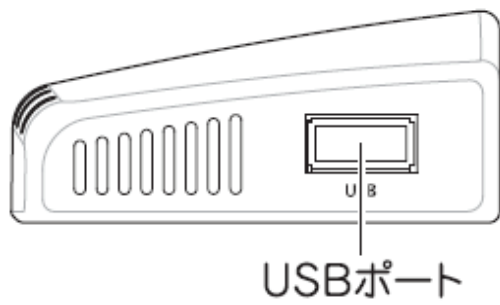
本製品各部の名称について説明します。

本製品前面

名称	色	機能説明	
Power ランプ	緑	点灯	本製品の電源がオンの状態です。
		点滅	初期化を実行している状態です。
		消灯	本製品の電源がオフの状態です。
WPS ランプ	緑	点灯	WPS 接続を試みている状態です。
		消灯	WPS 接続が無効の状態です。
Wireless ランプ	緑	点滅	無線 LAN でデータを送受信している状態です。
		消灯	無線 LAN 機能が無効です。

本製品背面

名称	機能説明
電源端子	付属の AC アダプタを接続します。
LAN ポート	ご使用のローカルエリアネットワークと接続します。
Internet ポート	ご使用のインターネット回線に付属の LAN ケーブルで接続します。
WPS ボタン	WPS ボタンを 3 秒以上押して離すと、WPS（無線 LAN 簡単設定機能）接続が有効になります。 ※ 操作方法は、「ルータ・アクセスポイント設定ガイド（前編）」の「STEP 3」を参照してください。 ※ WPS 機能を使用すると、本製品の無線 LAN セキュリティの初期設定が書き換わる為、本紙記載の暗号化キーでは接続できません。1 台のパソコンで無線 LAN 接続にご使用ください。 ※ 複数台の機器を無線 LAN 接続する場合には、手動にて「SSID：ap-pc-●●●●●●」、「暗号化キー：12345678」をそれぞれ設定してください。

本製品左側面

<table>
<tr><th>名称</th><th colspan="2">機能説明</th></tr>
<tr><td>Reset ボタン</td><td colspan="2">本製品の設定情報を工場出荷時の状態に戻します。
（操作方法）
1.　本製品の電源がオンになっていることを確認します。
2.　本製品背面のリセットボタンを 10 秒以上長押しします。
3.　本製品前面の「Power」ランプが点滅したら、リセットボタンから手を離します。
4.　しばらくそのままお待ちいただき、本製品が再起動　したら初期化の完了です。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">モード切替スイッチ</td><td>Auto</td><td>Auto モードに切り替わります。
※インターネット回線を自動判別します。</td></tr>
<tr><td>AP</td><td>アクセスポイントモードに切り替わります。
※上位ルータの IP アドレスを固定に設定しているときに使用します。
（本製品から下位のクライアントに IP アドレスを割り当てたいときなど）
通常は「Auto」で使用してください。</td></tr>
<tr><td>Converter</td><td>コンバータモードに切り替わります。</td></tr>
</table>

本製品右側面

名称	機能説明
USB ポート	※本製品では使用できません。

2.4 工場出荷時の設定値

本製品の工場出荷時の設定内容は以下のとおりです。

名称	設定値	
ユーザ名（ログイン ID）	admin	
パスワード	password	
IP アドレス	ルータモード動作時　：　192.168.111.1 アクセスポイントモード動作時　：　XXX.XXX.XXX.250 コンバータモード動作時　：　XXX.XXX.XXX.249 ※「XXX」はお使いの環境に更新されます。	
ネットワーク名（SSID）	出荷時設定値 ドメイン名：mf.setup SSID 1：ap-pc-●●●●●● （メイン SSID の無線 LAN セキュリティ）	SSID 2：ap-game-●●●●●● （マルチ SSID の無線 LAN セキュリティ）
暗号化キー	12345678	なし
認証方式	WPA2	－
暗号化方式	AES	－
キーフォーマット	パスフレーズ	－

※本製品背面のラベル内にある「SSID1」、「SSID2」をご確認ください。

※「●●●●●●」が製品ごとに異なります。

第 3 章：インターネットの設定

本製品をルータまたはアクセスポイントとして使用するときや、コンバータとして使用するときは、以下の設定ガイドを参照してください。

◆本製品を無線 LAN ルータやアクセスポイントとして使用する場合
付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」を参照し、インターネットの設定を行ってください。

◆本製品をコンバータとして使用する場合
付属の「コンバータ設定ガイド」を参照し、インターネットの設定を行ってください。

＜ポイント＞
お手元に「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」や「コンバータ設定ガイド」がないときは、以下のページからダウンロードしてください。

http://www.planex.co.jp/support/download/router/mzk-mf300n2.shtml

第 4 章　ゲーム機／スマートフォンを接続する

本製品に、ゲーム機やスマートフォンを接続します。

該当する項目を参照してください。

- Wii を接続するとき……………………… 「4.1　Wii」
- PS3 を接続するとき………………… 「4.2　PS3」
- DSi／DSi LL を接続するとき…………「4.3　DSi／DSi LL」
- DS／DS Lite を接続するとき…………「4.4　DS／DS Lite」
- 3DS を接続するとき………………… 「4.5　3DS」
- PSP を接続するとき………………… 「4.6　PSP」
- ギャラクシータブを接続するとき…… 「4.7　ギャラクシータブ」

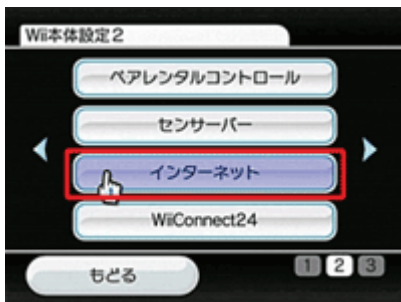
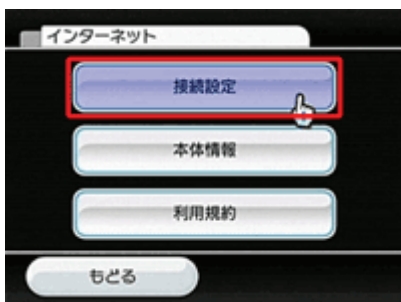
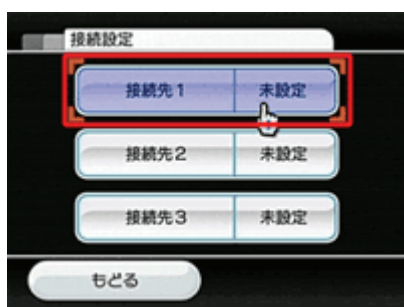
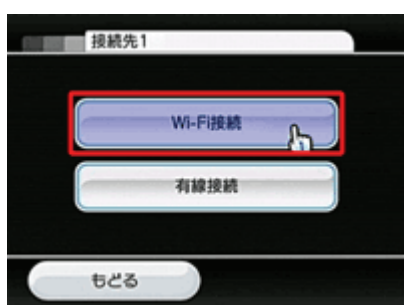
※本手順では工場出荷時の設定情報でご説明しています。SSID（ネットワーク名）や無線 LAN セキュリティを変更したときは、変更した情報で設定してください。

※パソコンや iPhone を接続するときは、別紙「ルータ･アクセスポイント設定ガイド（前編）」の裏面を参照し、接続してください。

4.1 Wii

1. Wii メニュー画面で「Wii」を選びます。

2. 「Wii 本体設定」を選びます。

3. 「Wii 本体設定 1」の画面で右方向キーを押して「Wii 本体設定 2」の画面へ進み、「インターネット」を選びます。

4. 「接続設定」を選びます。

5. 「接続先 1～3」の中から、「未設定」のものを一つ選びます。

6. 「Wi-Fi 接続」を選びます。

7. 「アクセスポイントを検索」を選びます。

8. アクセスポイントが検索されると「接続したいアクセスポイントを選んでください。」と表示されるので、「OK」を選びます。

9. 検索結果から、「ap−game−●●●●●●」を選びます。

※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。

※「ap−game−●●●●●●」が表示されないときは、「再検索」を選んで、再検索してください。

10. 「この内容を保存します。よろしいですか？」と表示されるので、「OK」を選びます。

11. 「設定内容を保存しました。接続テストを開始します。」と表示されるので、「OK」を選んで接続テストを開始します。

12. 「接続テストに成功しました。」と表示され、Wii 本体の更新を確認されるので「はい」を選びます。更新が終了したら設定は終了です。

※更新がすでに済んでいるときは、「この Wii の更新はありませんでした。」と表示されます。

※ニンテンドーWii の操作に関しては、ニンテンドーWii に付属している取扱説明書を参照してください。

以上で接続は完了です。

4.2 PS3

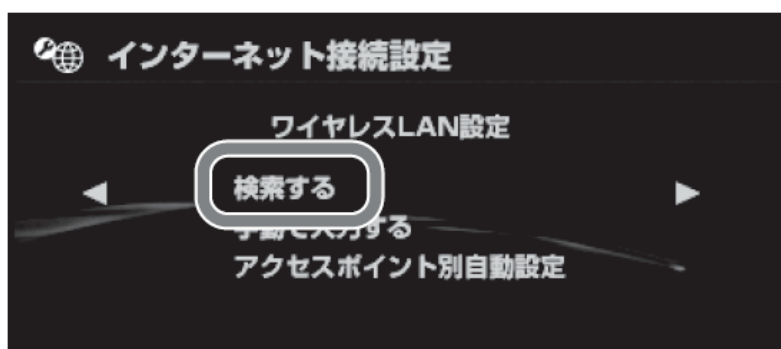
1. ホームメニューの「設定」ー「ネットワーク設定」を選びます。

2. 「インターネット接続」が「有効」になっているのを確認し、「インターネット接続設定」を選びます。

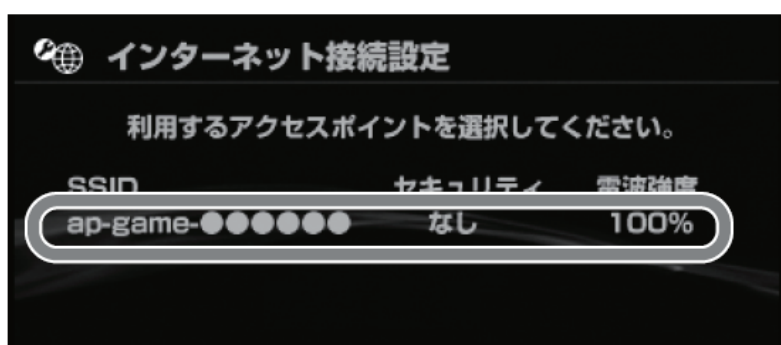
3. 「インターネット接続の設定を行います。有線で接続する場合は、LAN ケーブルを接続してください。」と表示されますので、○ボタンを押します。

4. 「設定方法を選択してください」から、「かんたん」を選び、○ボタンを押します。

5. 「接続方法を選択してください。有線で接続する場合は、LAN ケーブルを接続してください。」と表示されます。「無線」を選び、○ボタンを押します。

6.　「検索する」を選び、SSID（ネットワーク名）の･一覧を表示します。

7.　一覧から「ap−game−●●●●●●※」を選び、〇ボタンを押します。

※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。

※「ap−game−●●●●●●」が表示されないときは、「×」ボタンを押してから、再度「検索する」を選んで再検索してください。

出荷時設定値	ユーザ名：admin
ドメイン名：mf.setup	パスワード：password
SSID 1：ap-pc-●●●●●●	IPアドレス（AP接続時）：xxx.xxx.xxx.250
SSID 2：ap-game-●●●●●●	IPアドレス（コンバータ時）：xxx.xxx.xxx.249

8.　「ap−game−●●●●●●」が表示されていることを確認し、右方向キーを押します。

9.　ワイヤレス LAN　セキュリティ設定から「なし」を選びます。

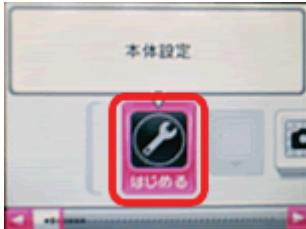
10. 「プロキシサーバー」の画面が表示されたときは、「使用しない」を選びます。
　　※表示されないときは次に進んでください。

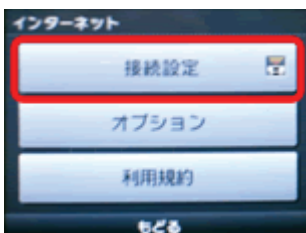
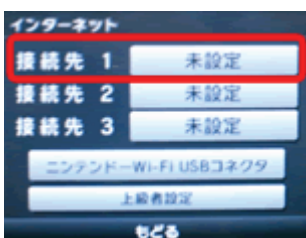
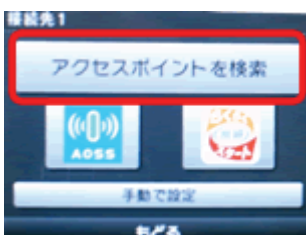
11. 「設定一覧」の内容を確認し、〇ボタンを押して設定内容を保存します。

12. 接続テストが完了して、「IP　アドレス取得」に成功したら、設定は完了です。

※PS3 の操作に関しては、PS3 に付属している取扱説明書を参照してください。

4.3 DSi／DSi LL

1. ニンテンドーDSi メニューから「はじめる」をタッチします。

2. 右に 2 回タッチし、「インターネット」をタッチします。

3. 「接続設定」をタッチします。

4. 「接続先 1～3」の中から、「未設定」のものを一つタッチします。

5. 「アクセスポイントを検索」をタッチします。

6. 検索結果から、「ap−game−●●●●●●」をタッチします。
　※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。
　※「ap−game−●●●●●●」が表示されないときは、「再検索」をタッチして、再検索してください。

7. 「この内容で保存します。よろしいですか？」と表示されるので、「OK」をタッチします。

8. 「設定内容を保存しました。接続テストを開始します。」と表示されるので、「OK」をタッチします。

9. 接続テストに成功したら、設定は完了です。

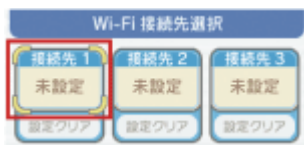
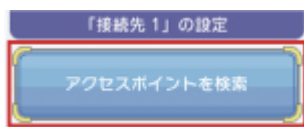
※ニンテンドーDSi/DSi LL の操作に関しては、ニンテンドーDSi/DSi LL に付属している取扱説明書を参照してください。

4.4 DS／DS Lite

1. Wi-Fi コネクション対応のゲームソフトをニンテンドーDS/DS Lite に挿込み、電源を ON にしてゲームソフトを起動します。

2. 「Wi-Fi コネクション設定」画面を表示させます。
   ※ゲームソフトにより異なりますが、「Wi-Fi」または「Wi-Fi 設定」ボタンで表示されます。

3. 「Wi-Fi 接続先設定」をタッチします。

4. 「接続先 1～3」の中から、「未設定」のものを一つタッチします。

5. 「アクセスポイントを検索」をタッチします。

6.　検索結果から、「ap−game−●●●●●●」をタッチします。

　※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。

　※「ap−game−●●●●●●」が表示されないときは、「再検索」をタッチして、再検索してください。

7.　「この内容で保存します。よろしいですか？」と表示されるので、「はい」をタッチします。

8.　「設定内容をセーブしました。接続テストを開始します。」と表示されるので、「はい」をタッチします。

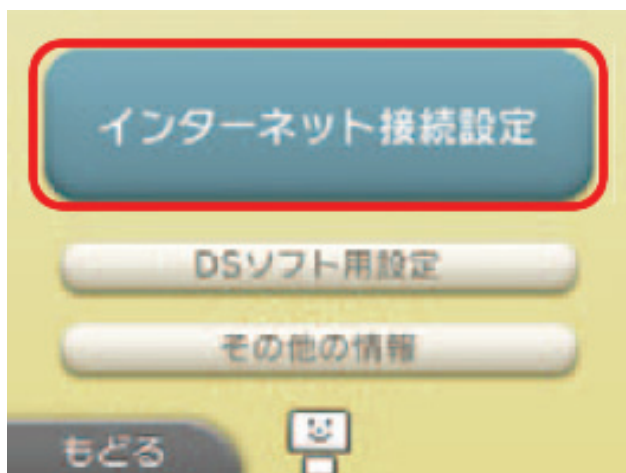
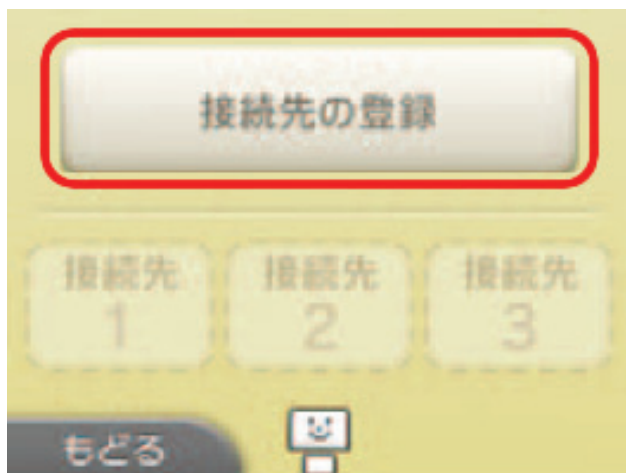
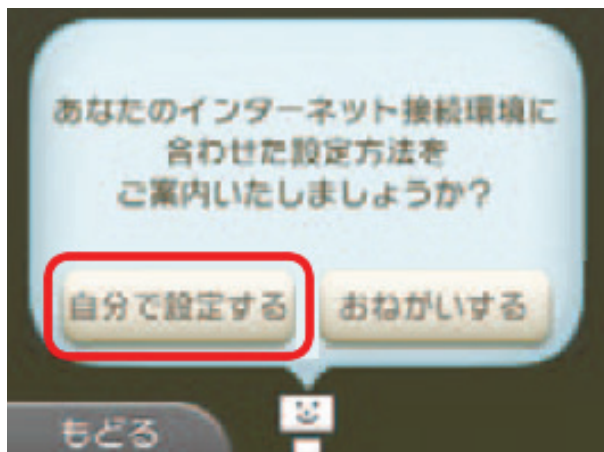
9.　「接続テストに成功しました。」と表示されたら設定は完了です。

※ニンテンドーDS/DS Lite の操作に関しては、ニンテンドーDS/DS Lite に付属している取扱説明書を参照してください。

4.5 3DS

1. ニンテンドー3DS メニューから「本体設定」をタッチします。

2. 「インターネット設定」をタッチします。

3. 「インターネット接続設定」をタッチします。

4. 「接続先の登録」をタッチします。

5. 「あなたのインターネット接続環境に合わせた設定方法をご案内しましょうか？」の画面で、「自分で設定する」をタッチします。

6. 「アクセスポイントを検索」をタッチします。

7. 検索結果から、「ap−game−●●●●●●」をタッチします。
※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。
※「ap−game−●●●●●●」が表示されないときは、「再検索」をタッチして、再検索してください。

8. 「このアクセスポイントを接続先 1(または 2、3)として保存します。よろしいですか？」と表示されるので、「OK」をタッチします。

9. 「設定内容を保存しました。引き続きインターネットへの接続テストを開始します。」と表示されるので、「OK」をタッチします。

10. 接続テストに成功したら、設定は完了です。

※ニンテンドー3DS の操作に関しては、ニンテンドー3DSi に付属している取扱説明書を参照してください。

4.6 PSP

1. PSP の電源を ON にし、ワイヤレス LAN スイッチを ON にします。

2. ホームメニューの「設定」ー「ネットワーク設定」を選びます。

3. 「インフラストラクチャーモード」を選びます。

4. 「新しい接続の作成」を選びます。

5. 「検索する」を選び、SSID（ネットワーク名）の一覧を表示します。

6. 一覧から「ap-game-●●●●●●」を選び、〇ボタンを押し、右方向キーを押して次の画面へ進みます。
※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。
※「ap-game-●●●●●●」が表示されないときは、再検索してください。

出荷時設定値	ユーザ名：admin
ドメイン名：mf.setup	パスワード：password
SSID 1：ap-pc-●●●●●●	IPアドレス（AP接続時）：xxx.xxx.xxx.250
SSID 2：ap-game-●●●●●●	IPアドレス（コンバータ時）：xxx.xxx.xxx.249

7.　ワイヤレス LAN セキュリティ設定から「なし」を選びます。

8.　アドレス設定から「かんたん」を選び、右方向キーを押して次の画面へ進みます。

9.　接続名に任意の名前を入力し、右方向キーを押して次の画面へ進んで設定の確認をします。

10. 確認ができたら、右方向キーを押して次の画面へ進み、○ボタンを押して設定内容を保存します。

11. 「接続テストをする」が表示されたら○ボタンを押し、インターネット接続が確認できれば設定は完了です。

※PSP の操作に関しては、PSP に付属している取扱説明書を参照してください。

※うまく接続できないときは

・PSP のシステムソフトウェアが最新のものであるか確認してください。

・ホームメニューの「設定」－「省電力設定」－「ワイヤレス LAN 省電力モード」を選び、「切」に設定してみてください。

4.7 ギャラクシータブ

1. メインメニューより「設定」をタッチします。

2. 「無線とネットワーク」をタッチします。

3. 「Wi-Fi 設定」をタッチします。

4. 「Wi-Fi」をオンにします。

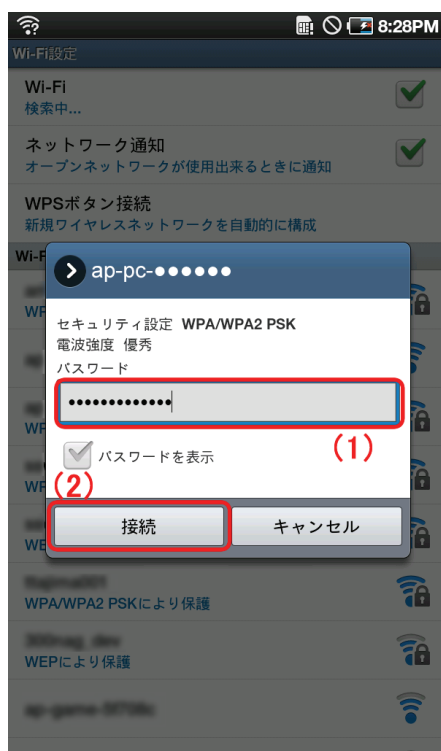
※「Wi-Fi」がオンになっているときは、手順 5 に進んでください。

5. 「Wi-Fi ネットワーク」にて、「ap-pc-●●●●●●」をタップします。

※「●●●●●●」は製品ごとに異なります。

6.　本製品の暗号化キーを入力します。

（1）「12345678」を半　角英数で入力します。

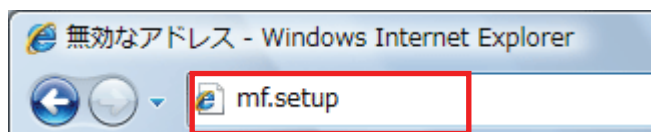
（2）「接続」をタッチします。

7.　「ap−pc−●●●●●●」の下の表示が、「接続」となっていることを確認します。

※ギャラクシータブの操作に関しては、ギャラクシータブに付属している取扱説明書を参照してください。

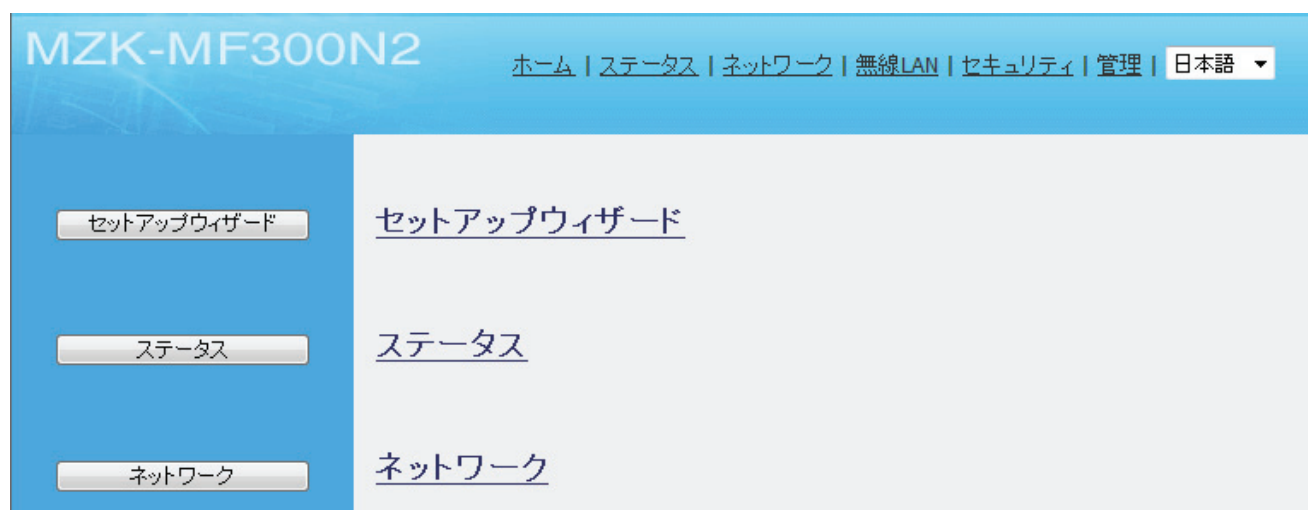
第 5 章:本製品を使いこなす

5.1　設定画面の表示方法

1.　WEB ブラウザを起動します。

2.　アドレス欄に IP アドレス「mf.setup」を入力し、<Enter>を押します。

※ 「ルータモード」で動作しているときは、アドレス欄に 「192.168.111.1」と入力して、ログイン画面を表示することもできます。
※ 「アクセスポイントモード」で動作しているときは、アドレス欄に「192.168.1.250」と入力して、ログイン画面を表示するとこもできます。
※ 「コンバータモード」で動作しているときは、アドレス欄に「192.168.1.249」と入力して、ログイン画面を表示するとこもできます。
※ お使いの環境により、WEB ブラウザが起動するまで時間がかかることがあります。
※ ログイン画面が表示されずに、エラー画面が表示されたり、検索ページに移行するときは、本製品の IP アドレスがお使いの環境に更新されています。P43 の「本製品の IP アドレスを確認する」を参照してください。

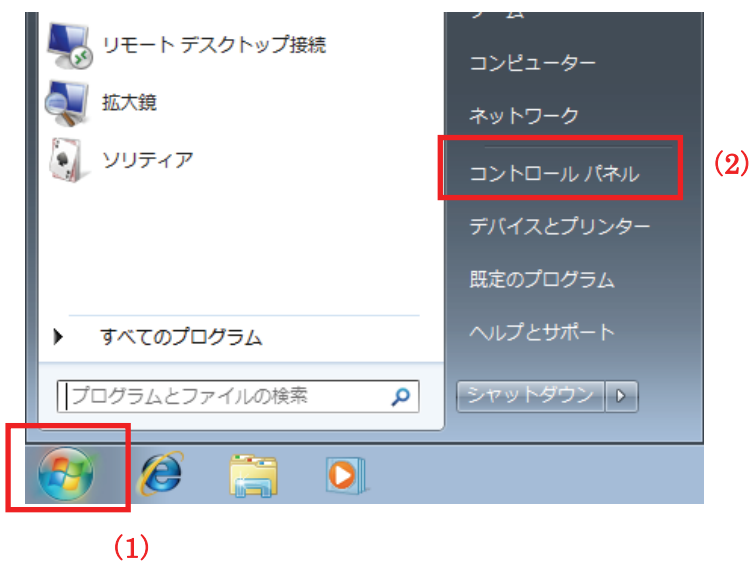
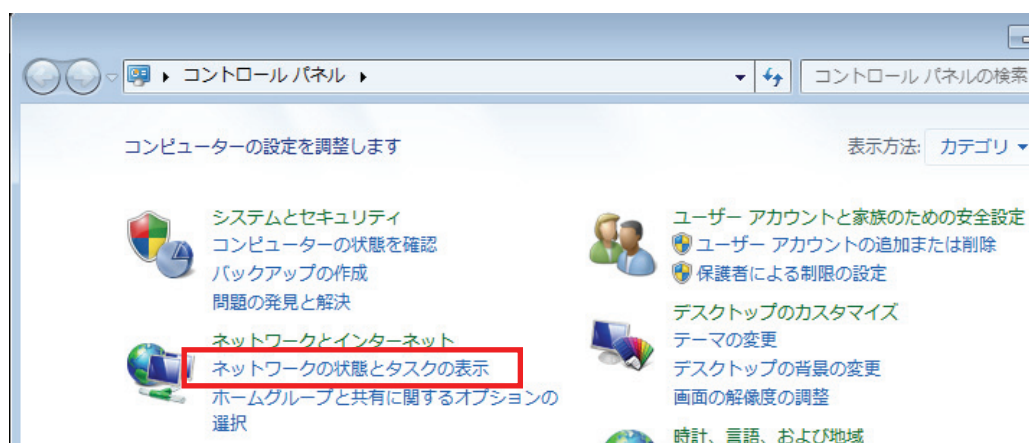
3.　ログイン画面が表示されますので、下記のユーザ名とパスワードを入力し、OK をクリックします。
(1)「ユーザ名」に半角英数で「admin」(エー・ディー・エム・アイ・エヌ)を入力します。
(2)「パスワード」に半角英数で「password」(ピー・エー・エス・エス・ダブリュ・オー・アール・ディー)を入力します。
(3)[OK]をクリックします。

4.　本製品の WEB 設定画面のトップページが表示されます。

＜本製品の IP アドレスを確認する＞

お使いの環境に更新された本製品の IP アドレスを確認します。

■ Windows 7／Vista のとき

※手順では Windows 7 で説明していますが、Windows Vista も同じ手順となります。

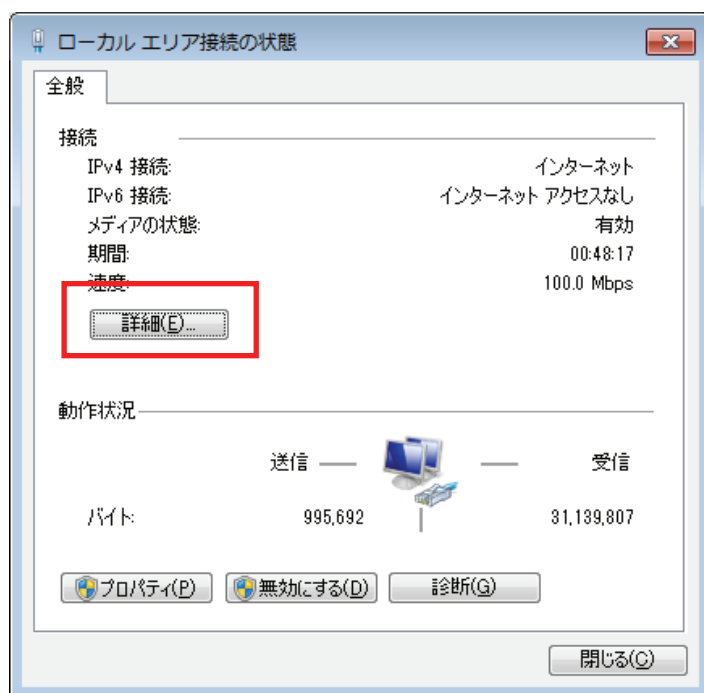
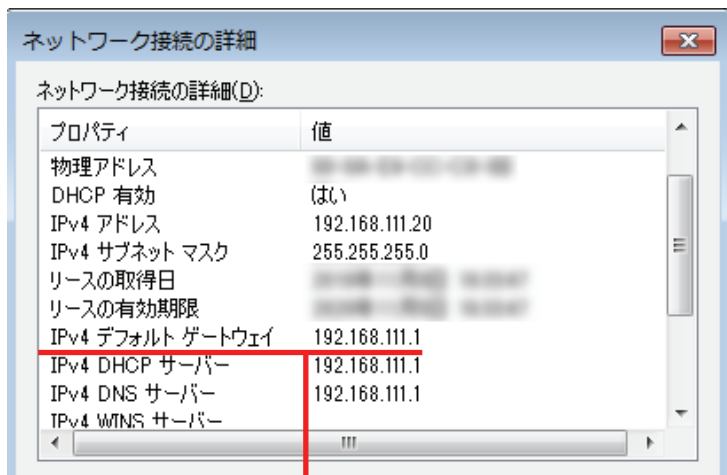
1. ①「スタート」ボタンをクリックします。
   ②「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。

※Windows 7 でアイコン表示の場合や、Windows Vista でクラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. Windows 7 のとき

「ローカルエリア接続」をクリックします。

Windows Vista のとき

「状態の表示」をクリックします。

4. 「詳細」をクリックします。

5. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、

「192.168.111250」とメモに取ります。

例） 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

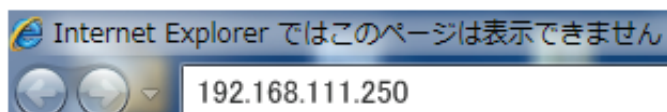
●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

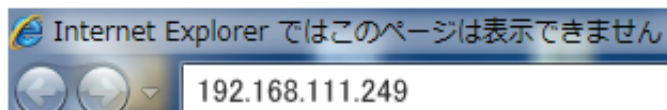
→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、

「192.168.111.249」とメモに取ります。

例） 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

5. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 4 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

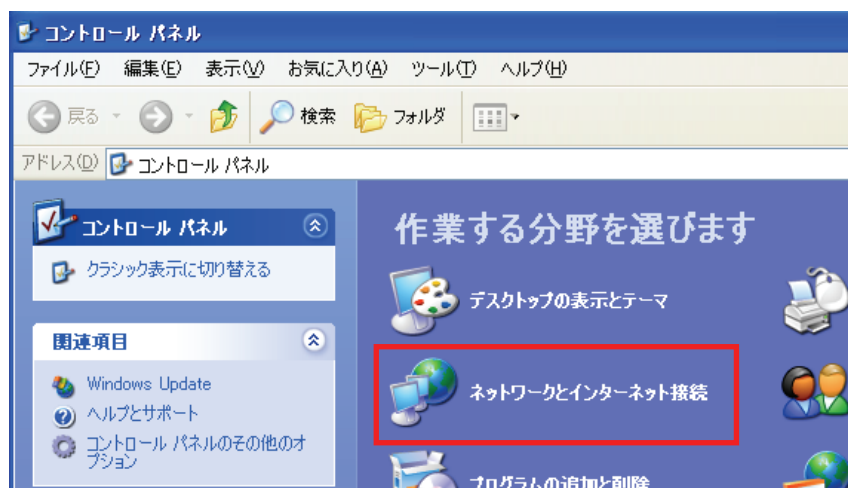
●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

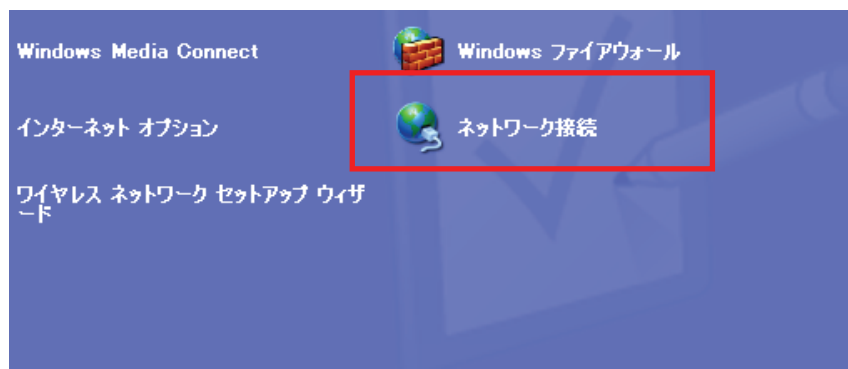
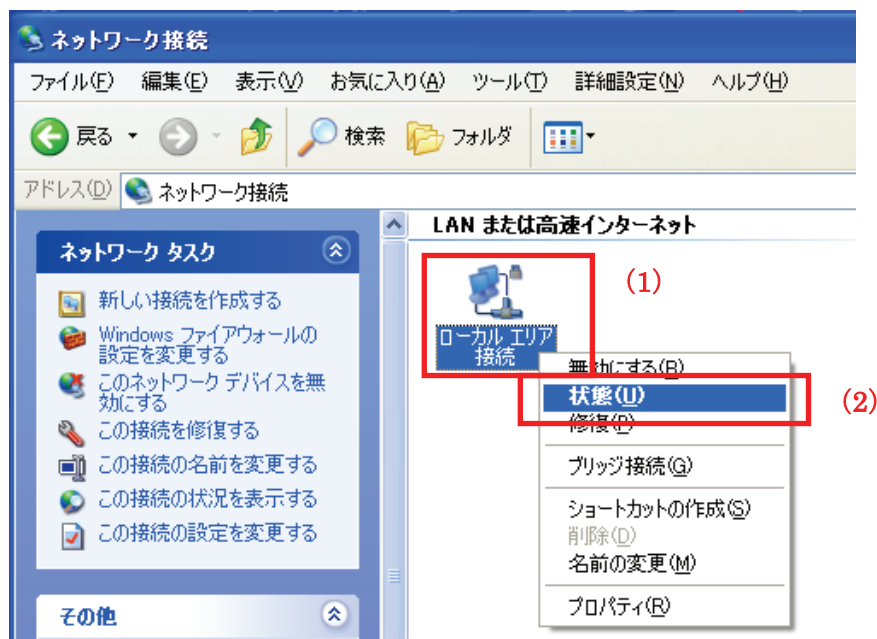
●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

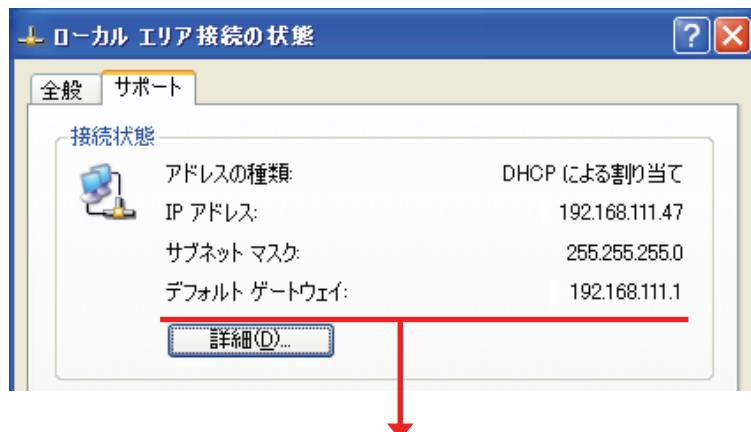
6. 「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

■ Windows XP のとき

1. ①「スタート」ボタンをクリックします。
   ②「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

※クラシック表示のときは、「ネットワーク接続」をダブルクリックし、手順 4 に進みます。

3. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックをクリックします。

4. ①「ローカルエリア接続」のアイコンを右クリックします。
   ②「状態」をクリックします。

5. 「サポート」タブをクリックします。

6. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「デフォルト ゲートウェイ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、

「192.168.111250」とメモに取ります。

例) 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

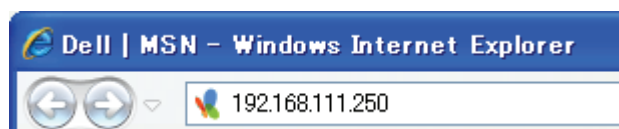
●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

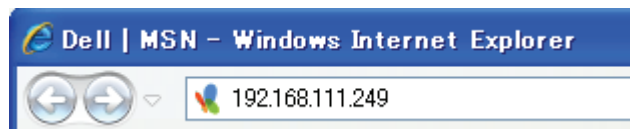
→上記の画面のように「IPv4 デフォルト ゲートウェイ」が「192.168.111.1」のときは、

「192.168.111.249」とメモに取ります。

例) 「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

7. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 6 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

8. 「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

■ Mac OS X のとき

1. ①「アップルメニュー」をクリックします。
   ②「システム環境設定」をクリックします。

2. 「ネットワーク」をクリックします。

3. 画面左の「Ethernet...」をクリックします。
   ※Mac OS X 10.4 のときは、「表示」欄から「（内蔵）Ethernet」を選択し、「TCP/IP」タブをクリックします。

4. ネットワーク接続の詳細画面に表示された「ルータ」の IP アドレスを確認し、以下のようにメモを取ります。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「ルータ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111250」とメモに取ります。**

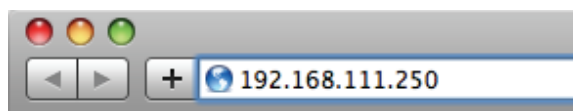
例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.250」となります。

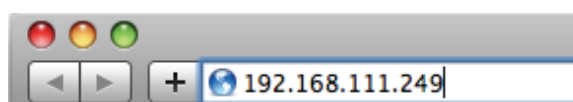
●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

→上記の画面のように「ルータ」が「192.168.111.1」のときは、**「192.168.111.249」とメモに取ります。**

例）「192.168.3.1」のときは、「192.168.3.249」となります。

5. WEB ブラウザを起動し、アドレス欄に手順 4 でメモした IP アドレスを入力して、<Enter>を押します。

●アクセスポイントモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

●コンバータモードで動作している本製品にログインするとき

※左記の画面はサンプルです。

6. 「5.1 設定画面の表示方法」の手順 3 に戻ります。

5.2 無線 LAN セキュリティを変更する

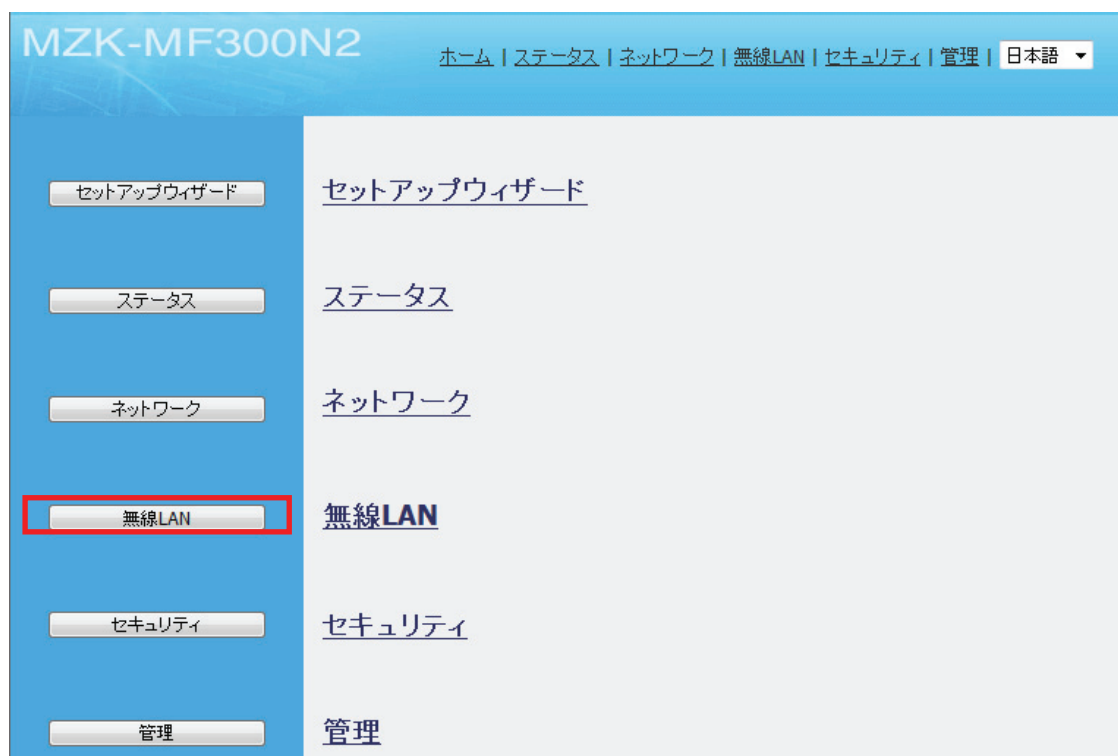
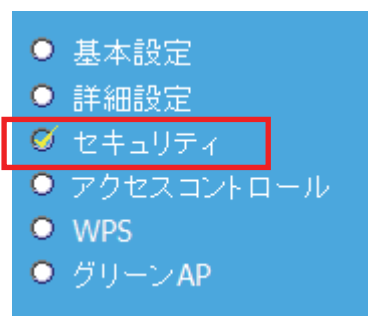
本製品は、携帯ゲーム機が簡単に接続出来る様に、暗号化がかけられていないアクセスポイントが設定されています。環境によっては大切なデータを傍受される恐れがありますので、お使いになる機器に合わせた暗号化の設定を行って下さい。

※別紙「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」にてご説明しているアクセスポイント「ap−pc−●●●●●●」(パソコン・iPhone 用)には、暗号化が初期設定されています。すでにパソコンやスマートフォンを接続したときはそのままご使用ください。

以下は、各機器の無線LANの暗号化対応表です。
例えば、本製品のゲーム機用アクセスポイント「ap-game-●●●●●●」に、**DS Lite**と**Wii**を接続する場合は、DS Liteが「WPA2-PSK」に対応していないため、**両機が対応している「WEP」の選んで設定を行います。**暗号化を設定する際は、以下の表より暗号化の対応内容を確認し、設定を行ってください。

暗号化の	パソコン		スマートフォン		ゲーム機					
種類	Windows	Mac OS X	iPhone/iPad	GALAXY Tab	DS Lite	DSi/DSi LL	3DS	Wii	PSP	PS3
WEP	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
WPA2-PSK	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○

※「WEP」より「WPA2-PSK」の方がセキュリティは強固です。接続する機器が全て「WPA2-PSK」に対応しているときは、「WPA2-PSK」を選んで設定してください。

1. [無線 LAN]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　「セキュリティ」をクリックします。

3.　暗号化（セキュリティ）の設定をします。

※ここで設定する設定値は、無線通信する機器（パソコンやゲーム機など）に設定するときに必要になります。
　メモに控えることをお勧めします。

（1）SSID を選びます。

※ここでは「ap-game-xxxxxx」を選んでいます。

（2）暗号化を選びます。

- 「WEP」を選択するときの設定は、**【WEP のとき】**（P53）をご参照ください。
- 「WPA プレシェアードキー」を選択するときは、**【WPA プレシェアードキーのとき】**（P54）をご参照ください。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
SSID の選択	暗号化を設定する SSID を選びます。 仮想 AP を設定しているときは、リストから該当する SSID を選びます。
暗号化	暗号化方式を「無効」、「WEP」、「WPA プレシェアードキー」のいずれかから選びます。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

【WEP のとき】

セキュリティ

SSID選択： ap-game-xxxxxx
暗号化： WEP (1)
キー長： 64-bit (2)
キーフォーマット： 文字列 (5 文字) (3)
暗号キー： ***** (4)
(5) 適用 キャンセル

(1) 「暗号化」より「WEP」を選びます。

(2) 「キー長」より「64-bit」または「128-bit」を選びます。

(3) 「キーフォーマット」より「16 進数」または「文字列」を選びます。

※「キー長」にて「64-bit」を選んだとき

→キーフォーマットが「文字列(5 文字)」、「16 進数(10 文字)」と表示されます。

※「キー長」にて「128-bit」を選んだとき

→キーフォーマットが「文字列(13 文字)」、「16 進数(26 文字)」と表示されます。

(4) 任意の暗号キーを半角英数で入力します。

以下のルールにしたがって入力してください。

	「キーフォーマット」で「**16 進数**」を選択	「キーフォーマット」で「**文字列**」を選択
「キー長」で「**64-Bit**」を選択	**10 文字**の暗号化キーを入力	**5 文字**の暗号化キーを入力
「キー長」で「**128-Bit**」を選択	**26 文字**の暗号化キーを入力	**13 文字**の暗号化キーを入力

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※文字列の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(5) [適用]をクリックします。

「5.2 無線 LAN セキュリティを変更する」の手順 4 に進みます。

【WPA プレシェアードキーのとき】

(1)「暗号化」より「WPA プレシェアードキー」を選びます。

(2)「WPA ユニキャスト暗号スイートより、「WPA(TKIP)」、「WPA2(AES)」、「WPA2(Mixed)」から認証方式を選びます。

(3)「共有キーフォーマット」より「パスフレーズ」または「16 進数(64 文字)」のいずれかを選びます。

(4) 任意の暗号キーを半角英数で入力します。

以下のルールにしたがって入力してください。

	「共有キーフォーマット」で「**16 進数**」を選択	「共有キーフォーマット」で「**パスフレーズ**」を選択
暗号化キー	**64 文字**の暗号化キーを入力	**8～63 文字**の間で暗号化キーを入力

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※文字列の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(5) [適用]をクリックします。

「5.2　無線 LAN セキュリティを変更する」の手順 4 に進みます。

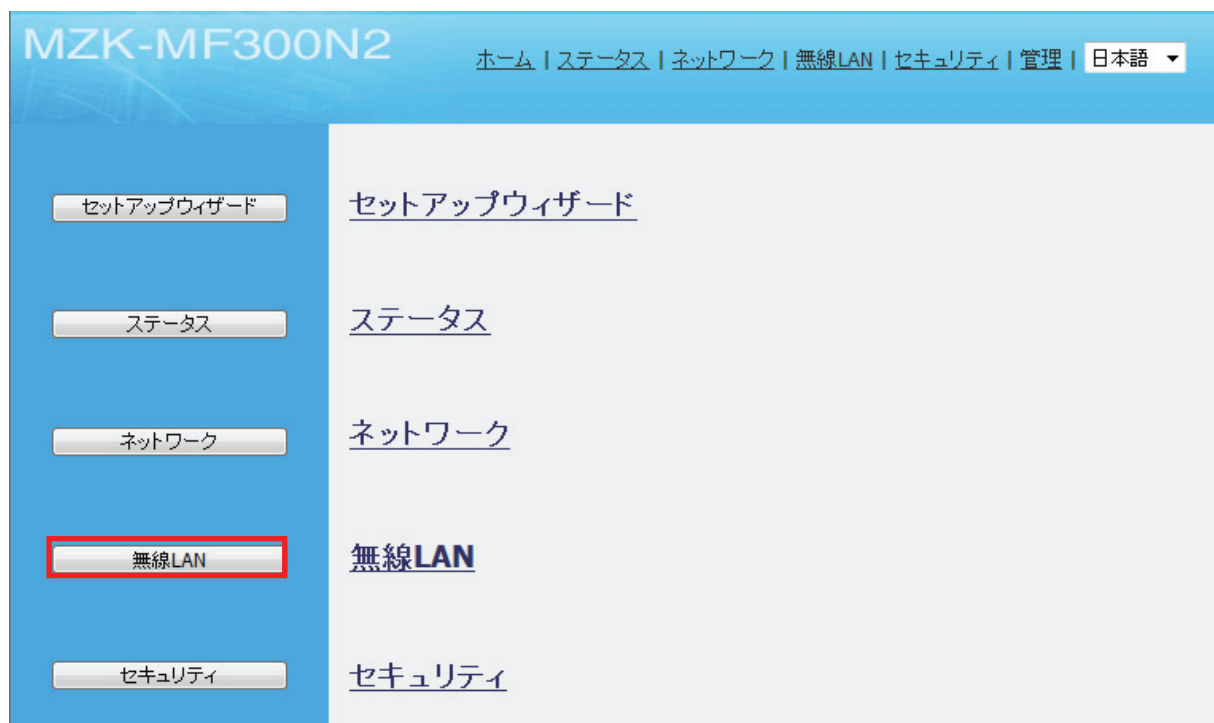
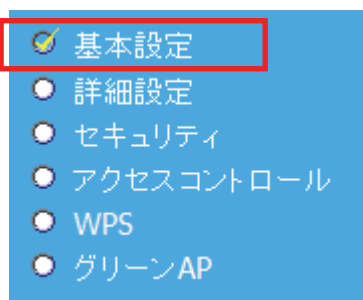
5.3 マルチ SSID を設定する

ここでは、マルチ SSID の設定を行います。本製品は最大 5 つの SSID を登録して使用することができます。必要に応じて 3 つ目以降の SSID を設定し、通信制御やセキュリティ設定を行います。
本製品は、設定できる SSID を「SSID」(メイン)、「仮想 AP1」～「仮想 AP4」として扱います。

[マルチ SSID について]

1 台の無線アクセスポイントに複数の SSID を登録して、複数の無線アクセスポイントがあるかのように使うことができる機能です。

1. [無線 LAN]をクリックします。

※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「基本設定」をクリックします。

3. SSID を追加します。
[仮想 AP]をクリックします。

4. [仮想 AP]クリックすると、仮想 AP 一覧画面が表示されますので、この画面で仮想 AP 1～仮想 AP 4 の設定を行います。
(1)追加する「仮想 AP1」～「仮想 AP4」の「有効」のチェックボックスにチェックを入れます。
(2)任意にネットワーク名を入力します。
※ネットワーク名は半角英数 32 文字以内で入力してください。
(3)[適用]をクリックします。

項目名	動作
仮想 AP の有効	仮想 AP を有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期値は「仮想 AP1」のみ「有効」です。
SSID	SSID（ネットワーク名）を半角英数で入力します。 ※初期値は「AP1：ap-game-XXXXXX」です。X 部分は製品ごとに異なります。
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 ※初期値は「有効」です。
WMM	データ伝送機能の WMM を使用しないとき、「無効」にします。 ※初期値は「有効」です。
接続中の無線クライアント	[接続中の無線クライアント]をクリックすると、無線クライアントとの通信情報を表示します。

5.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

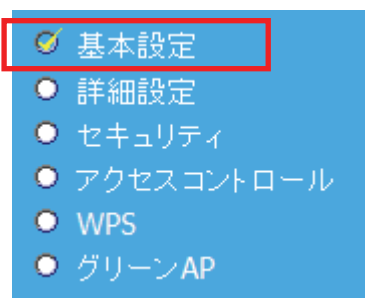
6.　再起動したら[閉じる]をクリックします。

7.　セキュリティを設定します。
設定方法については「5.2　無線 LAN セキュリティを設定する」を参照してください。

以上で設定の完了です。

5.4 SSID を非表示にする

ここでは、SSID の非表示設定を行います。

1. ［無線 LAN］をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「基本設定」をクリックします。

3. 設定します。

(1)「SSID の通知」で「無効」をクリックします。

(2)[適用]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

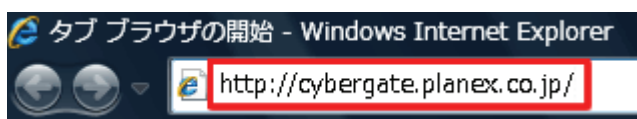
5. 5 ダイナミック DNS を設定する

5.5.1 ダイナミック DNS の登録

本製品は、「CyberGate – DDNS –」、「DynDNS」などのダイナミック DNS サービスに対応しています。
本製品にダイナミック DNS の設定をするときは、あらかじめダイナミック DNS 側の登録を済ませておいてください。

本紙では、「CyberGate – DDNS –」の登録方法をご紹介します。
既にダイナミック DNS サービスの登録が完了しているときは、「5.5.2 ダイナミック DNS の設定」より本製品の設定を行ってください。

■アカウントの登録

1. WEB ブラウザのアドレス欄に「http://cybergate.planex.co.jp/」を入力し、「CYBER GATE」のホームページを表示します。

2. CyberGate – DDNS –のトップページの右メニュー「会員登録」ボタンをクリックします。

※「adobe Flash Player」がインストールされていないときは、インストール画面が表示されますので、インストールを実行してください。
※「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたときは、[はい]または[続行]をクリックしてください。

3. 「会員規約」が表示されます。 規約内容を確認が終わったら[同意する]ボタンをクリックします。

4.「メールアドレス入力フォーム」が表示されます。

(1)メールアドレスを入力します。

*は必須項目になります。

(2)[規約に同意してメールアドレス送信]ボタンをクリックします。

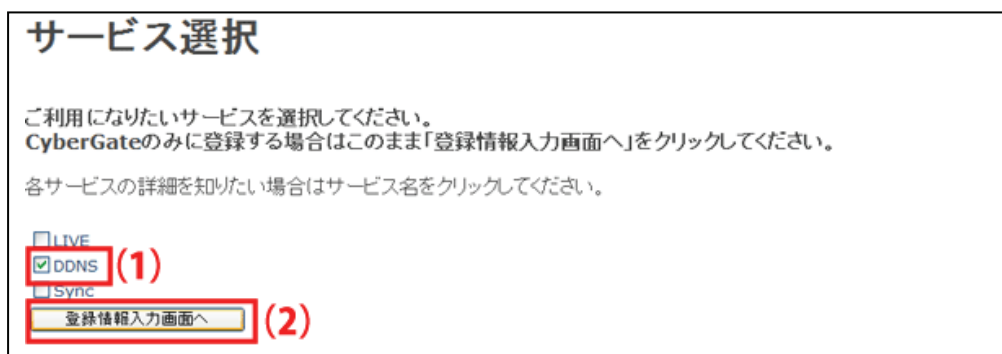
▼

「xxxx@xxxx.xx.xx 宛にメールを送信しました。」が表示されます。

5.「CyberGate 登録確認」メールが登録したメールアドレス宛てに届きます。

「http://cybergate.planex.co.jp/cgi-bin…」で始まるキーフレーズをクリックします。

CyberGateへようこそ。
サービスの申込みをご希望の方は次のリンクをクリックしてください。
新規会員登録へ進みます。

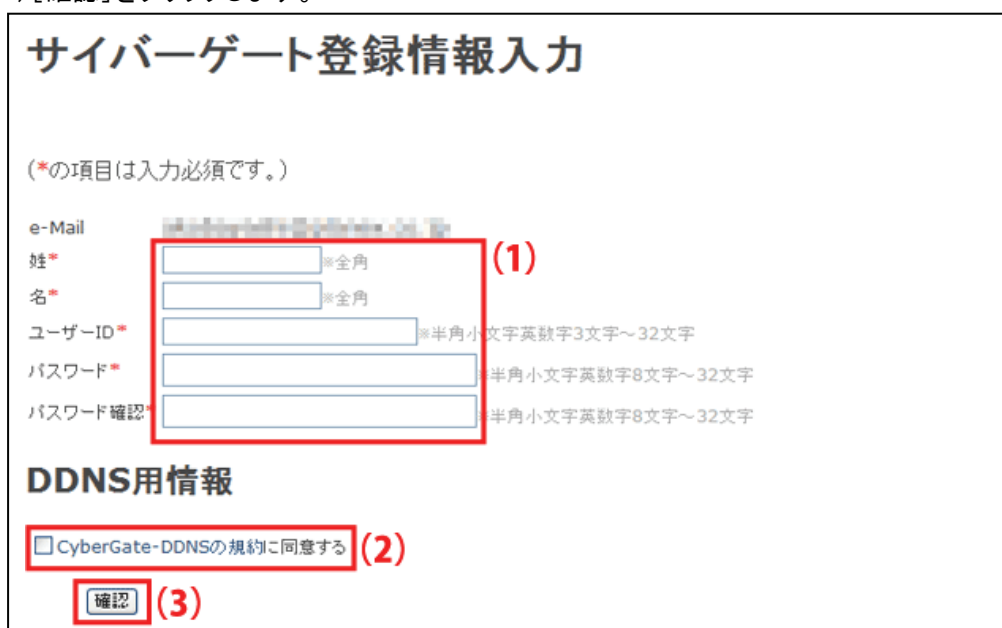
https://cybergate.planex.co.jp/cgi-bin/signup-selservice.cgi?mail=%f5%2e%1e%2dH%3b9%b5%2e%f0

ご注意：上記リンクの有効期限は2日間となります。期限が切れた情報での
再登録はできませんので予めご了承ください。

この電子メールの受信に心当たりのない場合は、お客様側で登録のキャンセル
を行っていただく必要はありません。
CyberGateで登録情報を無効にいたしますので、今後お客様に電子メールが送信
されることはございません。

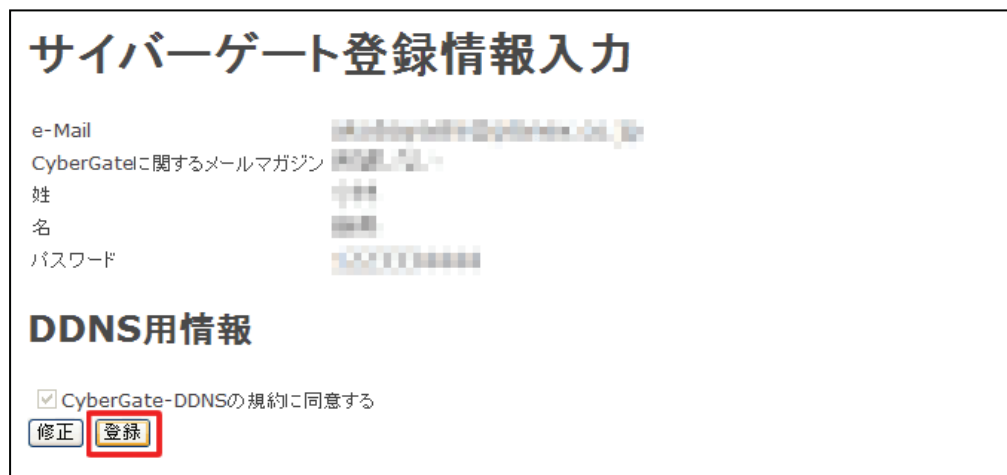
6. 「サービス選択」が表示されます。

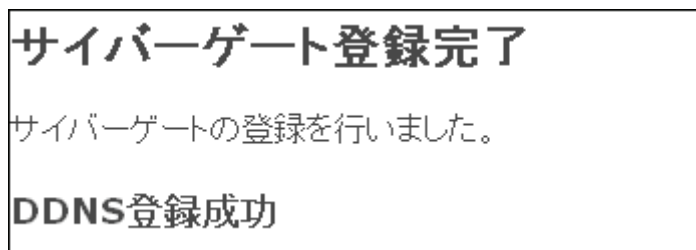
(1)「DDNS」にチェックを入れます。

(2)[登録情報入力画面へ]をクリックします。

7. 「サイバーゲート登録情報入力」が表示されます。

※「ユーザ ID」と「パスワード」は後の手順で使用するので、メモなどに控えてください。

(1) 以下の内容を入力します。

- ・姓 ： 全角で姓を入力します。
- ・名 ： 全角で名前を入力します。
- ・ユーザーID ： 半角小文字英数字でご希望のユーザーID を入力します。(3～32 文字)
- ・パスワード ： 半角小文字英数字でご希望のパスワードを入力します。(3～32 文字)
- ・パスワード確認 ： 上記で入力したパスワードを再度入力します。

(2)「CyberGate-DDNS の規約に同意する」にチェックを入れます。

(3) [確認]をクリックします。

8.「サイバーゲート登録情報入力」の確認画面が表示されます。
登録内容を確認し、[登録]をクリックします。

9. 登録の完了です。お手元に「CyberGate -DDNS- 登録完了」メールが届きます。

サイバーゲート登録完了

サイバーゲートの登録を行いました。

DDNS登録成功

以上で、登録は完了です。

■ホスト名の登録

1. 「CyberGate -DDNS- 登録完了」メールから CyberGate のトップページを開き、登録した「ID」と「パスワード」を入力して「ログイン」ボタンをクリックしてください。

2. ログインするとユーザ管理ページが表示されます。

3. ダイナミック DNS の設定を行います。

右メニューの「CYBER GATE DDNS」をクリックします。

4. 「CyberGate – DDNS –ホストの追加」を選択します。

5. 「サブドメイン」、「ドメイン」設定画面が表示されます。

※「サブドメイン」と「ドメイン」は後の手順で使用するので、メモなどに控えてください。

(1)「ご希望のサブドメイン」に任意のサブドメインを入力します。

(2)ご希望のドメインを選んで、[確認]をクリックします。

6. [送信]をクリックします。

7. 「登録しました」が表示された後、「現在登録中の DDNS ホスト名一覧」が表示されます。

現在登録中のDDNSホスト名一覧

ホスト名	IPアドレス	IPアドレス変更	削除
.luna.ddns.vc	オフライン	変更	削除

新たにDDNSのホスト名を取得する場合はここをクリック。

-DDNS- メニューへ

以上で、設定は完了です。

引き続き、「5.5.2　ダイナミック DNS の設定」より本製品の設定を行ってください。

5.5.2 ダイナミック DNS の設定

本製品に登録したダイナミック DNS の情報を設定します。
本製品に登録しているユーザー名、パスワード等を設定することで、本製品の WAN 側の IP アドレスを定期的にダイナミック DNS サービスに通知します。

1. 「管理」をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「ダイナミック DNS の設定」をクリックします。

3. ダイナミック DNS の設定をします。

■Cybergate のとき

※あらかじめ「CyberGate – DDNS –」の登録を済ませておいてください。

(1)「有効」を選びます。

(2)「Cybergate」を選びます。

(3)「Cybergate」で登録したドメイン名を入力します。

(4)「Cybergate」で登録したサブドメイン名を入力します。

(5)「Cybergate」で登録したパスワードを入力します。

(6) [適用]をクリックします。

ワンポイント

ダイナミック DNS の設定例は以下を参考にしてください。

DNS プロバイダ	:	Cybergate
ドメイン名	:	planex.ddns.vc （test.planex.ddns.vc のとき）
ユーザー名	:	test （test.planex.ddns.vc のときは、サブドメイン名「test」を登録）
パスワード	:	******

手順 4 に進みます。

■DynDNS のとき

※あらかじめ「DynDNS」の登録を済ませておいてください。

(1)「DDNS を有効にする」にチェックを入れます。

(2)「Dyndns」を選びます。

(3)「Dyndns」で登録した Dynamic DNS Hosts を入力します。

(4)「Dyndns」で登録した Username を入力します。

(5)「Dyndns」で登録した Password を入力します。

(6)[適用]をクリックします。

手順 4 に進みます。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上でダイミナック DNS の設定は完了です。

ネットワークカメラを公開したり、本製品の LAN 側にある機器(パソコンなど)をサーバとして公開するときは、引き続き、「5.5.3 ポートを開放する」を参照してください。

5.5.3 ポートを開放する

ネットワークカメラを公開したり、本製品の LAN 側にある機器（パソコンなど）をサーバとして公開するときに利用します。

特定のポートに対して外部（インターネット）からアクセスがあったとき、本製品の LAN 側にある機器（パソコンなど）に通信を転送する設定をおこないます。 最大 20 個まで設定できます。

※パソコンの IP アドレスは、手動で設定する方法を推奨します。

設定方法は「7.3 IP アドレスの設定」の「7.3.2 手動設定」を参照してください。

1. ［セキュリティ］をクリックします。

※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「仮想サーバ」をクリックします。

DMZ設定
URLフィルタ
MACフィルタ
IPフィルタ
Portフィルタ
仮想サーバ
VLAN

3.　仮想サーバを設定します。

(1)仮想サーバとして設定したい機器(パソコンなど)のローカル IP アドレスを入力します。

(2)開放するポート番号のを入力します。

例）WEB ポート　　:80

VIDEO ポート　　:4321

VIDEO ポート　　:4322

RTSP ポート　　:554　　など

(3)「両方」、「TCP」、「UDP」からプロトコルを選びます。

※通常は「両方」を選びます。

(4)「公開ポート」に、手順(2)で「ローカル Port」に入力した同じ番号を入力します。

(5)任意にコメントを入力します。

(6)[追加]をクリックします。

※複数登録するときは、上記の手順(1)～(6)を繰り返します。

(7)「仮想サーバを有効にする」にチェックを入れます。

(8)「現在の仮想サーバテーブル」に登録された情報を確認し、[適用]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

仮想サーバの設定例は以下を参考にしてください。

仮想サーバを有効にする	:	チェックを入れます
ローカル IP	:	192.168.111.xxx（ポート開放したい機器）
ローカル Port／ 公開ポート	:	80
プロトコル	:	両方
コメント	:	WebServer

※仮想サーバと DMZ ホストでは仮想サーバが優先されます。仮想サーバで設定されてないポート宛てのパケットが DMZ ホストに転送されます。

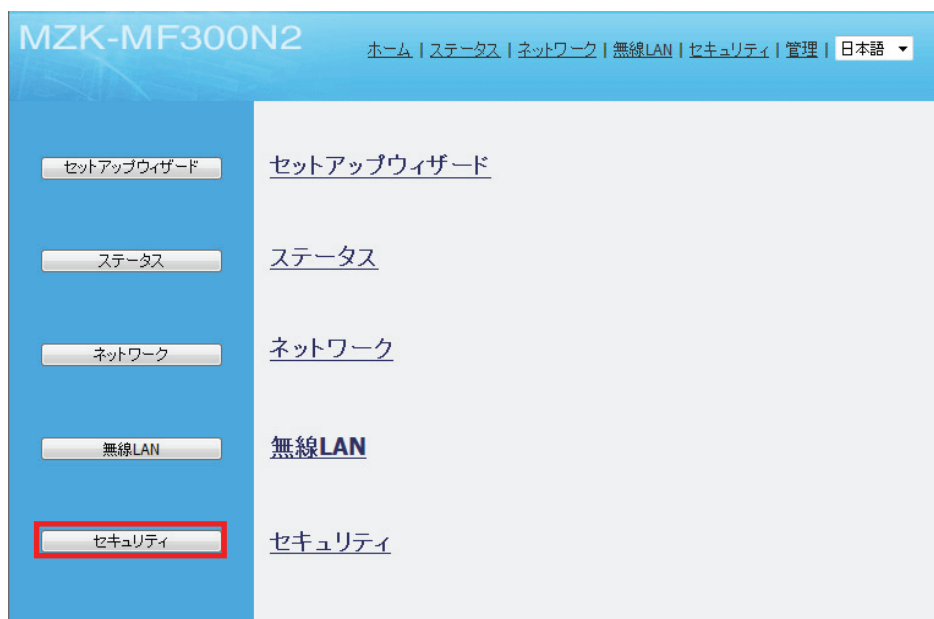
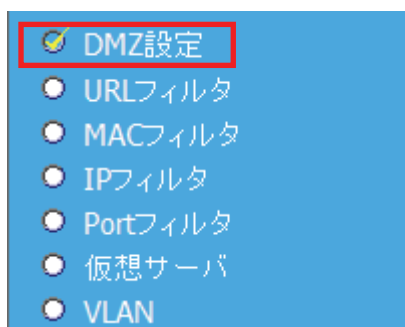
5. 6 セキュリティを設定する

セキュリティ設定に関して説明します。
※セキュリティ設定は、ルータモードのみとなります。
※本製品のモードを確認するには、本製品左側面のモード切替スイッチを確認してください。

5.6.1 DMZ の設定

ここでは、LAN 上の機器に Internet からアクセスできるように設定します。インターネット側からの通信のうち、仮想サーバに設定されていないすべての通信が DMZ ホストに転送されます。

※DMZ ホストに設定したパソコンにはセキュリティ制限がなくなります。また、DMZ ホストに設定したパソコン側でのセキュリティ対策が必要になりますので、ご注意ください。

1. ［セキュリティ］をクリックします。
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2.　「DMZ 設定」をクリックします。

3.　DMZ ホストを設定します。

(1)「DMZ を有効にする」にチェックを入れます。

　※初期値は無効です。

(2)DMZ 対象とする機器の IP アドレスを入力します。

(3)[追加]をクリックします。

　「DMZ テーブル」に追加した内容が登録されます。

(4)「DMZ テーブル」に登録された情報を確認し、[適用]をクリックします。

項目	動作
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・「DMZ テーブル」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[消去]をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、[全て消去]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

DMZ の設定例は以下を参考にしてください。

DMZ を有効にする　：チェックを入れます

クライアント PC IP アドレス　：192.168.111.xxx

5.6.2 URL フィルタの設定

ここでは、登録した URL またはキーワードを含むサイトへの接続を拒否するよう設定します。
最大 20 個まで設定できます。

1. ［セキュリティ］をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「URL フィルタ」をクリックします。

DMZ設定
URLフィルタ
MACフィルタ
IPフィルタ
Portフィルタ
仮想サーバ
VLAN

3.　URL フィルタを設定します。

(1)アクセスを制御したい URL アドレスを入力します。

(2)[追加]をクリックします。

※複数の URL フィルタを登録するときは、上記の手順(1)(2)を繰り返します。

(3)「URL フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

(4)「現在の URL フィルタテーブル」に登録された情報を確認し、[適用]をクリックします。

項目名	動作
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・「現在の URL フィルタテーブル」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[消去]をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、[全て消去]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

設定の保存に成功しました。

引き続き他の設定を行う場合は[継続]ボタンを押してください。すべての設定を反映し再起動するには[適用]ボタンを押してください。

継続　適用

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

OK

以上で設定の完了です。

ワンポイント

URL フィルタの設定例は以下を参考にしてください。

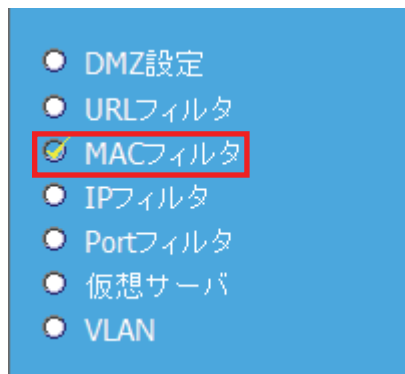
URL/キーワード	:	www.xxxxx.co.jp
URL フィルタを有効にする	:	チェックを入れます。

5.6.3 MAC アドレスフィルタの設定

ここでは、登録した MAC アドレスを持つ機器のインターネット接続を拒否または許可します。
最大 20 個まで設定できます。

1. ［セキュリティ］をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「MAC フィルタ」をクリックします。

DMZ設定
URLフィルタ
MACフィルタ
IPフィルタ
Portフィルタ
仮想サーバ
VLAN

3.　MAC フィルタを設定します。

(1)フィルタの対象となるパソコンの MAC アドレスを入力します。

※初期値は無効です。

(2)必要に応じてコメントを入力します。

(3)[追加]をクリックします。

※複数の MAC アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(1)～(3)を繰り返します。

(4)「MAC フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

(5)「拒否」または「許可」を選びます。

(6)「現在の MAC フィルタテーブル」に登録された情報を確認し、[適用]をクリックします。

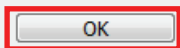
各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
拒否／許可	拒否：登録機器はインターネット接続が不可になります。 許可：登録機器のみインターネット接続が可能になります。 ※初期値は「拒否」です。
コメント	コメントを任意で入力します。(最大全角 12 文字、半角 16 文字)
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・「現在の MAC フィルタテーブル」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[消去]をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、[全て消去]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

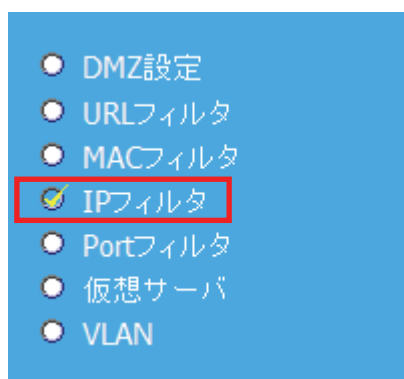
MAC アドレスフィルタの設定例は以下を参考にしてください。

クライアント PC MAC アドレス	:	XX:XX:XX:XX:XX:XX
コメント	:	WebClient
MAC フィルタを有効にする	:	チェックを入れます
拒否・許可	:	許可

5.6.4 IP アドレスフィルタの設定

ここでは、登録した IP アドレスの機器からの指定したプロトコルでの通信のみ可能となる設定をします。最大 20 個まで設定できます。

1. [セキュリティ]をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「IP フィルタ」をクリックします。

3.　IP フィルタを設定します。

(1)「クライアント PC 情報」に任意の情報を入力します。

(2)フィルタの対象となる LAN 側の IP アドレスを入力します。

※範囲指定ではなく一つのアドレスを入力するときは、左側にのみ入力してください。

(3)「両方」、「TCP」、「UDP」からプロトコルを選びます。

(4)［追加］をクリックします。

※複数の IP アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(1)～(4)を繰り返します。

(5)「IP フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

※初期値は無効です。

(6)追加した IP アドレスを「拒否」または「許可」にするか選びます。

(7)［適用］をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

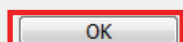
項目名	動作
クライアント PC 情報	情報を任意で入力します。(最大全角 12 文字、半角 16 文字)
IP フィルタを有効にする	IP フィルタリングを有効にするときは、ここにチェックを入れます。
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・一覧から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、［消去］をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、［全て消去］をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

設定の保存に成功しました。

引き続き他の設定を行う場合は[継続]ボタンを押してください。すべての設定を反映し再起動するには[適用]ボタンを押してください。

継続　適用

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

IP フィルタの設定例は以下を参考にしてください。

クライアント PC 情報	:	WebClient
クライアント PC IP アドレス	:	192.168.111.xxx（ローカルのパソコンの IP アドレス）
プロトコル	:	両方

5.6.5 ポートフィルタの設定

ここでは、登録したポート番号を開放し、開放したポート番号を利用する通信のみ可能となる設定をします。

1. ［セキュリティ］をクリックします。

 ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「Port フィルタ」をクリックします。

DMZ設定
URLフィルタ
MACフィルタ
IPフィルタ
Portフィルタ
仮想サーバ
VLAN

3. Port フィルタを設定します。

(1)「クライアント PC 情報」に任意の情報を入力します。

(2)開放するポート番号の範囲を入力します。

(3)通信を許可するプロトコルを「両方」、「TCP」、「UDP」からプロトコルを選びます。

(4)[追加]をクリックします。

※複数の IP アドレスフィルタを登録するときは、上記の手順(1)～(4)を繰り返します。

(5)「Port フィルタを有効にする」にチェックを入れます。

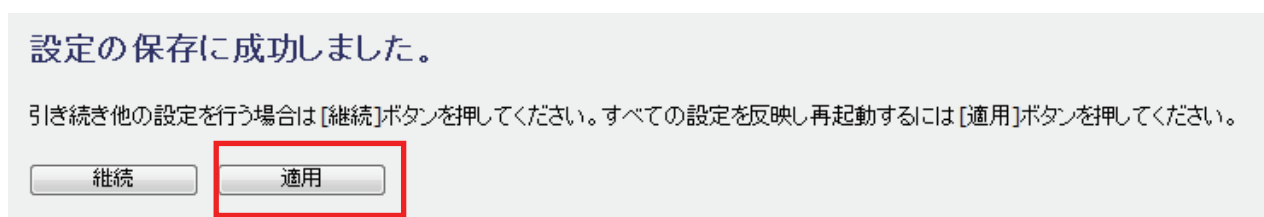
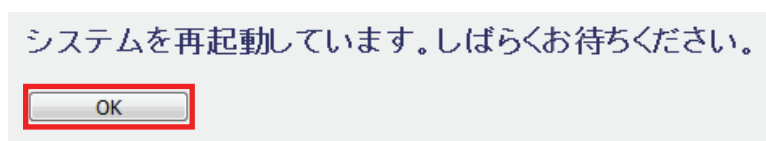
※初期値は無効です。

(6)追加したポート範囲を「拒否」または「許可」するか選びます。

(7)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
クライアント PC 情報	情報を任意で入力します。(最大全角 12 文字、半角 16 文字)
ポート範囲	ポート番号の範囲を指定します。 ※初期値は「1-65535」です。
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・一覧から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[消去]をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、[全て消去]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

ポートフィルタの設定例は以下を参考にしてください。

クライアント PC 情報 : WebServer
ポート範囲 : 80
プロトコル : 両方

5.6.6 VLAN の設定

ここでは、各ネットワークを任意に分割し、ネットワークグループを作成します。

1. ［セキュリティ］をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

2. 「VLAN」をクリックします。

3. VLAN を設定します。

VLAN

(1) ☑ VLANを有効にする

(2)

有効	有線/無線	WAN/LAN	タグ	VID(1~4090)	優先度	CFI
☐	有線LAN	LAN	☐	3022	7	☑
☐	無線AP	LAN	☐	1	0	☑
☐	仮想AP1	LAN	☐	1	0	☑
☐	仮想AP2	LAN	☐	1	0	☑
☐	仮想AP3	LAN	☐	1	0	☑
☐	仮想AP4	LAN	☐	1	0	☑
☐	有線WAN	WAN	☐	1	0	☑

適用　キャンセル

(3)

(1)「VLAN を有効にする」にチェックを入れます。

(2)下記の設定項目一覧を参考に VLAN の設定を行います。

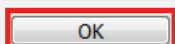
(3)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
有効	VLAN を定義するネットワークを指定します。 ※ブロードキャストをどのグループに送るかを決めます。
タグ	タグ VLAN を有効にします。 ※「タグ」にチェックを付けると有効になります。 ※複数の VID が存在する環境では、「タグ」を有効にすることをお勧めします。
VID(1～4090)	VLAN グループを設定します。 例えば、VID「1」 で設定したグループ内では通信が可能ですが、他のグループ(例:VID「10」)とは通信ができません。 ※グループは番号で設定します。
優先度	優先度を設定します。
CFI	CFI を設定します。 ※「CFI」にチェックを付けると有効になります。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

6. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

ワンポイント

VLAN の設定例は以下を参考にしてください。

VLAN を有効にする	:	チェックを入れます。
有効	:	無線 AP にチェックを入れます。
タグ	:	チェックを入れます。
VID	:	1
優先度	:	0
CFI	:	チェックを入れます。

5. 7　WDS の設定

ここでは、WDS（アクセスポイント間通信）の設定を行います。
本製品にはアクセスポイント間通信をするWDS 機能を搭載しています。離れた場所に設置した複数台の本製品同士を無線接続できます。

接続例
以下の接続環境を例に説明します。

■WDS の設定内容について

WDS 機能を使って、アクセスポイント間通信を行うには、以下の設定が必要です。
該当する各手順を参照して、「本製品 A」と「本製品 B」を設定してください。

（冒頭の接続図を例に説明します）

	本製品 A	本製品 B
モード	「Auto モード」に設定します。 ※設定方法は「2.3 各部の名称とはたらき」を参照	AP（アクセスポイント）モードに設定します。 ※設定方法は「2.3 各部の名称とはたらき」を参照
セキュリティ	メイン SSID のセキュリティを設定します。	本製品 A と同じセキュリティを設定します。
MAC アドレス	本製品 B の無線 LAN（BSSID）の MAC アドレスを設定します。 ※　BSSID の確認は「6.6.2　無線の構成」を参照	本製品 A の無線 LAN（BSSID）の MAC アドレスを設定します。 ※　BSSID の確認は「6.6.2　無線の構成」を参照
IP アドレス （LAN 側）	例：192.168.111.XXX	本製品 A と同じセグメントの IP アドレスを設定します。 例：192.168.111.ZZZ
DHCP	「自動」に設定します。 ※設定方法は「6.3.1 LAN　設定」を参照	「無効」に設定します。

※ LAN 側の IP アドレスが、それぞれの本製品で同一にならないように設定します。

（例）　1 台目の本製品が「192.168.111.1」のときは、2 台目の本製品を「192.168.111.240」のように、頭から 4 つ目の数値を重複しないように設定を変更します。

【本製品 A の設定】

本製品 A 側を設定します。**本手順ではセキュリティを「WPA」または「WPA2」に設定する手順で説明します。**

注意 1:　事前に本製品 A と本製品 B の無線 LAN 側 MAC アドレス(BSSID)を確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.6.2　無線の構成」を参照してください。

注意 2:　本製品のモード切替スイッチ(P18 参照)を「Auto」に設定してください。

1. 本製品 A の無線 LAN セキュリティを設定します。

WEB 設定画面の左メニューより、「無線 LAN」をクリックします。

2. セキュリティを設定します。

※ここで設定するセキュリティはアクセスポイント側の設定です。WDS 用は手順 7 にて行います。

※すでに「ap-pc-XXXXXX」に接続している機器があるときは、ここで設定する内容に変更してください。

(1)「セキュリティ」をクリックします。

(2)SSID の選択にて、「ap-pc-XXXXXX」を選びます。 (「XXXXXX」は製品ごとに異なります)

(3)「暗号化」から、「WPA プレシェアードキー」から選びます。

(4)「WPA ユニキャスト暗号スイート」を、「TKIP」、「AES」、「TKIP/AES」から選びます。

(5)「共有キーフォーマット」から、「16 進数(64 文字)」、または「パスフレーズ」を選びます。

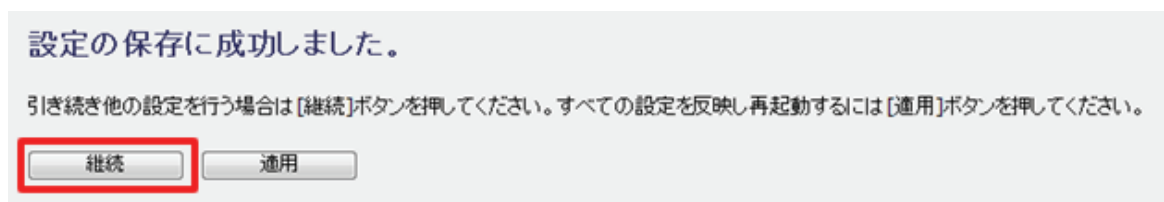
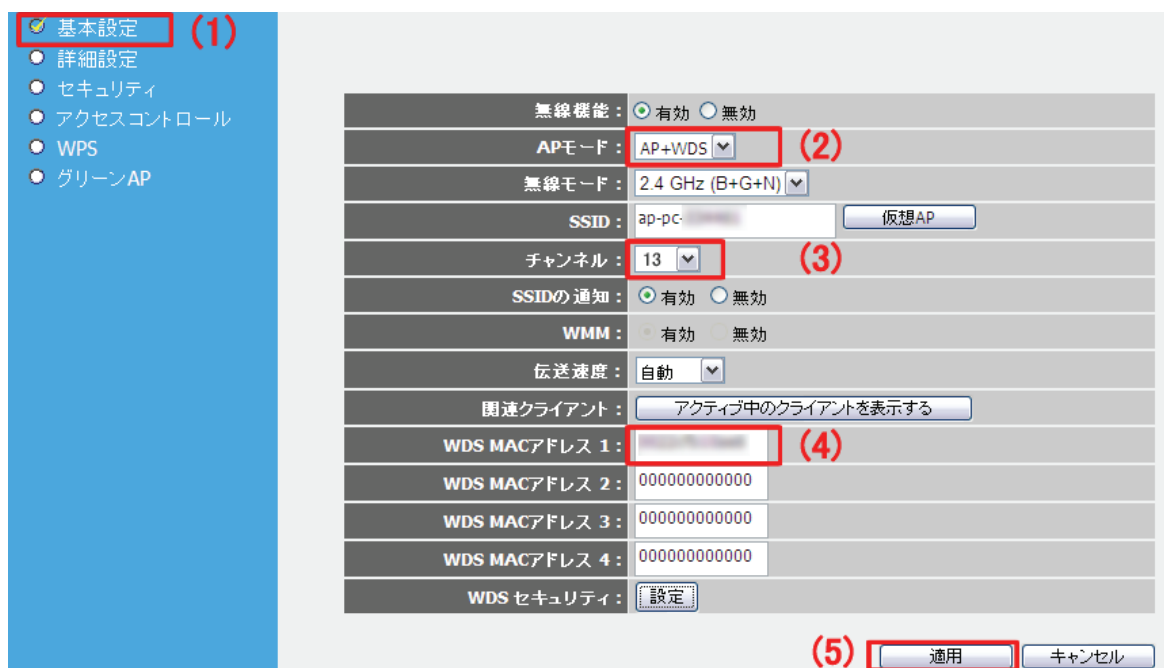
(6)任意の暗号化キーを半角英数で入力します。以下のルールにしたがって入力してください。

	(5)で「16 進数」を選んだとき	(5)で「パスフレーズ」を選んだとき
パスフレーズ	**64 文字で入力**	**8～63 文字の間で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※パスフレーズの入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(7)[適用]をクリックします。

3. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[継続]をクリックします。

4. WDS の設定を行います。

(1)「基本設定」をクリックします。

(2)「モード」で、「AP+WDS」を選びます。

(3)「1」～「13」の間で、「チャンネル」を任意に設定します。

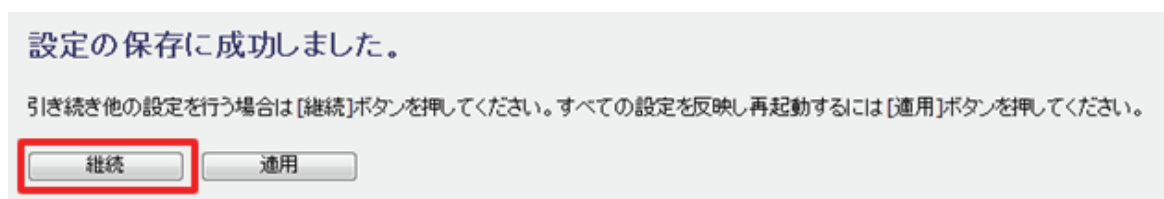
※「自動」は設定しないでください。

※ここで設定したチャンネルは本製品 B にも設定します。メモに控えてください。

(4)本製品 B の無線 LAN 側 MAC アドレスを入力します。

入力方法 ： 「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(5)[適用]をクリックします。

5. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[継続]をクリックします。

6. 「無線 LAN」の「基本設定」に戻ります。画面下「WDS セキュリティ」の[設定]をクリックします。

7. WDS 用のセキュリティを設定し、設定した内容をメモに控えます。
※メモした内容は、本製品 B の設定をするときに使用しますので、必ず控えてください。

(1)「WPA（TKIP）」または「WPA（AES）」を選びます。

(2)「パスフレーズ」または「16 進数 （64 文字）」を選びます。

(3)任意の暗号化キーを半角英数で入力します。以下のルールにしたがって入力してください。

	(2)で「パスフレーズ」を選択時	(2)で「16 進数(64 文字)」を選択時
プレシェアードキー	**8～63 文字の間で入力**	**64 文字で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※パスフレーズの入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(4)[適用]をクリックします。

8. 「設定の保存に成功しました。」と表示されます。[適用]をクリックし、本製品を再起動します。

以上、本製品 A の設定は完了です。

【本製品 B の設定】

本製品 B 側を設定します。**本手順ではセキュリティを「WPA」または「WPA2」に設定する手順で説明します。**

注意 1： 事前に本製品 A と本製品 B の無線 LAN 側 MAC アドレス(BSSID)を確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.6.2　無線の構成」を参照してください。

注意 2： 事前に本製品 A に設定された IP アドレスを確認し、メモに控えてください。
確認方法は、「6.3.1　LAN 設定」を参照してください。

IPアドレス：	192.168.1.250
サブネットマスク：	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ：	0.0.0.0

（上記の IP アドレス「192.168.1.250」は例です。実際の環境と設定値は異なります）

注意 3： 本製品のモード切替スイッチ(P18 参照)を「AP」(アクセスポイント)に設定してください。

1. 本製品 B の無線 LAN セキュリティを設定します。
   WEB 設定画面の左メニューより、「無線 LAN」をクリックします。

2. セキュリティを設定します。

(1)「セキュリティ」をクリックします。

(2)SSID の選択にて、「ap-pc-XXXXXX」を選びます。（「XXXXXX」は製品ごとに異なります）

(3)「暗号化」から、「WPA プレシェアードキー」から選びます。

(4)「WPA ユニキャスト暗号スイート」を、「TKIP」、「AES」、「TKIP/AES」から選びます。

(5)「共有キーフォーマット」から「16 進数（64 文字）」、または「パスフレーズ」を選びます。

(6)任意の暗号化キーを半角英数で入力します。以下のルールにしたがって入力してください。

	(5)で「16 進数」を選んだとき	(5)で「パスフレーズ」を選んだとき
パスフレーズ	**64 文字で入力**	**8～63 文字の間で入力**

※16 進数の入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～F、a～f」となります。

※パスフレーズの入力できる文字列は、数字「0～9」、英字「A～Z、a～z」となります。

(7)［適用］をクリックします。

3. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、［継続］をクリックします。

4.　WDS の設定を行います。

(1)「基本設定」をクリックします。

(2)「モード」で、「AP+WDS」を選びます。

(3)本製品 A の設定でメモした同じチャンネルを選びます。

(4)本製品 A の無線 LAN 側 MAC アドレスを入力します。

入力方法　：「00:11:22:33:44:55」のときは、「001122334455」と入力します。

(5)[適用]をクリックします。

5.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[継続]をクリックします。

6.「無線 LAN」の「基本設定」に戻ります。画面下「WDS セキュリティ」の[設定]をクリックします。

7. 本製品 A で設定した同じ WDS 用のセキュリティを設定します。

(1)本製品 A で設定した「WPA ユニキャスト暗号スイート」を選びます。

(2)本製品 A で設定した「共有キーフォーマット」を選びます。

(3)本製品 A で設定した暗号化キーを入力します。

(4)[適用]をクリックします。

8. 「設定の保存に成功しました。」と表示されます。[適用]をクリックし、本製品を再起動します。

9. IP アドレスを設定します。

(1)「ネットワーク」をクリックします。

(2)「LAN セットアップ」をクリックします。

(3)「DHCP モード」を「無効」にします。

(4)本製品 A に設定した IP アドレスに合わせて、本製品 B の IP アドレスを入力します。

例)本製品 A が「192.168.111.1」のときは、本製品 B は「192.168.111.240」と設定します。

※IP アドレスの右一つ目(例では 240 の部分)が重複しない「2」～「248」の数値を入力します。

(5)[適用]をクリックします。

10. 「設定の保存に成功しました。」と表示されます。[適用]をクリックし、本製品を再起動します。

以上、本製品 B の設定は完了です。

第 6 章:詳細設定

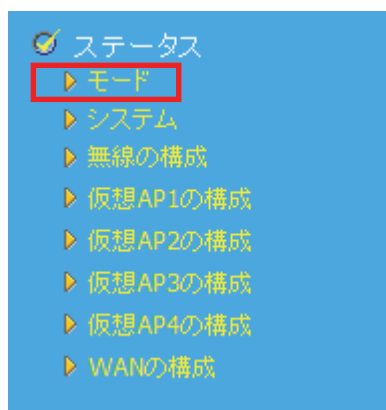
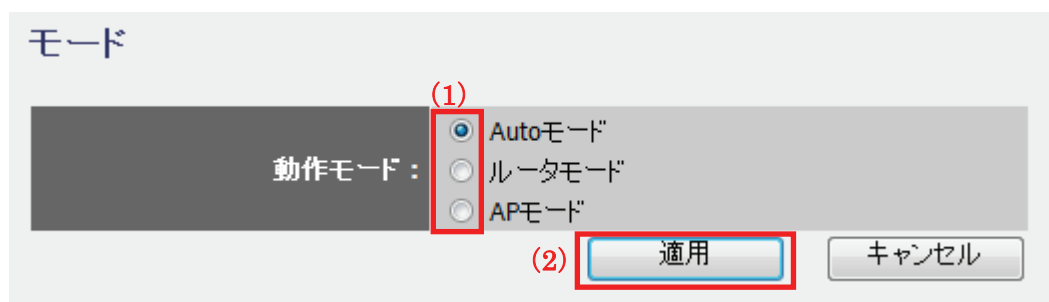
ここでは、各設定画面について説明します。
※設定画面の表示方法については「5.1 設定画面の表示方法」を参照してください。

6.1 モードを変更する

設定画面でモードを変更する方法を説明します。
本体のモード切替スイッチが「Auto」になっているときに、本製品はインターネット回線を判別し、ルータモードまたは AP モードへ自動切替をしています。その切替を設定画面において手動でおこなう方法です。
※設定画面ではコンバータモードへ変更することはできません。コンバータモードへ変更するときは、本体のモード切替スイッチで変更してください。
※本体のモード切替スイッチで変更したモードを優先します。
※本体のモード切替スイッチでモードを変更する方法は、「2.3 各部の名称とはたらき」を参照してください。

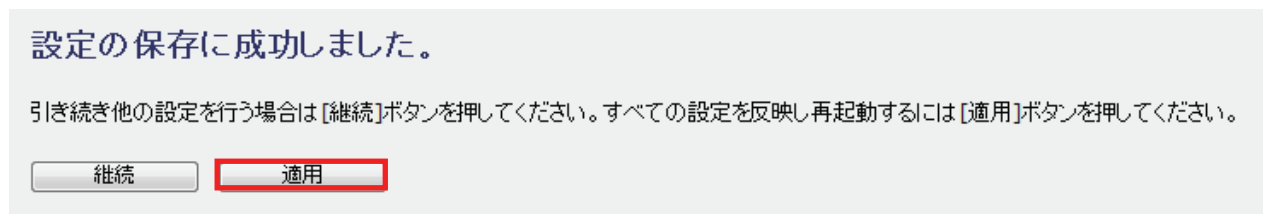
1. ［ステータス］をクリックします。
   ※設定画面の表示方法については「第 5 章 5.1 設定画面の表示方法 ルータモードのとき」を参照してください。

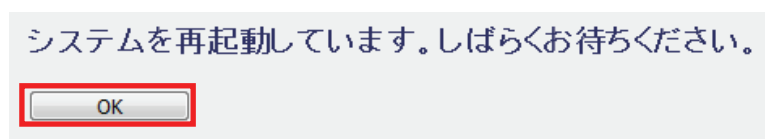
2.　「モード」をクリックします。

※「モード」は、本製品本体のモード切替スイッチが「Auto」になっているときのみ表示されます。

3.　以下の手順で設定します。

(1)モードを選びます。

※「Auto モード」に設定すると、本製品がインターネット回線を判別し、ルータモードまたは AP モードへの自動切替をおこないます。

(2)[適用]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

6.2 インターネット関連の設定

インターネット接続設定に関して説明します。
※本製品のモードを確認するには、「6.1 モードを変更する」を参照してください。
※本製品のモードを確認するには、本製品左側面のモード切替スイッチを確認してください。

WAN の接続タイプによって、設定画面が異なります。

- 通常接続（DHCP）でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.1 通常接続（DHCP）へ

- PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.2 PPPoE 接続へ

- 固定 IP でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.3 固定 IP 接続へ

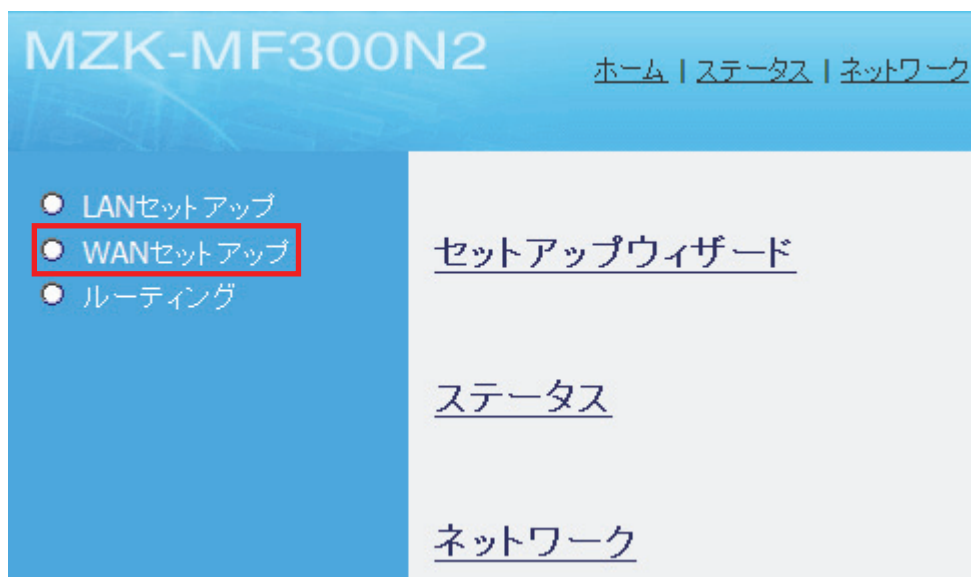
- マルチ PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.4 マルチ PPPoE 接続へ

- unnumbered PPPoE でインターネットに接続するとき
  ⇒ 6.2.5 unnumbered PPPoE 接続へ

6.2.1　通常接続（DHCP）

通常接続（DHCP）の設定方法を説明します。CATV などのご契約のときに行います。
CATV 回線の一部のプロバイダで MAC アドレス登録が必要なときは、下記の「ワンポイント」を参照してください。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」または「コンバータ設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1.　[ネットワーク]をクリックします。

2.　「WAN セットアップ」をクリックします。

3.　以下の手順で設定します。

WANセットアップ

WANの種類：	DHCP (1)	
ホスト名：	PCI	
MTU値：	1500 (1400-1500)	
DNS設定：	◉ 自動	
	○ 手動接続	DNS1：
		DNS2：
		DNS3：
MACアドレス：	000000000000 [MACアドレスコピー]	
UPnP：	○ 無効 ◉ 有効	
IGMPプロキシ：	○ 無効 ◉ 有効	
WAN側からのPing：	◉ 無効 ○ 有効	
WAN側からのサーバ接続：	◉ 無効 ○ 有効	
IPv6パススルー：	○ 無効 ◉ 有効	
IPsecパススルー：	○ 無効 ◉ 有効	
PPTPパススルー：	○ 無効 ◉ 有効	
L2TPパススルー：	○ 無効 ◉ 有効	

(2) [適用] [キャンセル]

(1)「DHCP 接続」を選びます。

(2)［適用］をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、［適用］をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　［OK］をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

[OK]

以上で設定の完了です。

ワンポイント

CATV 回線の一部のプロバイダによっては、MAC アドレス登録が必要なときがあります。
そのときは、[MAC アドレスコピー]ボタンをクリックし、設定用パソコンの MAC アドレスをコピーするか、プロバイダに登録してある MAC アドレスを「MAC アドレスコピー」欄に入力して、[適用]をクリックします。

項目名	動作
ホスト名（任意）	プロバイダなどの接続先を任意に入力します。
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 本製品に接続している機器の MAC アドレスを送らりたくないとき [MAC アドレスコピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

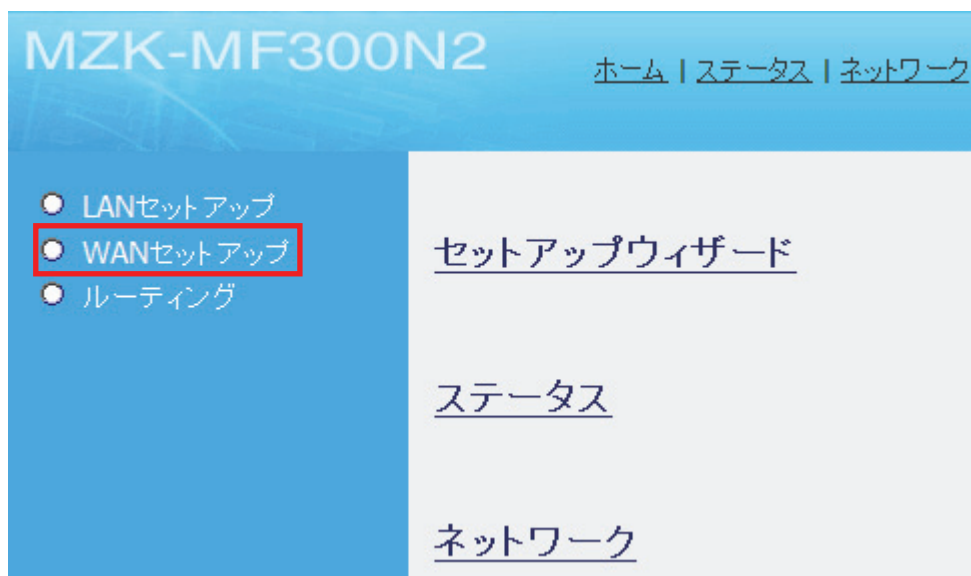
項目名	動作
MTU 値	MTU 値を設定します。 初期設定：「1500」 ※通常は初期設定のまま使用します。
DNS 設定	「自動」： ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」： プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 初期設定：「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 ※通常は「有効」にしてください。 初期設定：「有効」
WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」

IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 初期設定:「有効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信(通過)させます。 初期設定:「有効」

6.2.2　PPPoE 接続

PPPoE 接続の設定方法を説明します。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」または「コンバータ設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1. ［ネットワーク］をクリックします。

2. 「WAN セットアップ」をクリックします。

3.　以下の手順で設定します。

項目	設定
WANの種類：	PPPoE (1)
ユーザー名：	(2)
パスワード：	(3)
サービス名：	
接続タイプ：	◉ 常時接続 / ○ オンデマンド 待機時間：10 (1-1000分) / ○ 手動接続 [接続] [切断]
MTU値：	1454 (1360-1492)
DNS設定：	◉ 自動 / ○ 手動接続 DNS1： DNS2： DNS3：
MACアドレス：	000000000000 [MACアドレスコピー]
UPnP：	○ 無効 ◉ 有効
IGMPプロキシ：	○ 無効 ◉ 有効
WAN側からのPing：	◉ 無効 ○ 有効
WAN側からのサーバ接続：	◉ 無効 ○ 有効
IPv6パススルー：	○ 無効 ◉ 有効
IPsecパススルー：	○ 無効 ◉ 有効
PPTPパススルー：	○ 無効 ◉ 有効
L2TPパススルー：	○ 無効 ◉ 有効

(4) [適用] [キャンセル]

(1)「PPPoE 接続」を選びます。

(2)プロバイダから指定されたユーザー名(例:abc123@xyz.ne.jp)を半角で入力します。

(3)プロバイダから指定されたパスワード(例:abcDEF123)を半角で入力します。

(4)［適用］をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、［適用］をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. ［OK］をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

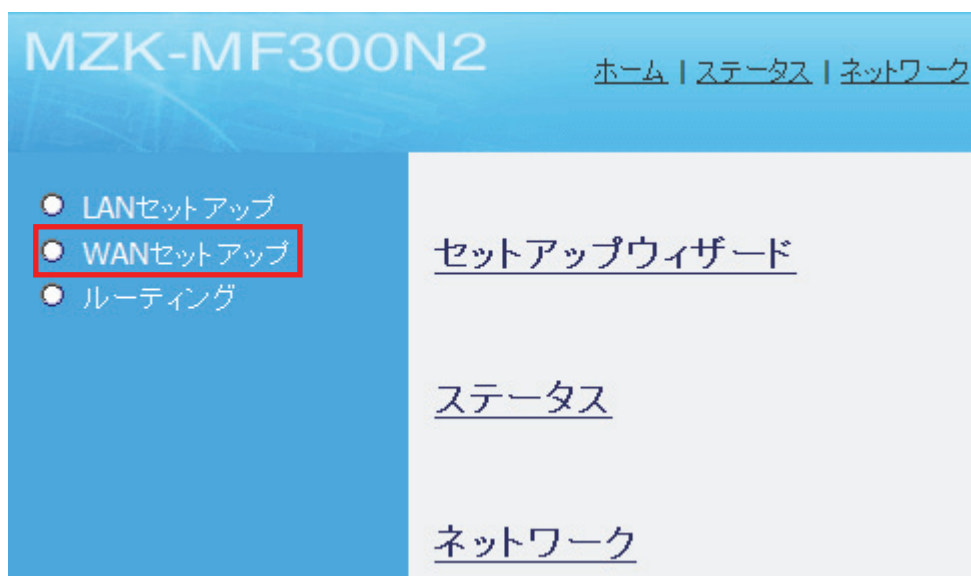
項目名	動作
サービス名	プロバイダから指定されているときのみ入力します。
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」・「切断」の操作を手動で行う必要があります。
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を設定します。 初期設定:「10」
MTU 値	MTU 値を設定します。 初期設定は「1454」です。 ※通常は初期設定のまま使用します。
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。
MAC アドレス	外部に送る MAC アドレスを登録します。 ［MAC アドレスコピー］ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。 インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 初期設定:「有効」

WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 初期設定：「有効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」

6.2.3　固定 IP 接続

固定 IP 接続の設定方法を説明します。
※固定 IP アドレスが割り当てられているとき（本製品の上位にルータがあるときなど）に設定します。
※付属の「ルータ・アクセスポイント設定ガイド」または「コンバータ設定ガイド」で設定を済ませているときは、ここでの設定は不要です。

1.　［ネットワーク］をクリックします。

2.　「WAN セットアップ」をクリックします。

3.　以下の手順で設定します。

WANセットアップ

項目	設定	
WANの種類：	固定IP	(1)
IPアドレス：	172.1.1.1	(2)
サブネットマスク：	255.255.255.0	(3)
デフォルトゲートウェイ：	172.1.1.254	(4)
MTU値：	1500	(1400-1500)
DNS1：		(5)
DNS2：		
DNS3：		
MACアドレス：	000000000000	MACアドレスコピー
UPnP：	○無効 ◉有効	
IGMPプロキシ：	○無効 ◉有効	
WAN側からのPing：	◉無効 ○有効	
WAN側からのサーバ接続：	◉無効 ○有効	
IPv6パススルー：	○無効 ◉有効	
IPsecパススルー：	○無効 ◉有効	
PPTPパススルー：	○無効 ◉有効	
L2TPパススルー：	○無効 ◉有効	

(6) [適用] [キャンセル]

(1)「固定 IP」を選びます。

(2)プロバイダや上位のルータから割り当てられた IP アドレスを入力します。

(3)プロバイダや上位のルータから割り当てられたサブネットマスクを入力します。

(4)プロバイダや上位のルータから割り当てられたデフォルトゲートウェイを入力します。

(5)プロバイダや上位のルータから割り当てられた DNS アドレスを入力します。

(6)[適用]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. ［OK］をクリックします。

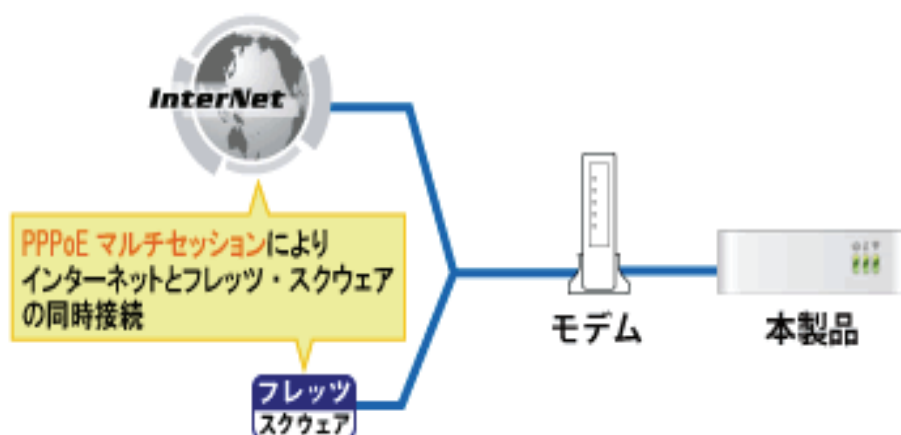
システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

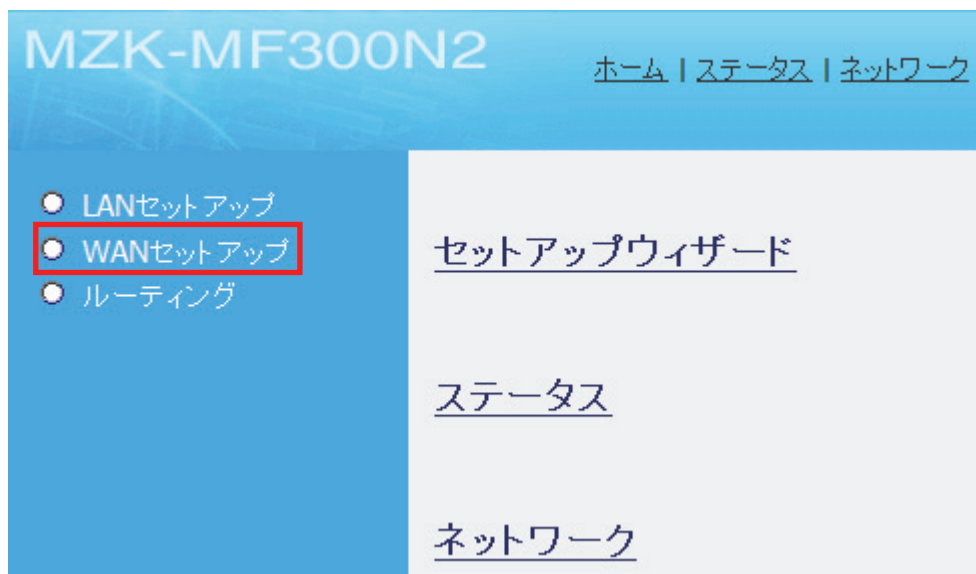
以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
MTU 値	MTU 値を設定します。初期設定は「1500」です。通常は初期設定のまま使用します。
MAC アドレス	外部に送る MAC アドレスを登録します。 ［MAC アドレスコピー］ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 初期設定：「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 初期設定：「有効」
WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 初期設定：「無効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 初期設定：「有効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」

6.2.4　マルチ PPPoE 接続

PPPoE マルチ（PPPoE マルチセッション）とは、一つの回線で複数のセッションに同時接続できる機能です。
本製品は、最大 2 つの PPPoE セッションに同時接続できます。

PPPoE マルチセッション接続の設定は以下の手順でおこないます。
(1)「PPPoE1」に 1 つ目のセッションを設定
(2)「PPPoE2」に 2 つ目のセッションを設定

1.　[ネットワーク]をクリックします。

2.　「WAN セットアップ」をクリックします。

3.　「PPPoE アカウント」を設定します。

(1)「マルチ PPPoE」を選びます。

(2)プロバイダから指定されたログイン ID(例:abc123@xyz.ne.jp)を半角で入力します。

(3)プロバイダから指定されたパスワード(例:abcDEF123)を半角で入力します。

4. 「フレッツアカウント」を設定します。

フレッツ・スクウェアへの接続設定を例に説明します。

※フレッツ・スクウェアへ接続するときの詳細についてはNTT東日本、NTT西日本のホームページも参照してください。

フレッツアカウント：	ユーザー名：	(1)
	パスワード：	(2)
サービス名：		
接続タイプ：	常時接続	
	オンデマンド	待機時間：10 (1-1000分)
	手動接続	接続 切断
MTU値：	1454	(1360-1492)
DNS設定：	自動	
	手動接続	DNS1：
		DNS2：
		DNS3：
MACアドレス：	000000000000	MACアドレスコピー
UPnP：	無効 有効	
IGMPプロキシ：	無効 有効	
WAN側からのPing：	無効 有効	
WAN側からのサーバ接続：	無効 有効	
IPv6パススルー：	無効 有効	
IPsecパススルー：	無効 有効	
PPTPパススルー：	無効 有効	
L2TPパススルー：	無効 有効	

(3) 適用 キャンセル

(1) 以下にしたがって、接続ユーザ名を入力します。

NTT 東日本	guest@flets
NTT 西日本	flets@flets

(2) 以下にしたがって、接続パスワードを入力します。

NTT 東日本	guest
NTT 西日本	flets

(3) [適用]をクリックします。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
サービス名	プロバイダから指定されているときのみ入力します。
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」･「切断」の操作を手動で行う必要があります。
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を設定します。 初期設定:「10」
MTU 値	MTU 値を設定します。初期設定は「1454」です。通常は初期設定のまま使用します。
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。
MAC アドレス	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC アドレスコピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。
UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部(インターネット)側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部(インターネット)側からの接続を「有効」／「無効」にします。 初期設定:「無効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ･ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ･v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 初期設定:「有効」

IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定：「有効」

5. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

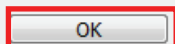
設定の保存に成功しました。

引き続き他の設定を行う場合は[継続]ボタンを押してください。すべての設定を反映し再起動するには[適用]ボタンを押してください。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

6. [OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

OK

以上で設定の完了です。

6.2.5 unnumberd PPPoE 接続

本製品は、Unnumbered PPPoE 接続に対応しており、複数の固定 IP アドレスを本製品に接続されたそれぞれのパソコンに割り当てることができます。
プロバイダから複数のグローバル IP アドレスを割り当てられるときは、1 つのサブネットとして連続したグローバル IP アドレスが割り当てられます。このうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)はシステムで予約されるため、ホスト(パソコンやサーバ)には使用できません。

以下の表は「Unnumbered PPPoE 接続」としてプロバイダから割り当てられた IP アドレスの設定例です。
例:プロバイダから 153.16.10.8～153.16.10.15 の 8 個のグローバル IP アドレスが割り当てられたとき

IP アドレス設定例

153.16.10.8	ネットワークアドレス	設定しません
153.16.10.9	ルータ用	本製品の WAN ポートに設定
153.16.10.10～14	ホスト用	パソコンに設定
153.16.10.15	ブロードキャストアドレス	設定しません

1. [ネットワーク]をクリックします。

2. 「WAN セットアップ」をクリックします。

3. 以下の手順で設定します。

(1)「Unnumbered PPPoE」を選びます。

(2)プロバイダから指定されたユーザー名(例:abc123@xyz.ne.jp)を半角で入力します。

(3)プロバイダから指定されたパスワード(例:abcDEF123)を半角で入力します。

(4)ルータに割り当てる IP アドレスを入力します

　(通常はプロバイダから指定された 2 番目のアドレスになります)。

(5)プロバイダ指定のサブネットマスクを入力します。

(6)[適用]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

設定の保存に成功しました。

引き続き他の設定を行う場合は[継続]ボタンを押してください。すべての設定を反映し再起動するには[適用]ボタンを押してください。

継続　適用

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

以下の項目については必要に応じて設定してください。

項目名	動作
サービス名	プロバイダから指定されているときのみ入力します。
接続タイプ	「常時接続」: プロバイダに常時接続します。 ※通常はこちらを選択します。 「オンデマンド」: 接続要求があった場合にのみ接続を行います。 「手動接続」: 毎回「接続」・「切断」の操作を手動で行う必要があります。
待機時間	オンデマンド接続時の待機時間を設定します。 初期設定:「10」
MTU 値	MTU 値を設定します。初期設定は「1454」です。 ※通常は初期設定のまま使用します。
DNS 設定	「自動」: ご使用のネットワークから自動的に更新されます。 ※通常はこちらを選択します。 「手動接続」: プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～3」に入力してください。
MAC アドレス	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC アドレスコピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。

UPnP	ネットワーク上にある様々な機器を接続可能とします。インスタントメッセンジャーなどを利用するときは、UPnP を有効にします。 初期設定:「有効」
IGMP プロキシ	IGMP パケットを上位のルータに転送する機能です。 通常は「有効」にしてください。 初期設定:「有効」
WAN 側からの PING	外部（インターネット）側からの Ping 応答を「有効」／「無効」にします。 初期設定:「無効」
WAN 側からのサーバ接続	外部（インターネット）側からの接続を「有効」／「無効」にします。 初期設定:「無効」
IPv6 パススルー	IPv6 ブリッジ機能を使用して、 NTT 東日本の「フレッツ・ドットネット」や NTT 西日本の「フレッツ・v6 アプリ」などの IPv6 対応サービスを利用することができます。 ※IPv6 ブリッジ機能を有効にすると外部からのアクセスが可能になるため、セキュリティが低下します。パソコンを接続しているときはパソコン側でのセキュリティ対策が必要になります。 初期設定:「有効」
IPSec パススルー	IPSec 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定:「有効」
PPTP パススルー	PPTP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定:「有効」
L2TP パススルー	L2TP 接続時のパケットの通信を制御します。 「有効」のときは、VPN パケットをそのまま通信（通過）させます。 初期設定:「有効」

6.3 ネットワーク関連の設定

ここでは、ネットワーク関連の各種設定を行います。

6.3.1 LAN 設定

Auto モードの LAN 側の設定方法を説明します。

1. ［ネットワーク］をクリックします。

2. 「LAN セットアップ」をクリックします。

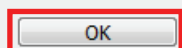
3. 各項目を設定します。

項目名	動作
DHCP モード	DHCP サーバ機能の使用を選びます。 初期設定は「サーバ」です。
IP アドレス	本製品に設定する LAN 側の IP アドレスを入力します。 初期設定は「192.168.111.1」です。
サブネットマスク	本製品に設定する LAN 側のサブネットマスクを入力します。 初期設定は「255.255.255.0」です。
デフォルトゲートウェイ	本製品に設定する LAN 側のサブネットマスクを入力します。 初期設定は「0.0.0.0」です。
DNS1～2	プロバイダから DNS が指定されている場合はこちらを選択し、「DNS1～2」に入力してください。
リースタイム(分)	本製品が割り当てる IP アドレスを使用する時間を設定します。設定した時間を越えると、新たに IP アドレスを割り当てます。 初期設定は「5」分です。
IP アドレス範囲	DHCP サーバ機能が有効のとき、本製品が割り当てる IP アドレスの範囲を設定します。 初期設定は「192.168.111.20」～「192.168.111.50」です。
MAC アドレスコピー	外部に送る MAC アドレスを登録します。 [MAC アドレスコピー]ボタンをクリックすると、接続されているパソコンの MAC アドレスがコピーされます。

4. ［適用］をクリックします。

5. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、［適用］をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

6. ［OK］をクリックします。

以上で設定の完了です。

注意：設定を変更した後は、パソコンなど各ネットワーク機器は一度再起動してください。
変更した IP アドレスなどの値はメモなどに取って保管してください。

6.3.2　ルーティング設定

ここでは、ルーティングテーブルの設定を行います。動的ルーティング、静的ルーティングの各設定方法について説明します。
※このメニューはルータモードで動作しているときのみ表示されます。

■動的ルーティング

本製品は、ダイナミック（動的）ルーティングのプロトコルとして RIP1、RIP2 に対応しています。
ここでは、ダイナミックルーティングを設定し、動的に経路情報を登録する方法について説明します。

1.　[ネットワーク]をクリックします。

2.　「ルーティング」→「動的ルーティング」をクリックします。

3.　各項目を設定します。

(1)「NAT」で「無効」を選択します。

(2)「WAN」で本製品が送信する RIP の種類を設定します。

(3)「WAN」で本製品が受信する RIP の種類を設定します。

(4)「LAN」で本製品が送信する RIP の種類を設定します。

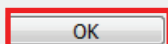
(5)「LAN」で本製品が受信する RIP の種類を設定します。

(6)［適用］をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作	
NAT	NAT の「有効」/「無効」選択します。 ※通常はルータの機能を使用する為、「無効」に設定します。 初期設定：「有効」	
WAN	送信	本製品が送信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」：RIPv1 によるルート情報の送信を行います。 「RIP2」：RIPv2 によるルート情報の送信を行います。
	受信	本製品が受信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」：RIPv1 によるルート情報の受信を行います。 「RIP2」：RIPv2 によるルート情報の受信を行います。
LAN	送信	本製品が送信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」：RIPv1 によるルート情報の送信を行います。 「RIP2」：RIPv2 によるルート情報の送信を行います。
	受信	本製品が受信する RIP の種類を設定します。 「RIP1」：RIPv1 によるルート情報の受信を行います。 「RIP2」：RIPv2 によるルート情報の受信を行います。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

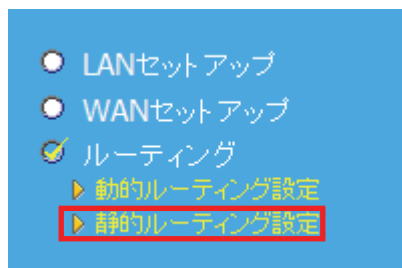
※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします

以上で設定の完了です。

■静的ルーティング

WAN 側に通信するルート(経路)の設定をおこないます。

1. [ネットワーク]をクリックします。

2. 「ルーティング」→「静的ルーティング」をクリックします。

3. 各項目を設定します。

(1) IP アドレスを入力します。

(2) サブネットマスクを入力します。

(3) ゲートウェイを入力します。

(4) メトリックを入力します。

(5) インターフェイスを「LAN」、「WAN」から選択します。

(6) [追加]をクリックします。

※複数登録するときは、上記の手順(1)～(6)を繰り返します。

(7) 「静的ルーティングを有効にする」にチェックを入れます。

(8) [適用]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします

以上で設定の完了です。

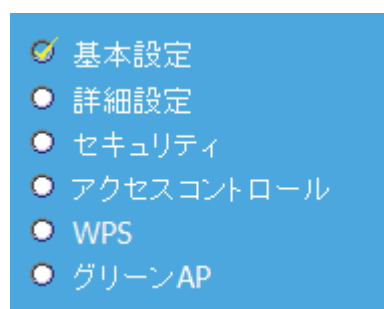
各設定項目内容は以下の通りです。

項目	動作
静的ルーティングを有効にする	静的ルーティング機能を有効にするときは、「有効」チェックを付けます。
IP アドレス	送信先ネットワークの IP アドレスを入力します。
サブネットマスク	送信先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
ゲートウェイ	送信先ネットワークのゲートウェイを入力します。
メトリック	ルーティングテーブルのメールトリック（優先順位）を入力します。 番号の若いメトリックのルーティングが優先的に処理されます。
インターフェース	「LAN」または「WAN」※を選びます。 LAN 側へのルーティングを設定するときは「LAN」を選びます。 WAN 側へのルーティングを設定するときは「WAN」を選びます。 ※一般のブロードバンド回線では使用しません。動作についてはサポート対象外とさせていただきます。
ルーティング一覧の表示	登録されたルーティング一覧が表示されます。
追加	[追加]をクリックします。 「現在の静的ルーティングテーブル」に追加した内容が登録されます。
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・「現在の静的ルーティングテーブル」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、[消去]をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、[全て消去]をクリックします。

6.4 無線 LAN 関連の設定

「無線 LAN」画面で、無線 LAN 関連の項目を設定することができます。SSID、セキュリティ設定、WPS、などの設定は「無線 LAN」画面で設定内容を変更してください。

無線 LAN 画面には、「基本設定」、「詳細設定」、「セキュリティ」、「アクセスコントロール」、「WPS」、「グリーン AP」のメニューがあり、それぞれ左側のメニューから選ぶことができます。

- 基本設定
- 詳細設定
- セキュリティ
- アクセスコントロール
- WPS
- グリーンAP

各設定については、以下の説明を参照してください。

6.4.1 基本設定

ここでは、ルータモード、AP モードでの無線 LAN の基本設定を行います。
(無線の「チャンネル」を変更するときは、本項より設定を行ってください)

注意: 本項で説明している無線 LAN 機能の基本設定内容は、全ての SSID で共通となります。SSID ごとに異なる設定はできません。

1. [無線 LAN]をクリックします。

2. 「基本設定」をクリックします。

3. 必要に応じて各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

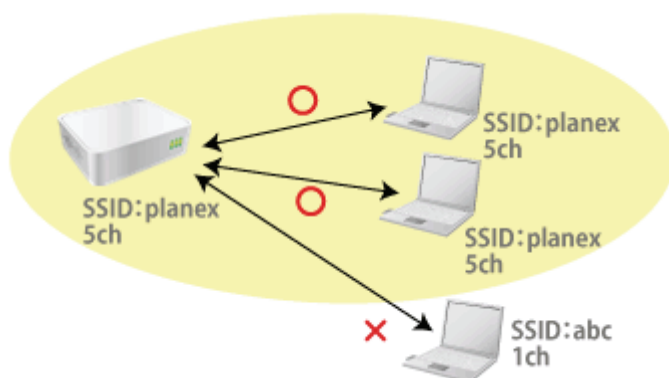
項目名	動作
無線機能	無線機能の「有効」「無効」のどちらかを選択してクリックします。 ※初期値は「有効」です。 ※無効にすると無線 LAN 接続不可になりますのでご注意ください。
AP モード	無線 LAN アクセスポイントのモードを選びます。 「AP」：無線 LAN アクセスポイントとして通信します。 「WDS」：WDS モードで通信します。 「AP＋WDS」：無線 LAN アクセスポイント、WDS 両方使用可能になります。 ※コンバータモードのときは設定できません。 初期値：「AP」
無線モード	無線モードを選びます。 「2.4GHz（B）」：IEEE802.11b のみで通信します。 「2.4GHz（G）」：IEEE802.11g のみで通信します。 「2.4GHz（N）」：IEEE802.11n のみで通信します。 「2.4GHz（B+G）」：IEEE802.11b および IEEE802.11g で通信します。 「2.4GHz（G+N）」：IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 「2.4GHz（B+G+N）」：IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 通常は、ここを選びます。 ※初期値は「2.4GHz（B+G+N）」です。
SSID	無線 LAN で特定のネットワークを指定するためのグループ名のことを指し、同一の SSID の無線 LAN 機器同士で通信します。 ※半角英数字で 32 文字まで入力できます。 ※SSID は必ず控えてください。 初期値は「ap-pc-●●●●●●」です。●部分は製品ごとに異なります。
仮想 AP	マルチ SSID を設定します。 仮想 AP 機能を使用することで、最大 5 つのアクセスポイントを設定することができます。 ※SSID ＋ AP 1 ～ AP 4 の計 5 つ [仮想 AP]をクリックすると、仮想 AP 一覧画面が表示されますので、この画面で AP 1 ～AP 4 の設定を行います。 ※設定方法は、「第 5 章 本製品を使いこなす 5.3 マルチ SSID を設定する」を参照してください。 ※コンバータモードのときは設定できません。 ※初期値は「AP1：ap-game-●●●●●●」です。●部分は製品ごとに異なります。

チャンネル	チャンネルを「1」～「13」の範囲で選びます。 近隣との電波干渉があるときに適当なチャンネルを選択してください。 ※初期値は「自動」です。 ※コンバータモードのときは設定できません。
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 不正アクセスを防止することができます。 ※　初期値は「有効」です。
WMM	IEEE 802.11 でのワイヤレスネットワークを特徴とする基本的な品質を提供します。 データ伝送機能の WMM を使用しないとき、「無効」にします。 「無線モード」で「2.4GHz（N）」、「2.4GHz（G+N）」、「2.4GHz（B+G+N）」が選択され IEEE802.11n で通信するときは、「WMM」は強制的に「有効」になります。 ※初期値は「有効」です。
伝送速度	伝送速度に制限を掛けるとき、MCS0～MCS15 の範囲で設定します。 通常は「自動」にします。 ※　初期値は「自動」です。
関連クライアント	[アクティブ中のクライアントを表示する]をクリックすると、無線 LAN 接続されている機器を表示します。 ※コンバータモードのときは表示されません。

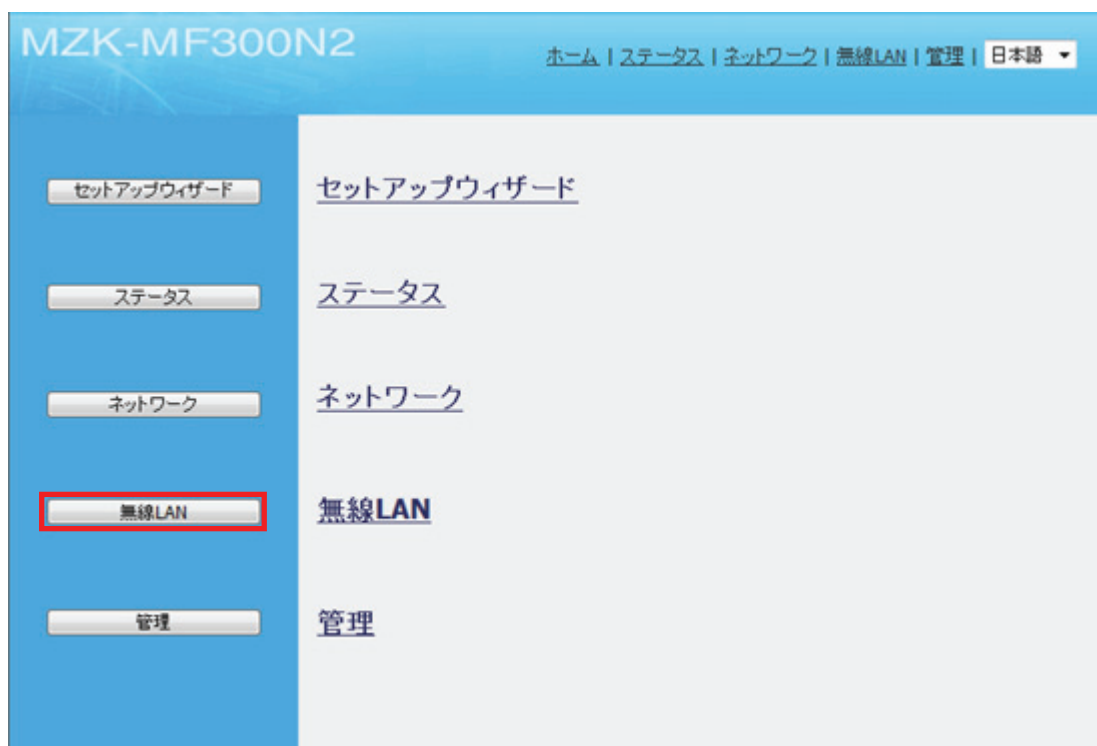
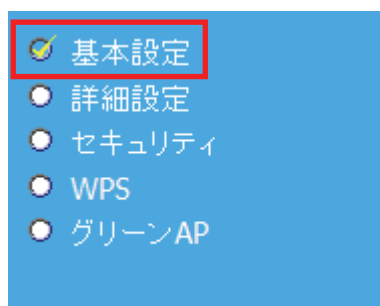
ワンポイント

チャンネルについて

同一の SSID 内で無線通信するには、チャンネルを同じにする必要があります。本製品のマルチ SSID 機能では、1 つのチャンネルを共通で使用します。

複数の無線 LAN アクセスポイントを設置して複数の SSID（無線 LAN グループ）を構成する場合は、アクセスポイント毎に別のチャンネルを設定しますが、アクセスポイント間の電波の干渉をさけるために、 それぞれのチャンネルは 1／6／11 など 5ch 程度離れたチャンネルに設定する必要があります。

6.4.2 基本設定(コンバータ)

ここでは、コンバータモードに切替えたときの基本設定を行います。
(無線の「チャンネル」を変更するときは、本項より設定を行ってください)

1. [無線 LAN]をクリックします。

2. 「基本設定」をクリックします。

3.　必要に応じて各項目を設定します。

(1)[サイトサーベイ]をクリックします。

基本設定

無線機能：	◉有効 ○無効
ネットワークタイプ：	インフラストラクチャ
無線モード：	2.4 GHz (B+G+N)
SSID：	
SSIDの通知：	◉有効 ○無効
WMM：	◉有効 ○無効
伝送速度：	自動
サイトサーベイ：	サイトサーベイ (1)

適用　キャンセル

(2)「SSID」の一覧から接続先の SSID の「選択」にチェックを入れます。

※SSID(接続名)が表示されないときは、[更新]をクリックして、再検索してください。

※上記を行っても SSID(接続名)が表示されないときは、無線 LAN ルータの電源が入っているか、または調べた SSID(接続名)に誤りがないか確認してください。

(3)[接続]をクリックします。

無線サイトサーベイ

選択	SSID	BSSID	電波強度	チャンネル	暗号化方式	タイプ
○	ap-pc-		56	1	WPA-PSK	Infra
○	ap-game-		56	1	no	Infra
○			50	6	WPA2-PSK	Infra
○			48	6	no	Infra
○			18	1	WEP	Infra

(4)接続先の暗号化キーを入力します。

(5)[OK]をクリックします。

(6)「基本設定」画面の[適用]をクリックします。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
無線機能	無線機能の「有効」「無効」のどちらかを選択してクリックします。 ※初期値は「有効」です。 ※無効にすると無線 LAN 接続不可になりますのでご注意ください。
ネットワークタイプ	無線 LAN の動作モードを選びます。 「インフラストラクチャ」：無線 LAN 機器は本製品を介して通信を行います。 「アドホック」：無線 LAN 機器同士が互いに直接通信を行います。 初期値：「インフラストラクチャ」
無線モード	無線モードを選びます。 「2.4GHz（B）」：IEEE802.11b のみで通信します。 「2.4GHz（G）」：IEEE802.11g のみで通信します。 「2.4GHz（N）」：IEEE802.11n のみで通信します。 「2.4GHz（B+G）」：IEEE802.11b および IEEE802.11g で通信します。 「2.4GHz（G+N）」：IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 「2.4GHz（B+G+N）」：IEEE802.11b、IEEE802.11g および IEEE802.11n で通信します。 通常は、ここを選びます。 ※初期値は「2.4GHz（B+G+N）」です。
SSID	無線 LAN で特定のネットワークを指定するためのグループ名のことを指し、同一の SSID の無線 LAN 機器同士で通信します。 ※半角英数字で 32 文字まで入力できます。 ※SSID は必ず控えてください。

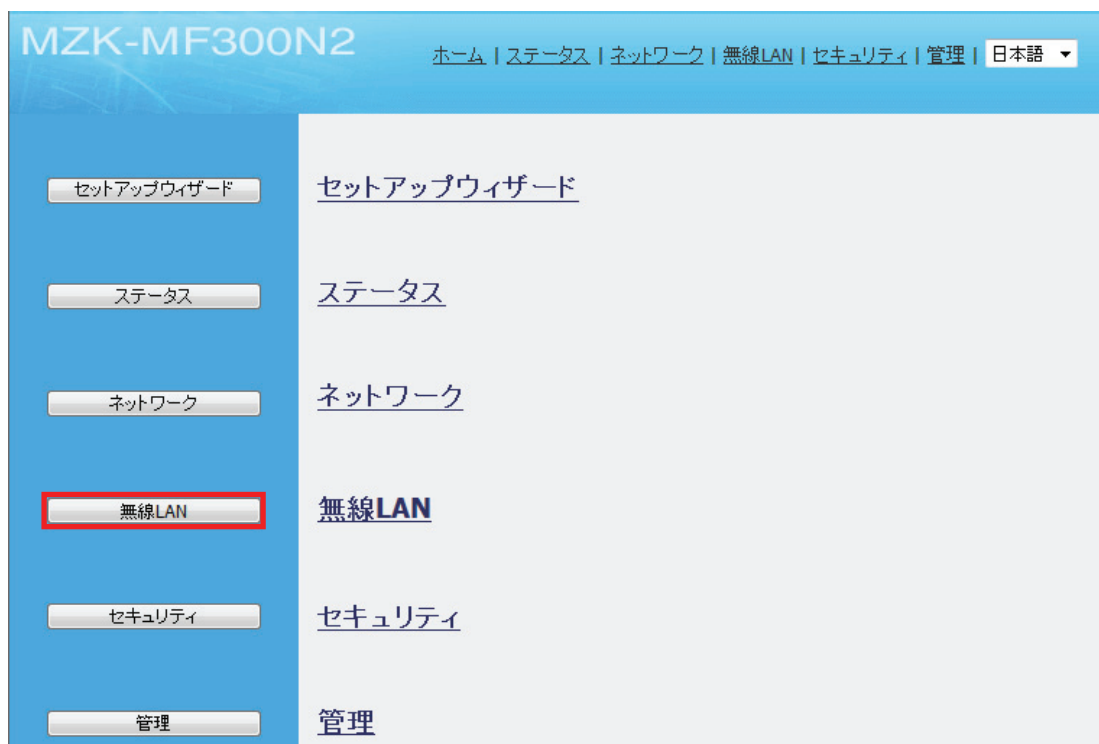
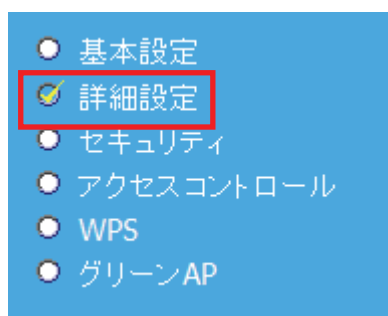
SSID の通知	SSID を第三者に見られたくないとき、「無効」にします。 不正アクセスを防止することができます。 ※初期値は「有効」です。
WMM	IEEE 802.11 でのワイヤレスネットワークを特徴とする基本的な品質を提供します。 データ伝送機能の WMM を使用しないとき、「無効」にします。 「無線モード」で「2.4GHz（N）」、「2.4GHz（G+N）」、「2.4GHz（B+G+N）」が選択され IEEE802.11n で通信するときは、「WMM」は強制的に「有効」になります。 ※初期値は「有効」です。
伝送速度	伝送速度に制限を掛けるとき、MCS0～MCS15 の範囲で設定します。 通常は「自動」にします。 ※初期値は「自動」です。
サイトサーベイ	[サイトサーベイ]をクリックすると、無線 LAN 接続されている機器の情報を表示し、周辺のアクセスポイントの設置環境を確認できます。 ※ルータモード、AP モードのときは表示されません。

6.4.3 詳細設定

無線 LAN の詳細設定を行います。
※本設定は通常変更する必要はありません。

1. ［無線 LAN］をクリックします。

2. 「詳細設定」をクリックします。

基本設定
詳細設定
セキュリティ
アクセスコントロール
WPS
グリーンAP

3.　必要に応じて各項目を設定します。設定後、[適用]をクリックしてください。

詳細設定

フラグメントしきい値：	2346 (256-2346)
RTSしきい値：	2347 (0-2347)
ビーコン間隔：	100 (20-1024 ms)
プリアンブルタイプ：	◉ショートプリアンブル　○ロングプリアンブル
IAPP：	◉有効　○無効
Protection：	○有効　◉無効
Aggregation：	◉有効　○無効
WLAN Partition：	○有効　◉無効
Short GI：	◉有効　○無効
STBC：	○有効　◉無効
20/40MHz Coexist：	○有効　◉無効
送信パワー:	100 %

適用　キャンセル

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

OK

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
フラグメントしきい値	フラグメントしきい値を 256～2346 の間で設定します。 設定したサイズよりも大きなパケットを送信するとき、パケットを分割して、送信します。 初期設定:「2346」 通常は初期設定で使用します。
RTS しきい値	RTS しきい値を 1～2347 の間で設定します。 RTS しきい値とは、本製品が無線 LAN 機器へパケットを送信する前に、同一ネットワーク内(SSID が同じ無線 LAN 機器)へ送信する RTS(Request To Send:送信要求)信号を送信するかどうかを決めるための境界値(=しきい値)のことです。 初期設定:「2347」 通常は初期設定で使用でします。
ビーコン間隔	ビーコン間隔を 20～999 の間で設定します。 ビーコンとは無線ネットワークを同期させるためにアクセスポイントから一定間隔で送信するパケットのことです。 ビーコン間隔を小さくすると、クライアントの接続効率が上がりますが、通信効率が下がります。 初期設定:「100」 通常は初期設定で使用します。
プリアンブルタイプ	「ショートプリアンブル」、「ロングプリアンブル」から選びます。 「ショートプリアンブル」のとき、無線 LAN 間の通信速度が速くなりますが、ショートプリアブルに対応していないクライアントのとき、通信できなくなる恐れがあります。この場合は、「ロングプリアンブル」に設定してください。 初期設定:「ショートプリアンブル」
IAPP	複数の無線 AP をまたぐ場合、同一の IP アドレスを維持します。 通常は「有効」のまま使用します。 初期設定:「有効」
Protection	無線 LAN 子機との通信に RTS/CTS フロー制御を行う場合有効にします。 接続する無線 LAN 子機が少ない場合は、「無効」、多い場合は、「有効」にすると、通信速度が向上する場合があります。 初期設定:「無効」
Aggregation	複数のパケット群のグループ化と帯域の増加のための送信を有効化します。 初期設定:「有効」
WLAN Partition	無線 LAN の接続機器同士の通信を遮断します。 「有効」にした場合、ルータに接続されたプリンタなど、利用ができなくなります。 初期設定:「無効」
Short GI	通信を高速化する Short GI 機能を有効にします。 ※初期値は「有効」です。
STBC	通信路情報(CSI)を必要としない、時空間ブロック符号(STBC)を有効にします。 初期設定:「無効」

20/40MHz Coexist	20/40MHz 共存方式を設定にします。 「有効」にすると、「20MHz」と「40MHz」 を混在させます。 通常は「無効」のまま使用します。 初期設定:「無効」
送信パワー	出力強度を設定します。 初期設定:「100%」

6.4.4 アクセスコントロールの設定

ここでは、無線による本製品への接続を制限します。アクセスポリシーが「許可」の場合、登録機器のみ接続できます。「拒否」の場合、登録機器は本製品へ接続できません。

1. ［無線 LAN］をクリックします。

2. 「アクセスコントロール」をクリックします。

3.　必要に応じて各項目を設定します。

(1)「アクセスコントロールを有効にする」にチェックを入れます。

(2)「許可」または「拒否」を選びます。

(3)制御する機器の MAC アドレスを入力します。

(4)必要に応じてコメントを入力します。

(5)[追加]をクリックします。

「アクセスコントロール一覧」に追加されます。

※複数のアクセスポリシーを登録するときは、上記の手順(3)～(5)を繰り返します。

(6)[適用]をクリックします。

4.「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

OK

以上で設定の完了です。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
アクセスコントロールを有効にする	アクセスコントロールを有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期値は無効です。
拒否/許可	拒否：登録機器は無線接続が不可になります。 許可：登録機器のみ無線接続が可能になります。 ※初期値は「拒否」です。
MAC アドレス	登録する機器の MAC アドレスを入力します。
コメント	コメントを任意で入力します。（最大全角 12 文字、半角 16 文字）
追加	[追加]をクリックします。 「MAC アドレスフィルタリングテーブル」に追加した内容が登録されます。
MAC アドレスフィルタリングテーブル	登録した MAC アドレスとコメントの一覧が表示されます。
消去 全て消去	登録内容を消去するには ・「MAC アドレスフィルタリングテーブル」から削除したい設定内容の「選択」ボックスにチェックを付け、「消去」 をクリックします。 ・ すべてを消去するときは、「全て消去」をクリックします。

6.4.5 WPS の設定

ここでは、ルータモード、AP モードの WPS 設定を行います。WPS 機能に対応している機器との無線設定が簡単にできます。

※ WPS（Wi-Fi Protected Setup）とは、無線 LAN 関連の業界団体「Wi-Fi アライアンス」が策定した無線 LAN の簡単設定規格です。WPS 対応機器と組み合わせて無線 LAN の設定や暗号化を簡単に行うことができる機能です。

接続方法は、「WPS ボタンを使って WPS 接続する」、「画面を使って WPS 接続する」、「PIN コードを使って接続する」の三つになります。

■ WPS ボタンを使って WPS 接続する

⇒「ルータ･アクセスポイント設定ガイド　前編　STEP3 の 6」にも本設定の説明がありますので、合わせて参照してください。

本製品本体の WPS ボタンを使って、簡単に無線 LAN 設定を行うことができます。
ただし、WPS 機能を使って設定するためには、無線 LAN ルータ(親機)と無線 LAN アダプタ(子機)がどちらとも WPS に対応している必要があります。

ご注意

※WPS 機能を使用すると、初期設定した内容が WPS 機能により書き換わってしまうため、先に設定した機器は無線 LAN 設定をやり直さなければならない場合があります。

※複数台の機器を無線 LAN 接続する場合には、手動にて「SSID：ap-pc-●●●●●●」、「キー：12345678」をそれぞれ設定して頂く方法をお勧めします。

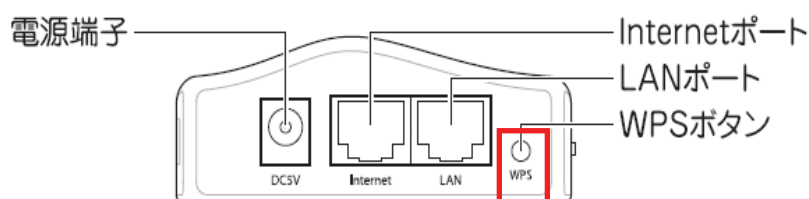
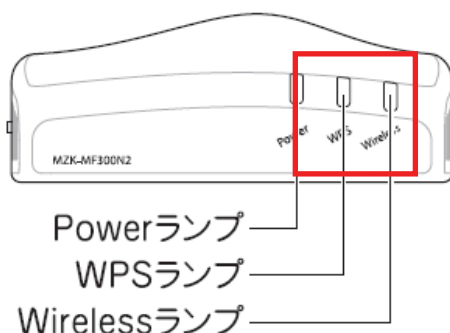
※本製品の「スタートガイド」または本ユーザーズ・マニュアル「インターネット接続方法」の設定を済ませ、本製品をインターネットに接続できる状態にしてください。

※無線 LAN アダプタをパソコンにインストールしておいてください。

1. 本製品とWPS 対応の無線 LAN アダプタを装着したパソコンを用意し、本製品とパソコンの電源がオンになっていることを確認します。

2. 本製品背面の「WPS」ボタンを 3 秒以上押して離します。

↓

↓

本製品前面の「WPS」ランプと「Wireless」ランプが緑色で点灯します。

※2 分以内に次の手順を行ってください。

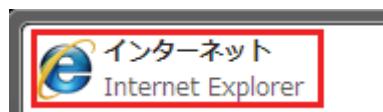
3. 無線 LAN 子機の WPS ボタンを押します。
 ※「WPS ボタン」の有無や位置については、機器ごとに異なります。
 詳細は各無線 LAN 子機の取扱説明書をご確認ください。

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

4. 接続が完了すると、「WPS」ランプが消灯し、「Wireless」 ランプが点滅することを確認します。

ワンポイント

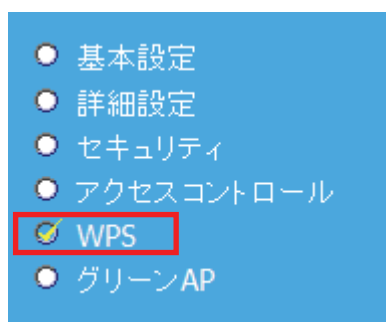
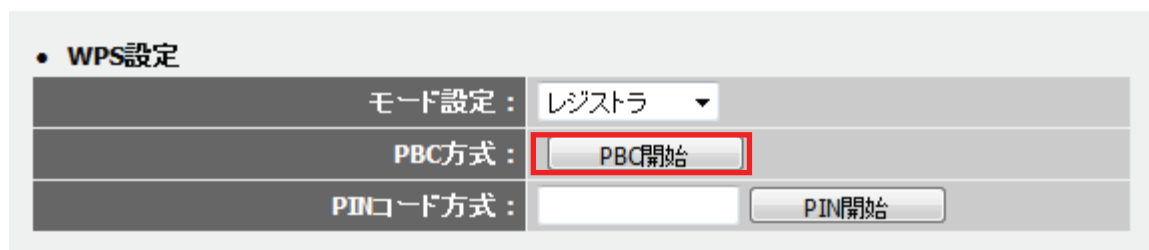
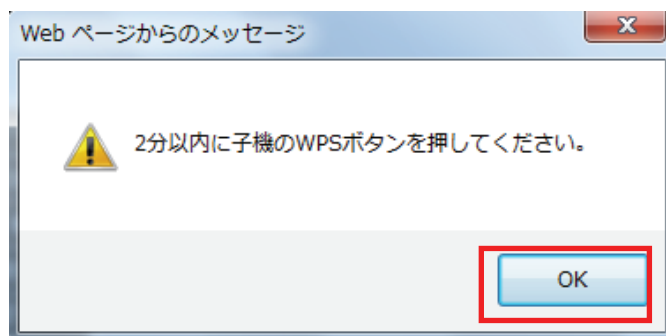
- WPS ランプが点灯のときは、まだ接続されていません。
- WPS ランプが点灯しないときは、再度 WPS ボタンを押してください。

5. WEB ブラウザをダブルクリックして、インターネットに接続されることを確認します。

ワンポイント

- セキュリティ設定内容（暗号キーなど）は、WPS 機能によって新しく設定されます。

■画面を使って WPS 接続する

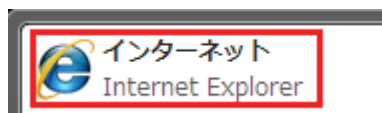
1. ［無線 LAN］をクリックします。

2. 「WPS」をクリックします。

3. 「PBC 開始」をクリックします。

4. 以下の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。

5. 無線 LAN 子機の WPS ボタンを押します。

   詳細は各無線 LAN 子機の取扱説明書をご確認ください。

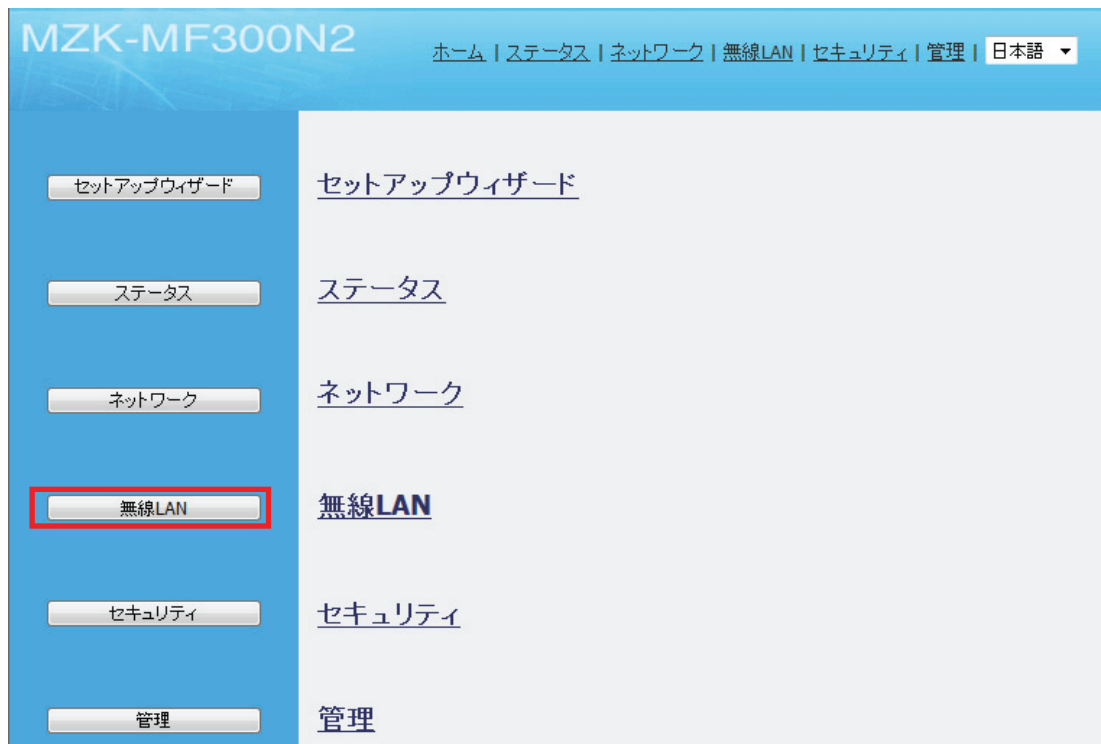
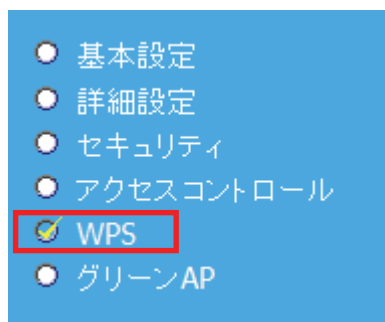
何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

6. 接続が完了すると、「WPS」ランプが消灯し、「Wireless」 ランプが点滅することを確認します。

7. WEB ブラウザをダブルクリックして、インターネットに接続されることを確認します。

以上で設定の完了です。

■PIN コードを使って接続する

ここでは、相手側機器の PIN コードを入力する方法で説明します。

1. ［無線 LAN］をクリックします。

2. 「WPS」をクリックします。

3. 各項目をを設定します。

(1)「接続機器の PIN コード」欄に接続先の PIN コードを入力します。

(2)[PIN 開始]をクリックします。

何も操作せずに、30 秒～2 分ほどお待ちください。

4. 接続が完了すると、「WPS」ランプが消灯し、「Wireless」 ランプが点滅することを確認します。

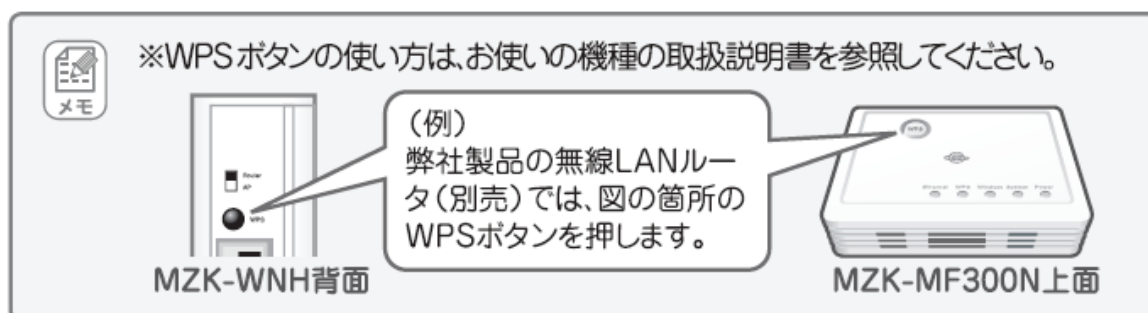
各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
WPSを有効にする	WPS機能を無効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期値は有効です。
WPS Proxy を有効にする	WPS Proxy機能を無効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※通常は無効のままのご利用で問題ありません。※初期値は無効です。
WPS情報	WPS機能を実行したときに反映される設定内容を表示します。
PINコード	本製品のPINコードです。 相手側機器との接続にPINコードの登録が必要なときは、このコードを指定します。
モード設定	本製品側で無線アダプタの PIN コードにあわせるときは「レジストラ」を、無線アダプタ側で本製品のPINコードにあわせるときは「エンローリー」を選択します。 ※初期値は「レジストラ」です。
PBC方式	PBCボタンを使って相手側機器と接続します。 [PBC開始]をクリックすることで、WPS機能を実行できます。本製品背面のWPSボタンを押すのと同じ操作です。
PINコード方式	PINコードを使って相手側機器と接続します。 相手側機器のPINコードを入力し、[PIN開始]をクリックします。

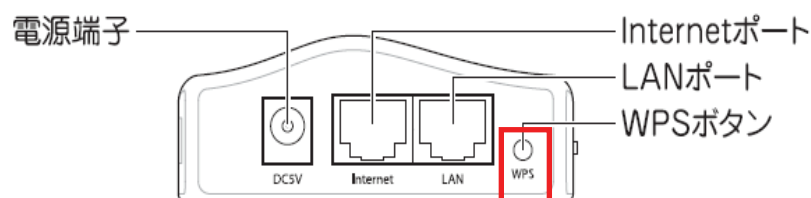
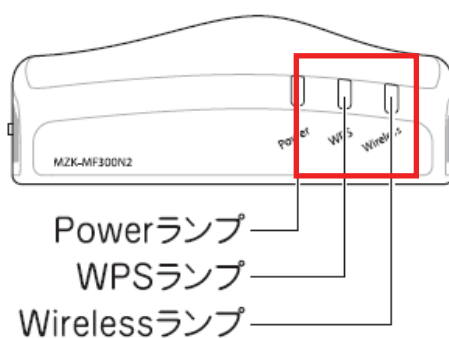
6.4.6 WPS の設定（コンバータ）

本製品をコンバータとして、ゲーム機や映像機器、パソコンなどと無線 LAN で接続する手順を説明します。
※複数の本製品を使用するときは、先に重複しない IP アドレスを変更してください。

⇒ 「コンバータ設定ガイド STEP2（WPS ボタン編）」にも本設定の説明がありますので合わせて参照してください。

1. 無線 LAN ルータ（親機）の WPS ボタンを押し、2 分以内に次の操作を行います。
   ※本手順では、無線 LAN ルータが WPS に対応している必要があります。
   ※WPS ボタンの使い方は、お使いの機種の取扱説明書を参照してください。

2. 本製品背面の「WPS」ボタンを 3 秒以上押して離します。

↓

↓

本製品前面の「WPS」ランプと「Wireless」ランプが緑色で点灯します。

※2 分以内に次の手順を行ってください。

3.　接続が完了すると、「WPS」ランプが消灯し、「Wireless」 ランプが点滅することを確認します。

ワンポイント

・　WPS ランプが点灯のときは、まだ接続されていません。
・　WPS ランプが点灯しないときは、再度 WPS ボタンを押してください。

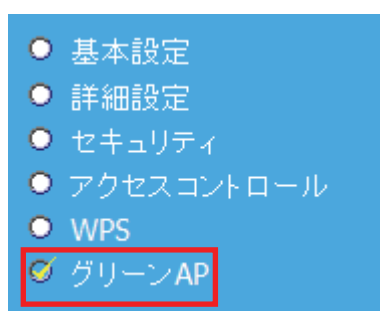
4.　本製品に接続している AC アダプタを取り外します。

以上で設定の完了です。

6.4.7 グリーン AP の設定

ここでは、グリーン AP の設定を行います。指定した曜日・時間帯で無線機能の有効／無効を設定します。

1. ［無線 LAN］をクリックします。

2. 「グリーン AP」をクリックします。

基本設定
詳細設定
セキュリティ
アクセスコントロール
WPS
グリーンAP

3. 各項目を設定します。

(1)「グリーン AP を有効にする」にチェックを入れます。

(2)曜日・時間帯を指定します。

曜日：「毎日」または曜日ごとにチェックを入れます。

時間：「1 日」または開始時間・終了時間を指定します。

(3)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
グリーン AP を無効にする	グリーン AP を有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期値は無効です。
曜日	毎日： チェックを入れると無線機能が毎日有効になります。 日～土：チェックを入れた曜日に無線機能が有効になります。
時間	1 日：選択すると無線機能が 1 日有効になります。 開始：開始時間を指定します。 終了：終了時間を指定します。

4. 「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

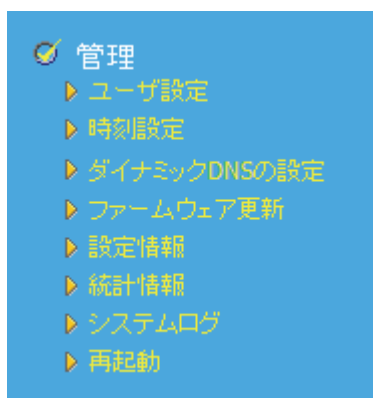
※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5. [OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

6.5 システム管理関連

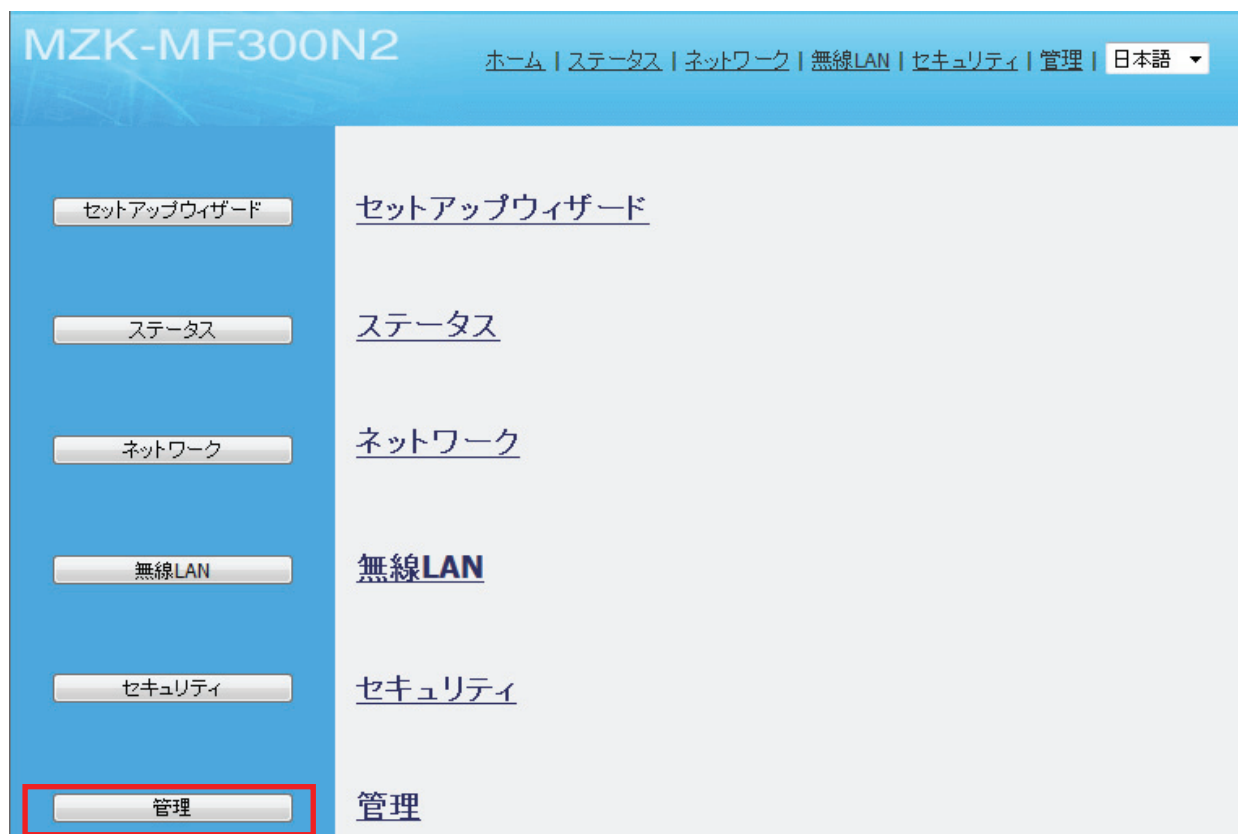
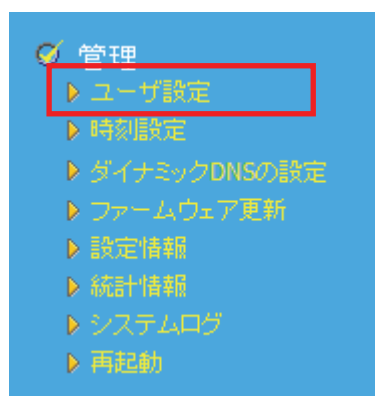
「管理」画面で、機器管理関連の項目を設定することができます。時刻設定、ファームウェア更新、設定情報管理などは「管理」画面より設定・確認してください。

管理画面には、「ユーザ設定」、「時刻設定」、「ダイナミック DNS の設定」、「ファームウェア更新」、「設定情報」、「統計情報」、「システムログ」、「再起動」のメニューがあり、それぞれ左側のメニューから選ぶことができます。

各設定については、以下の説明を参照してください。

※ダイナミック DNS の設定については、「第 5 章 5.5 ダイナミック DNS を設定する」を参照してください。

6.5.1 ユーザ名・パスワードの変更

ここでは、設定画面にログインするためのユーザ名、パスワードを設定します。

1. ［管理］をクリックします。

2. 「ユーザ設定」をクリックします。

3. 設定します。

ユーザ設定

現在のパスワード： (1)
ユーザID： admin (2)
新しいパスワード： (3)
パスワードの確認： (4)
(5) 適用 キャンセル

(1) 現在のパスワードを入力します。

(2) ユーザ ID を入力します。

(3) 新しいパスワードを入力します。

(4) 手順3と同じパスワードを入力します。

(5) [適用]をクリックします。

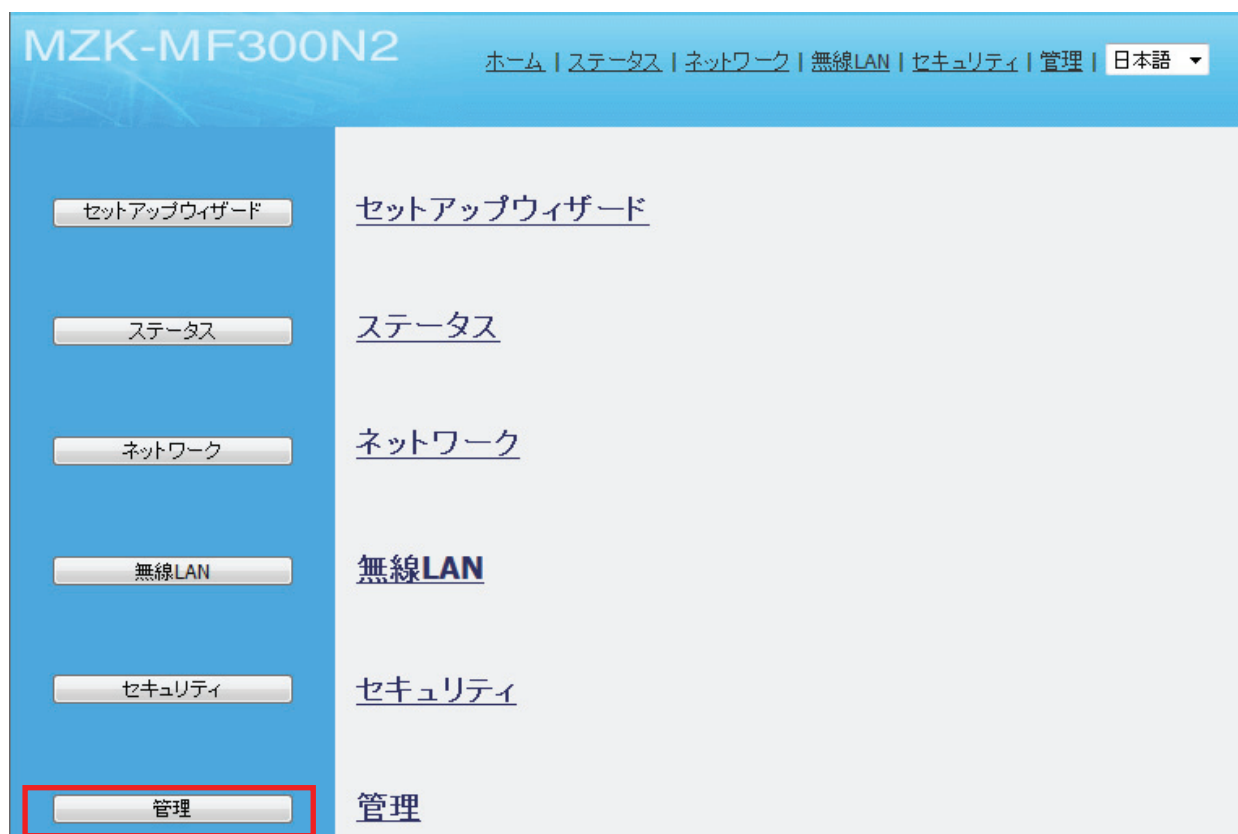
各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
現在のパスワード	現在設定されている設定画面にログインするときのパスワードを入力します。 ※初期値は「password」です。
ユーザ ID	本製品設定画面にログインするときのユーザ名を入力します。 ※初期値は「admin」です。
新しいパスワード	新たに設定する本製品設定画面にログインするときのパスワードを入力します。
パスワードの確認	入力間違いを防ぐ為、もう一度パスワードを入力します。

4. ログイン画面が表示されます。

(1)変更したユーザ名を入力します。

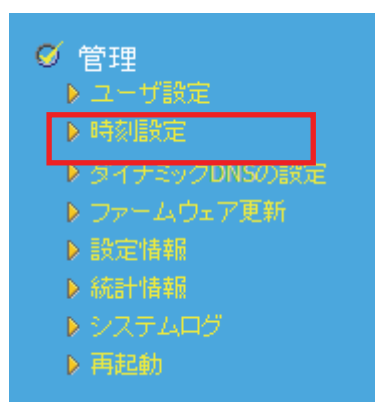
(2)変更したパスワードを入力します。

(3)[OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

6.5.2 時刻設定

ここでは、パソコンと同期または NTP サーバを利用し、時刻を設定します。

1. ［管理］をクリックします。

2. 「時刻設定」をクリックします。

3.　設定します。

時刻設定

無線ルータの時刻設定してください。この情報はグリーンAPとログエントリーに使用されます。

現在時刻	PCと同期 2011 / 01 / 01　00 : 00 : 00	
NTP	システムタイムゾーン：	(GMT+09:00)大阪, 札幌, 東京
	夏時間設定：	有効 時間の形式 1 月 1 日 から 1 月 1 日まで
	タイムサーバアドレス：	IPアドレス 203.117.180.36 ドメイン名

適用　キャンセル

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
現在の時刻	現在の時刻を手動で入力します。 [PC と同期]をチェックすると、設定用パソコンの時刻と同期します。
NTP	NTP 機能を有効にするときは、ここにチェックを入れます。 ※初期値は「有効」です。
システムタイムゾーン	タイムゾーンを選びます。 ※初期値は「(GMT＋09:00)大阪、札幌、東京」です。
夏時間設定	夏時間(サマータイム)を調整するときは、「有効」にチェックを入れます。 有効にしたときは、夏時間として設定する範囲を指定します。 ※初期値は「無効」です。
タイムサーバアドレス	NTP サーバを設定します。 IP アドレスやドメイン名で NTP サーバを指定する事ができます。 ※初期値は「203.117.180.36」です。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

6.5.3 ファームウェア更新

ここでは、ファームウェアを更新します。
下記弊社のホームページより最新のファームウェアがあるときはダウンロードできます。
http://www.planex.co.jp/support/download/
あらかじめ弊社ホームページから最新のファームウェアをダウンロードし、パソコンのハードディスクなどに保存しておいてください。

1. [管理]をクリックします。

2. 「ファームウェア更新」をクリックします。

3.　(1)「インターネットからアップデート」、または「ファイルからアップデート」を選びます。
(2)[適用]をクリックします。

各設定項目内容は以下の通りです。

項目名	動作
インターネットからアップデート	チェックを入れると、最新のファームウェアを取得します。
ファイルからアップデート	予めダウンロードしたファームウェアを指定します。 ①[参照]をクリックして、保存した新しいファームウェアファイルの場所を指定します。 ②[開く]をクリックします。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

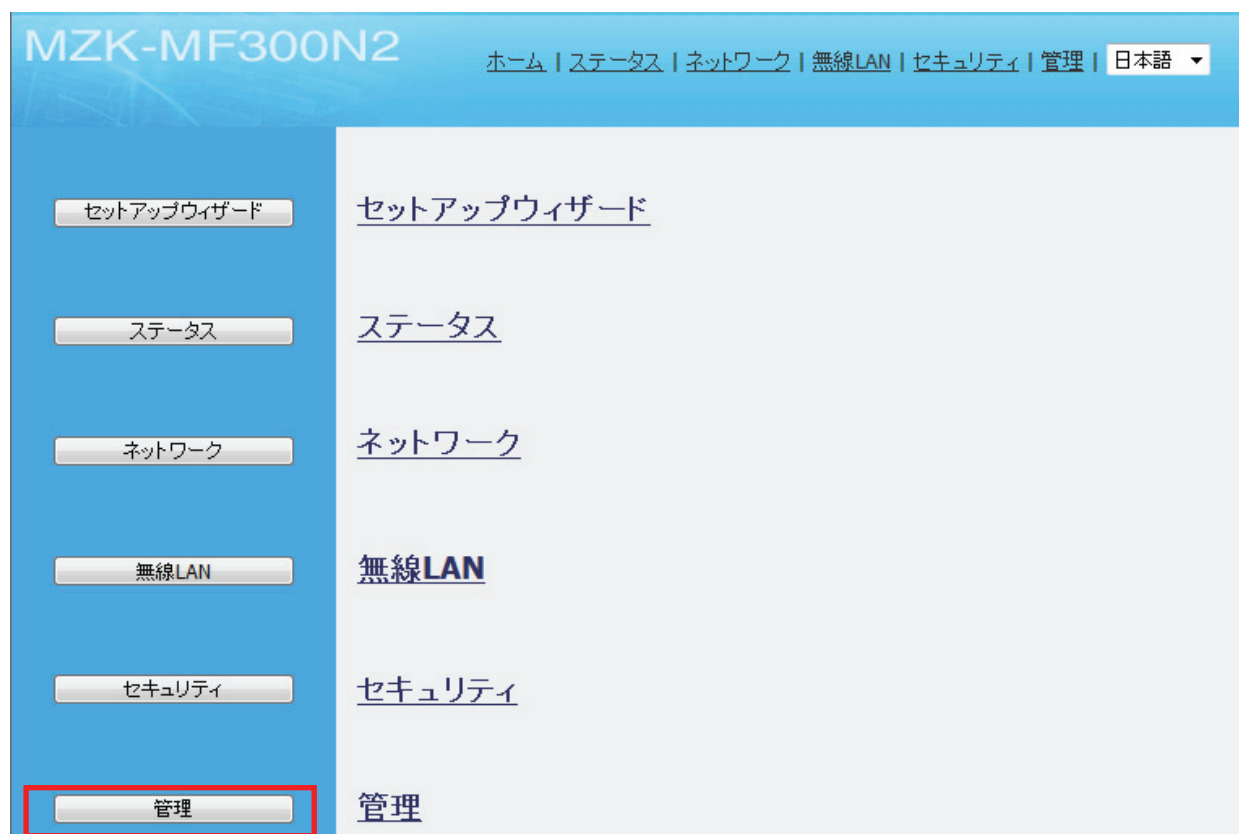
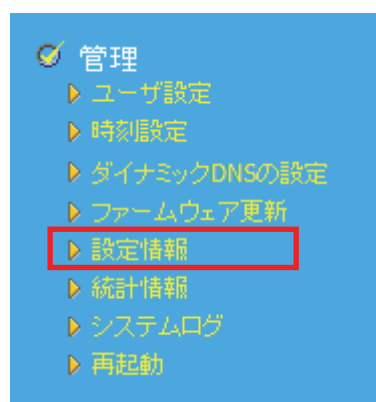
※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

6.5.4　バックアップ／リストア

ここでは、現在の設定情報を保存や読み込み設定をします。

1.　［管理］をクリックします。

2.　「設定情報」をクリックします。

3.　設定します。

【設定を保存するとき】

(1)［保存］ボタンをクリックします。

(2)以下の画面が表示されますので、［保存(S)］をクリックして設定ファイルをハードディスクなどに保存します。

【設定を復元するとき】

(1)［参照］をクリックします。

(2)予め保存した設定ファイルを指定した後、［アップロード］をクリックします。

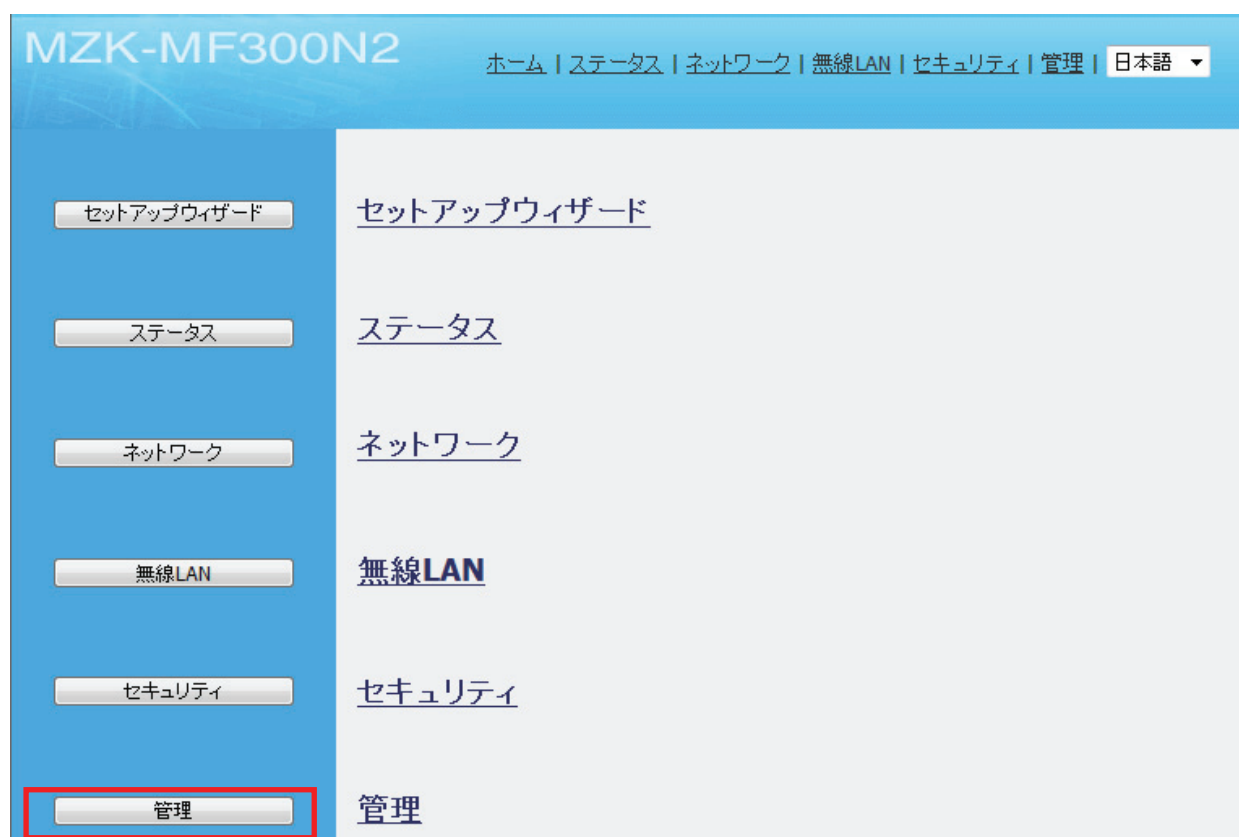
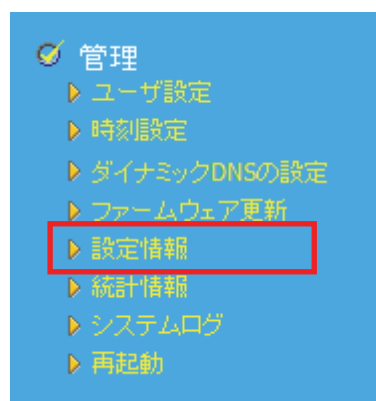
(3)読み込みが完了すると、「アップデートに成功しました。」と表示されます。

以上で設定の完了です。

6.5.5　初期化

ここでは、本製品の初期化を行います。

※初期化すると本製品の設定内容がすべて消去されます。初期化する前に必要な情報はメモなどに控えてください。

1. ［管理］をクリックします。

2. 「設定情報」をクリックします。

3.　設定を初期化します。

以上で設定の完了です。

6.5.6 統計情報

「統計情報」画面で、パケットの送受信情報を表示します。

1. ［管理］をクリックします。

2. 「統計情報」をクリックします。

3.　「統計情報」を確認します。

統計情報

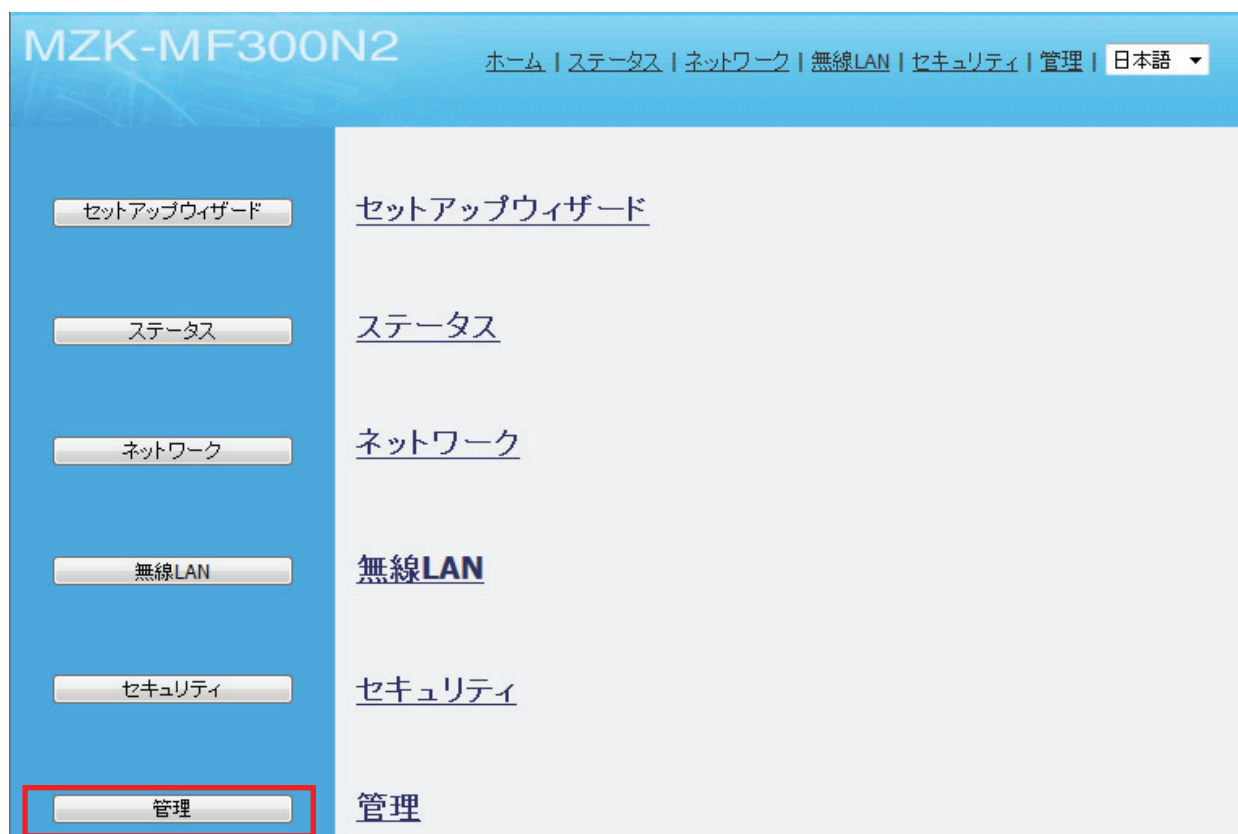
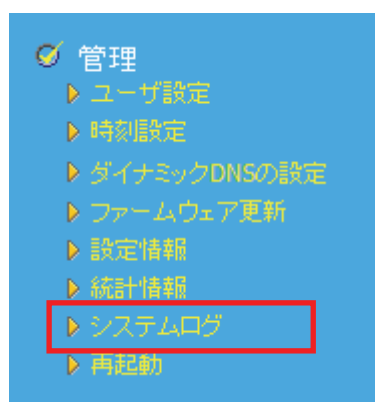
無線LAN	送信したパケット数	1485
	受信したパケット数	303361
有線LAN	送信したパケット数	3482
	受信したパケット数	3446
有線WAN	送信したパケット数	663
	受信したパケット数	0

[更新]

[更新]をクリックすると、最新の情報に更新します。

6.5.7 システムログ

「システムログ」画面で、本製品のシステムログ情報を表示します。

1. [管理]をクリックします。

2. 「システムログ」をクリックします。

3.　設定します。

(1)「リモートログを有効にする」にチェックを入れます。

(2)「ログサーバの IP アドレス」を入力します。

(3)[適用]をクリックします。

項目名	動作
リモートログを有効にする	ログを外部のログサーバ(ログサーバなど)に出力します。 ※別途ログサーバ、syslog サーバが必要になります。
ログサーバの IP アドレス	アップロードを行うログサーバの IP アドレスを入力してください。
保存	[保存]をクリックすると、テキスト形式でログを保存する事が出来ます。
クリア	[クリア]をクリックすると、ログを消去します。
更新	[更新]をクリックすると、最新の情報に更新します。

4.　「設定の保存に成功しました。」と表示されますので、[適用]をクリックします。

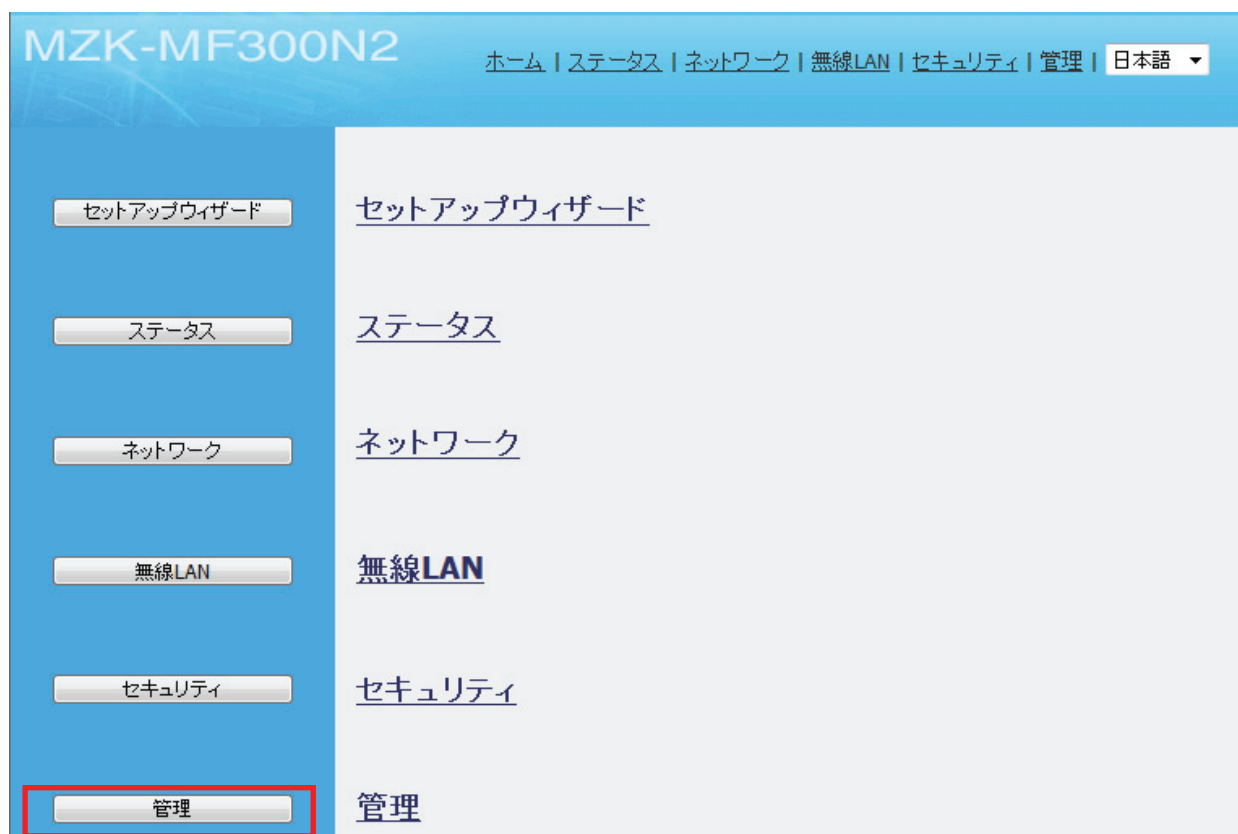
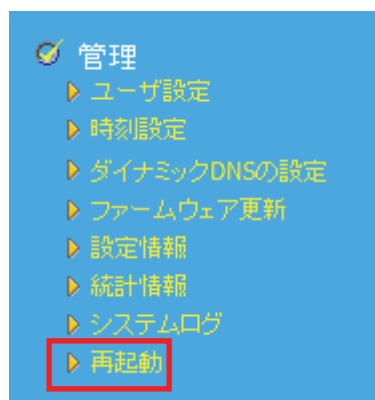
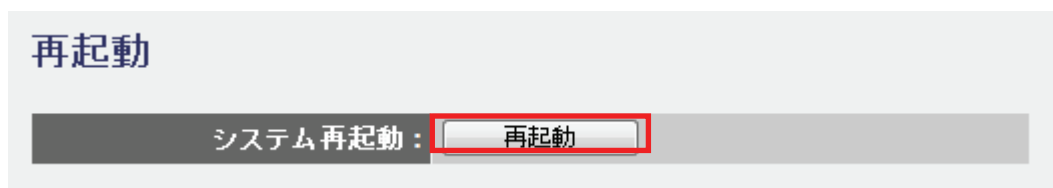
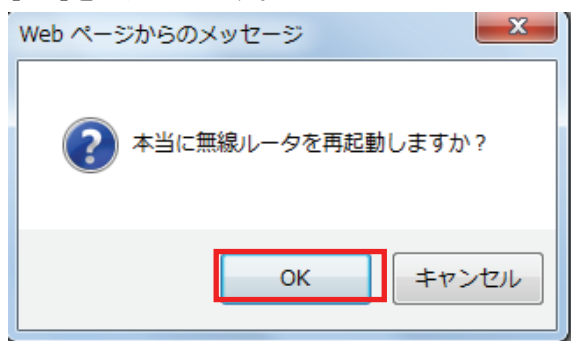
※本製品が再起動するまで約 90 秒かかります。

5.　[OK]をクリックします。

以上で設定の完了です。

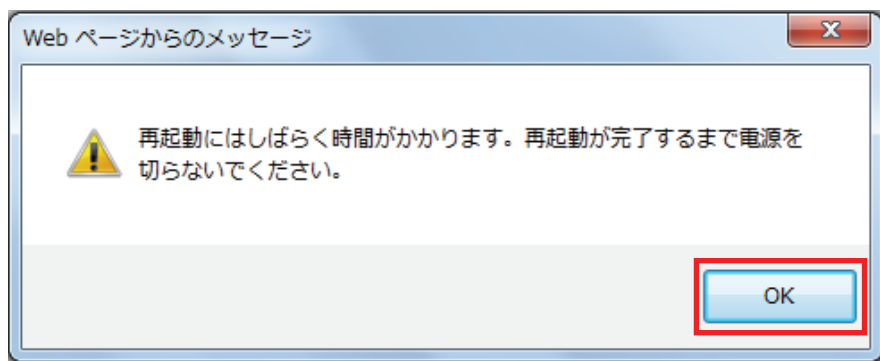
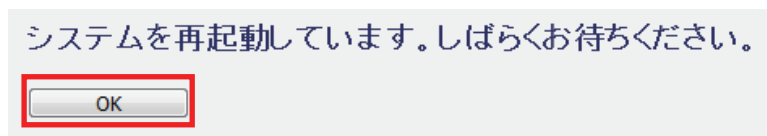
6.5.8　再起動

「再起動」画面で、本製品を再起動することができます。

1.　[管理]をクリックします。

2.　「再起動」をクリックします。

3. [再起動]をクリックします。

4. [OK]をクリックします。

5. [OK]をクリックします。

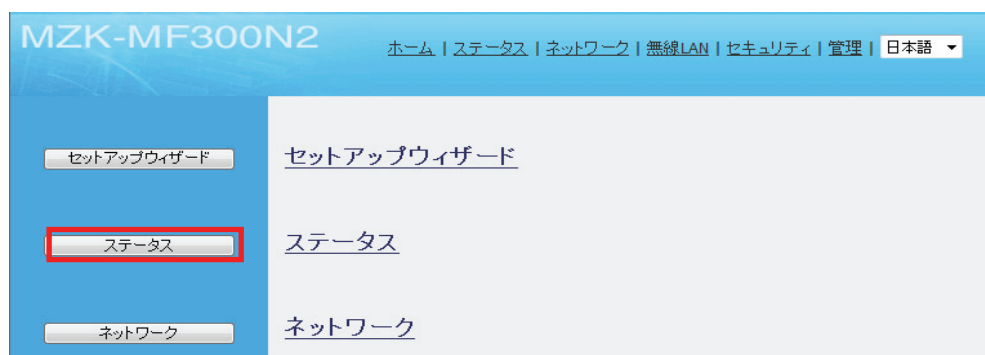
6. [OK]をクリックします。

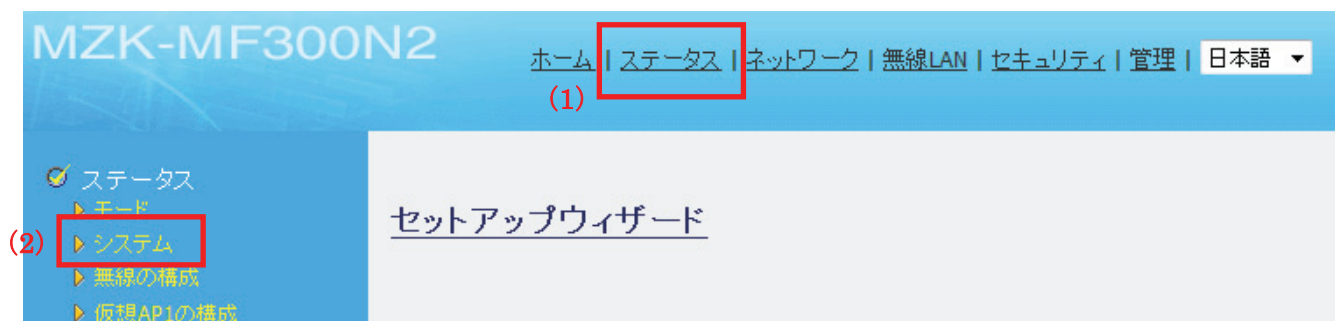
システムを再起動しています。しばらくお待ちください。

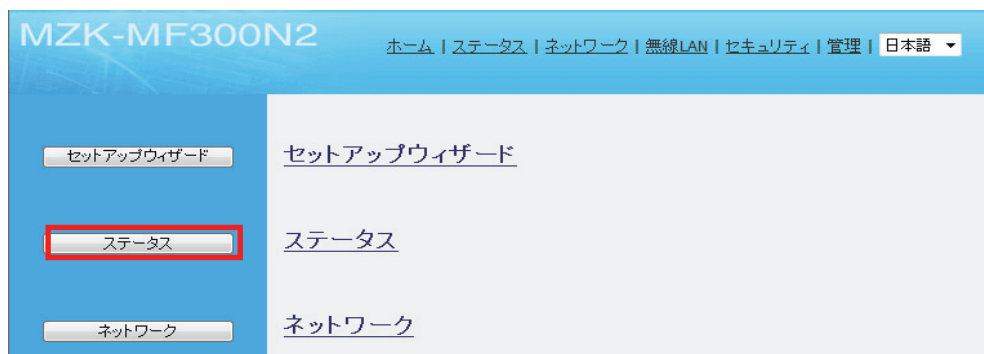
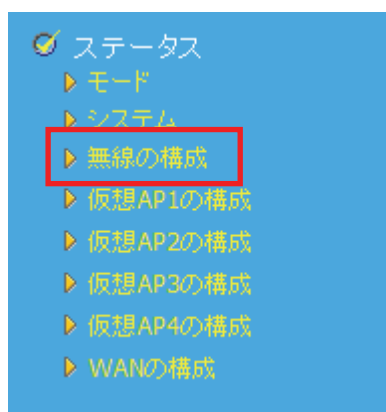
OK

6.6 ステータス関連

ここでは、ステータス関連の表示方法を説明します。
ステータス画面では、ファームウェアのバージョン、無線の構成、WAN の構成などを確認することができます。

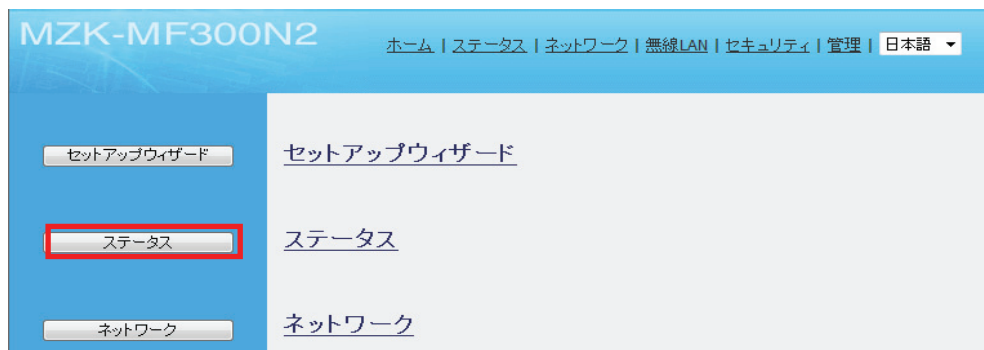
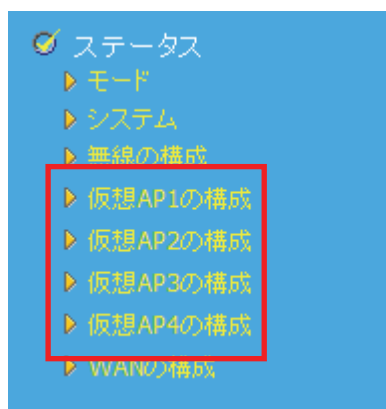
6.6.1 システム

1. [ステータス]をクリックします。

2. システム情報を確認します。

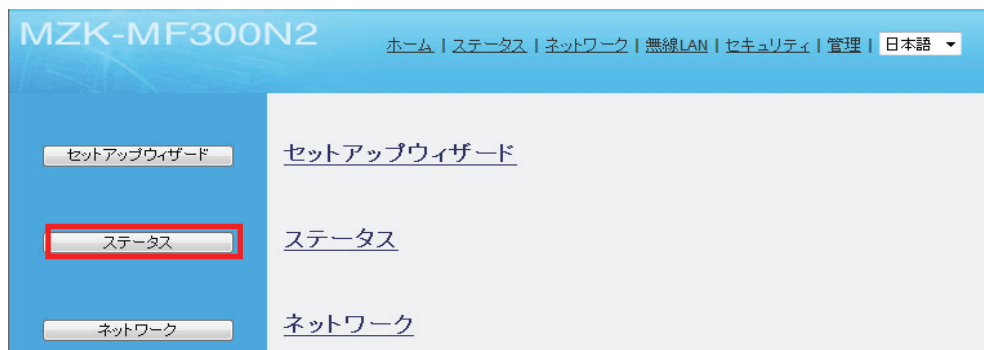
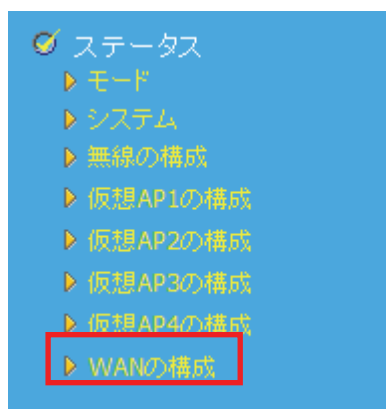
他の画面を表示しているときに、下記(1) (2)の順にクリックすると、この画面に戻ります。

6.6.2　無線の構成

1.　「ステータス」をクリックします。

2.　メニューから「無線の構成」をクリックします。

3.　「無線の構成」を確認します。

6.6.3 仮想 AP（1～4）の構成

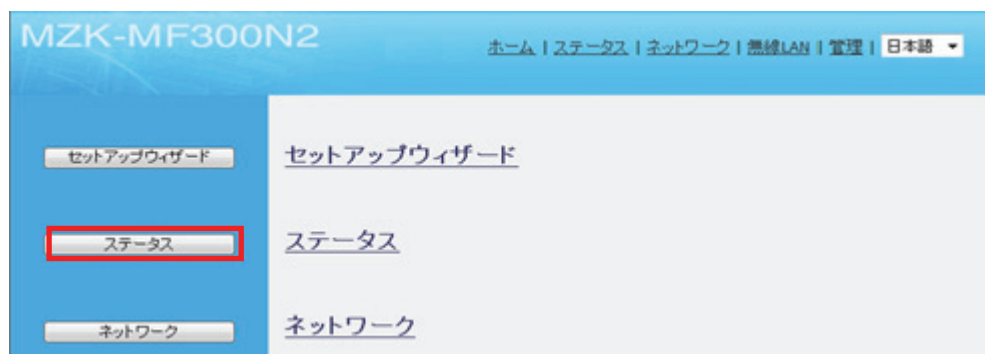
1. ［ステータス］をクリックします。

2. メニューから確認したい「仮想 AP（1～4）の構成」をクリックします。

3. 「仮想 AP（1～4）の構成」を確認します

6.6.4 WAN の構成

1. 「ステータス」をクリックします。

2. メニューから「WAN の構成」をクリックします。

3. 「WAN の構成」を確認します。

6.6.5 TCP/IP の構成

コンバータモード動作時に表示されます。

1. [ステータス]をクリックします。

2. メニューから「TCP/IP の構成」をクリックします。

3. 「TCP/IP の構成」を確認します。

第 7 章：困ったときは

7.1 トラブルシューティング

本製品が正常に動作しないときは、販売店または弊社テクニカルサポートに連絡する前に、本章に記載されているトラブルシューティングをご確認ください。
また、本紙に記載されていない困ったときの情報は、FAQ サイト（http://faq.planex.co.jp/）を参照してください。

症状	可能な解決策
電源が入らない	本製品の電源がはいらないときは、次の内容を確認してください。 ・ AC アダプタが正しく接続されているか ・ 同梱品以外の AC アダプタを使用していないか ・ 延長コードやタップを使用しないときはどうか ・ 他のコンセント差込口ではどうか ・ 正しい電源、電圧で使用しているか それでも改善されないときは、恐れ入りますが、本製品の不具合の可能性がございますので、同梱の「はじめにお読みください」裏面記載の保証規定を必ずご確認頂き、ご同意のうえで、修理を依頼してください。 ★同意頂けない場合は、ご購入の販売店にご返却ください。 但し、お客様の過失で製品にキズ、欠損、欠品などがある場合にはご返却できません。
設定画面にログインできない	設定画面にログインできないときは、次の内容を確認してください。 ・ IP アドレスは「自動取得」になっているか ・ WEB ブラウザにプロキシサーバーの設定をしていないか ・ WEB ブラウザでセキュリティを高く設定していないか ・ セキュリティソフトウェア（ウィルスチェック、ファイアウォールなど）を停止させて改善されるか ・ 本製品左側面のモード切替スイッチが「Auto」側に切り替わっているか それでも改善されないときは、お手数ですが本製品を初期化し、再度ログインをお試しください。

<table>
<tr><td>インターネットに接続できない</td><td>インターネットに接続できないときは、次の内容を確認してください。
・　設定後すぐにはつながらないとき、2～3 分程待って再度試して改善するか
・　パソコンの IP アドレスは自動取得になっているか
※設定方法は「7.3.1　自動設定」を参照してください。
・　すべての機器の電源を OFF にして、60 分ほどそのままの状態にして改善するか
・　IP アドレスでホームページにアクセスできるか
※ブラウザのアドレスに「http://210.197.79.10」と入力して<Enter>キーを押して、弊社（プラネックス）のホームページが表示されるか確認してください。
・　セキュリティソフトウェア（ウィルスチェック、ファイアウォールなど）を停止させて改善されるか
それでも改善されないときは、お手数ですが本製品を初期化後、セットアップウィザードをお試しください。</td></tr>
<tr><td>無線 LAN がつながらない
無線 LAN がつながらない</td><td>無線 LAN がつながらないときは、次の内容を確認してください。
・　本製品と無線 LAN クライアント（子機）との間に距離がないか
・　本製品と無線 LAN クライアント（子機）との間に障害物がないか
・　電子レンジの傍で接続をしていないか
・　本製品の Wireless/WPS ランプ（LED ランプ）は有効になっているか
・　無線 LAN アダプタが搭載のパソコンで、無線 LAN のスイッチがオフになっていないか
・　無線 LAN が無効になっていないか
・　ワイヤレスネットワークの IP アドレスが自動取得になっているか
・　無線 LAN クライアント（子機）に設定されている SSID および無線 LAN セキュリティ設定は本製品と同じになっているか
・　ルータ側の無線チャンネルを変更して改善されるか
それでも改善されないときは、お手数ですが本製品を初期化後、クイックセットアップをお試しください。</td></tr>
</table>

7.2 初期化の方法.

次のようなときは、本製品を工場出荷時状態に戻していただき、再度設定をお試しください。

- 接続方法、パソコン側の設定を見直しても、設定画面にログインできないとき
- 接続方法、パソコン側の設定を見直しても、インターネットに接続できないとき
- 本製品の IP アドレスを変更し、変更後の IP アドレスを忘れてしまったとき
- お客様が設定された内容を元に戻したいとき

注意：初期化すると本製品の設定内容がすべて消去されます。
初期化する前に必要な情報はメモなどに控えてください。

1. 本製品の電源がオンになっていることを確認します。
2. 本製品前面の「Power」ランプが点滅するまで、本製品左側面のリセットボタンを長押しす。（10 秒以上）
3. しばらくそのままお待ちいただき、本製品が再起動したら初期化の完了です。

7.3 IP アドレスの設定.

7.3.1 自動設定

パソコンの IP アドレスを DHCP サーバから取得する方法に設定します。
お使いの OS を参照してください。

- Windows 7 のとき…………………………………「7.3.1.1 Windows 7」
- Windows Vista のとき……………………………「7.3.1.2 Windows Vista」
- Windows XP のとき………………………………「7.3.1.3 Windows XP」
- Mac OS X のとき…………………………………「7.3.1.4 Mac OS X」

7.3.2 手動設定

パソコンの IP アドレスを手動で設定します。
お使いの OS を参照してください。

- Windows 7 のとき…………………………………「7.3.2.1 Windows 7」
- Windows Vista のとき……………………………「7.3.2.2 Windows Vista」
- Windows XP のとき………………………………「7.3.2.3 Windows XP」
- Mac OS X のとき…………………………………「7.3.2.4 Mac OS X」

7.3.1 自動設定

7.3.1.1 Windows 7

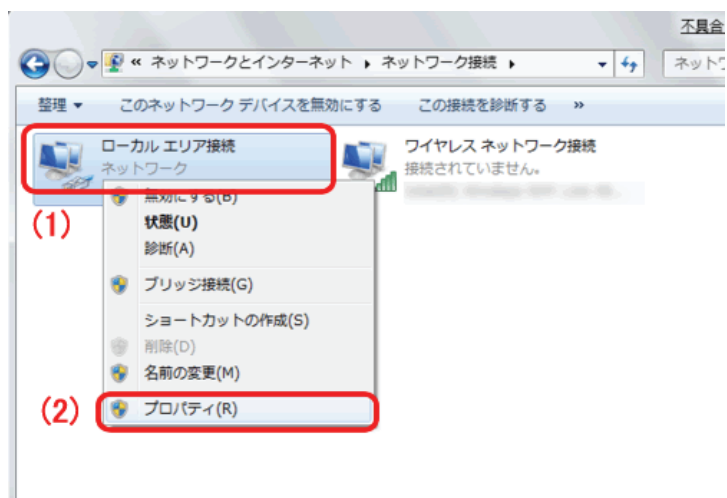
1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。

   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

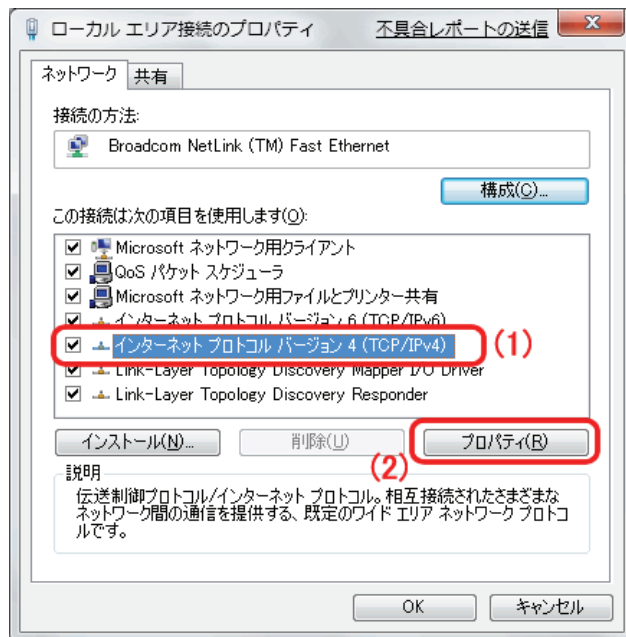
2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。

   ※アイコン表示のときは、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「アダプターの設定の変更」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックします。

(2)「プロパティ」をクリックします。

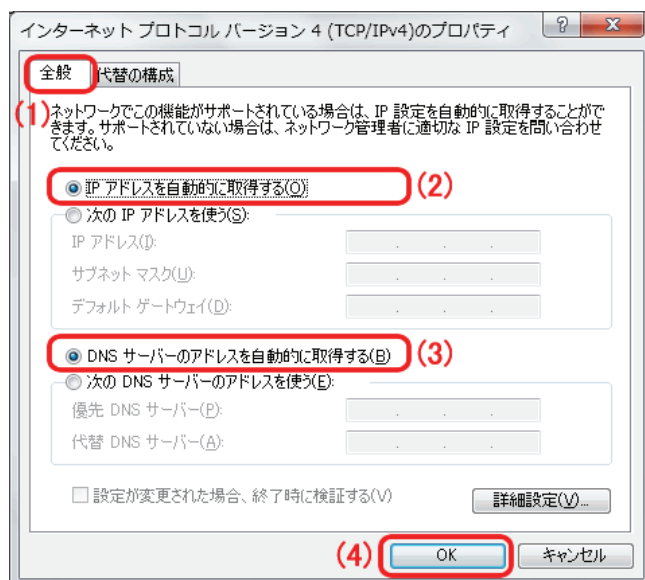
5. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。

(2) [プロパティ]をクリックします。

6. (1)「全般」タブをクリックします。

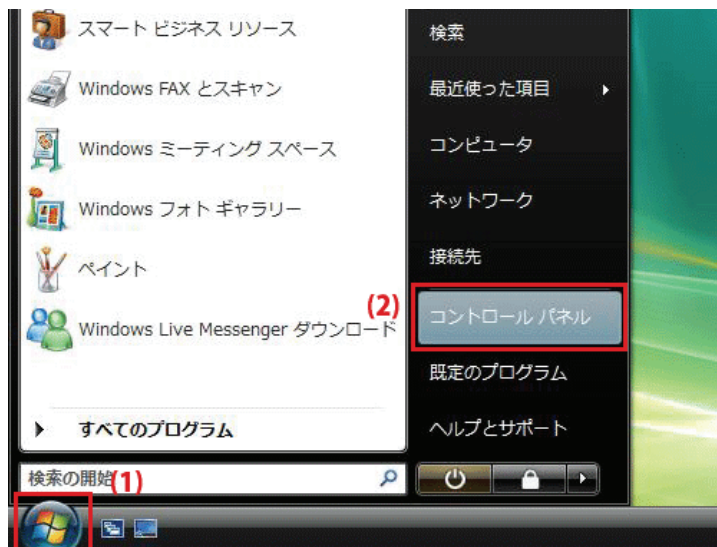
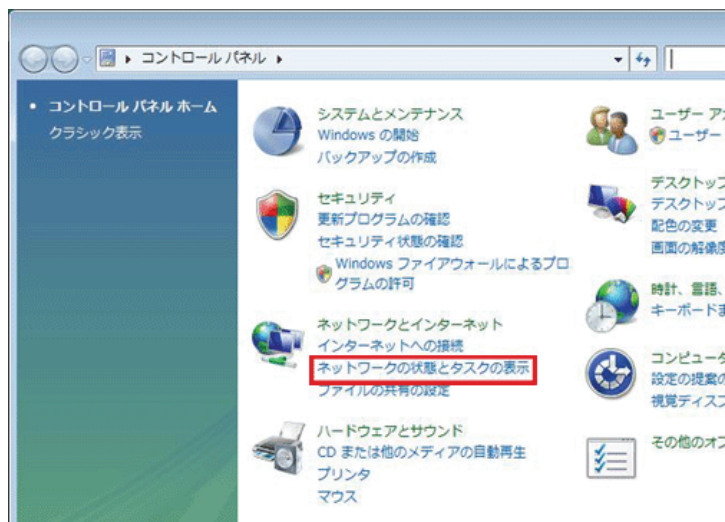
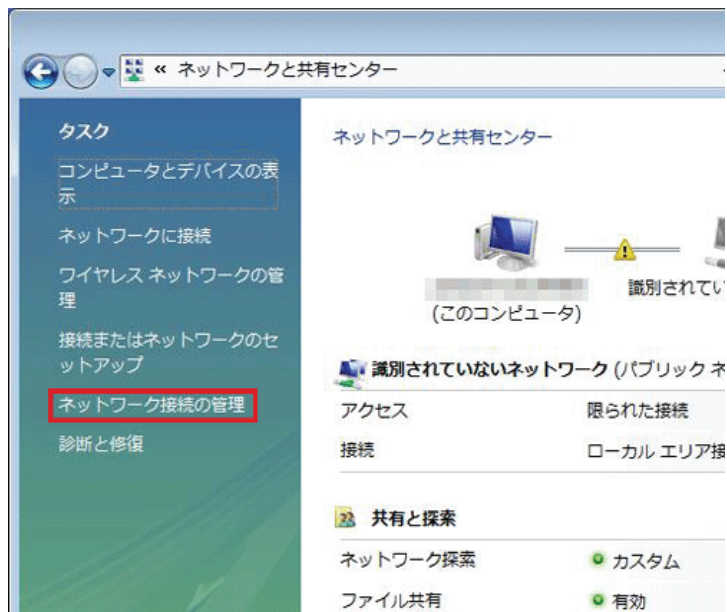
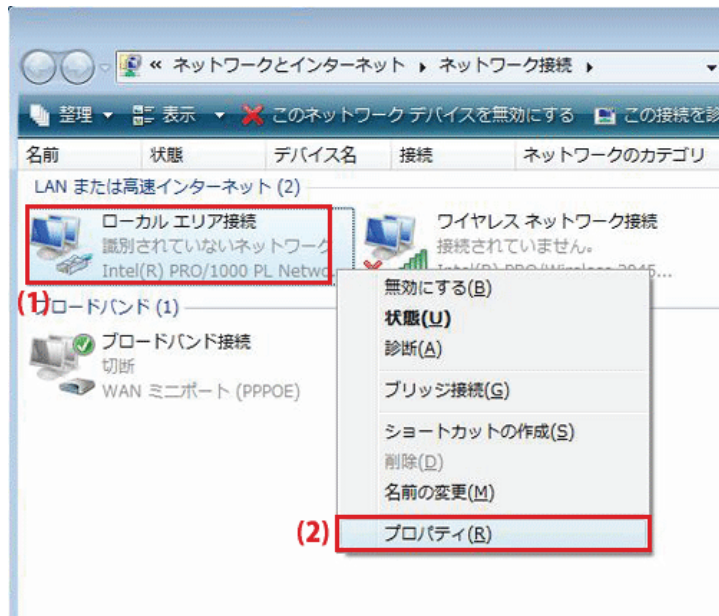
(2)「IP アドレスを自動的に取得する」を選びます。

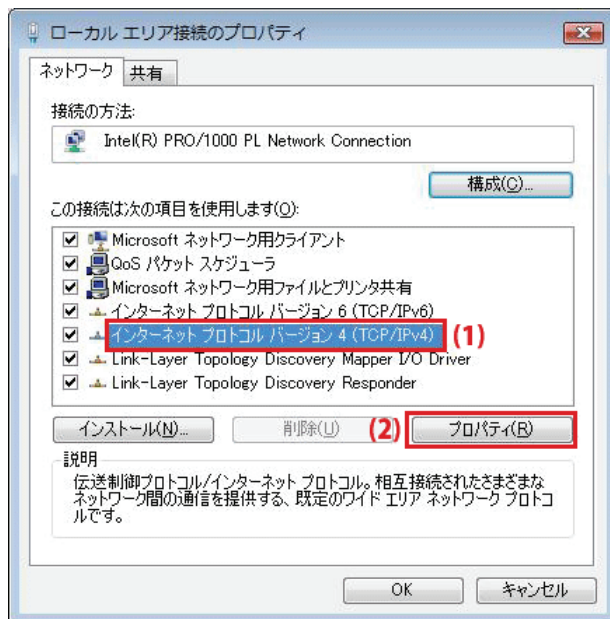
(3)「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選びます。

(4) [OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

7. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

7.3.1.2 Windows Vista

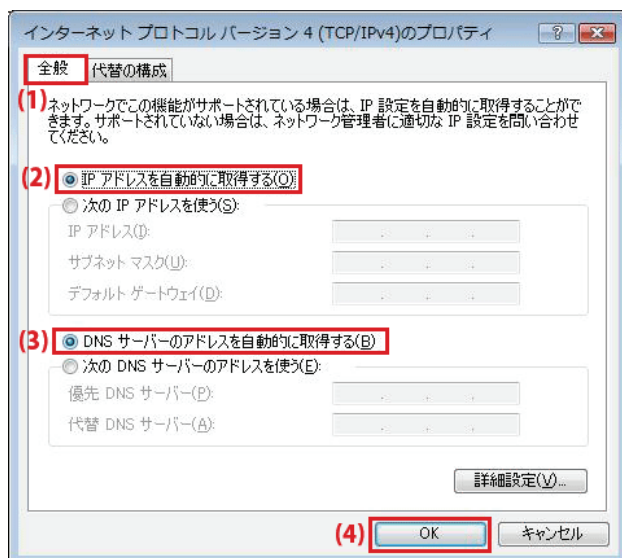
1. 「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
　※クラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

4. 「ローカルエリア接続」を右クリックして「プロパティ」を選択します。

5. 「ユーザーアカウント制御」が表示されます。
　[続行]をクリックします。

6. 「インターネット プロトコル バージョン 4（TCP/IPv4）」を選び、[プロパティ]をクリックします。

7. （1）「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

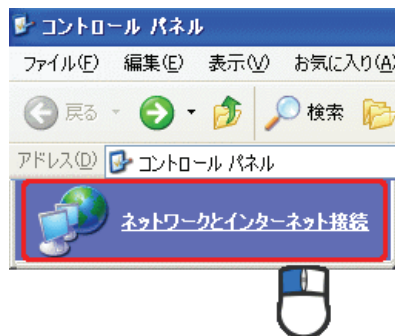
（2）「IP アドレスを自動的に取得する」を選びます。

（3）「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選びます。

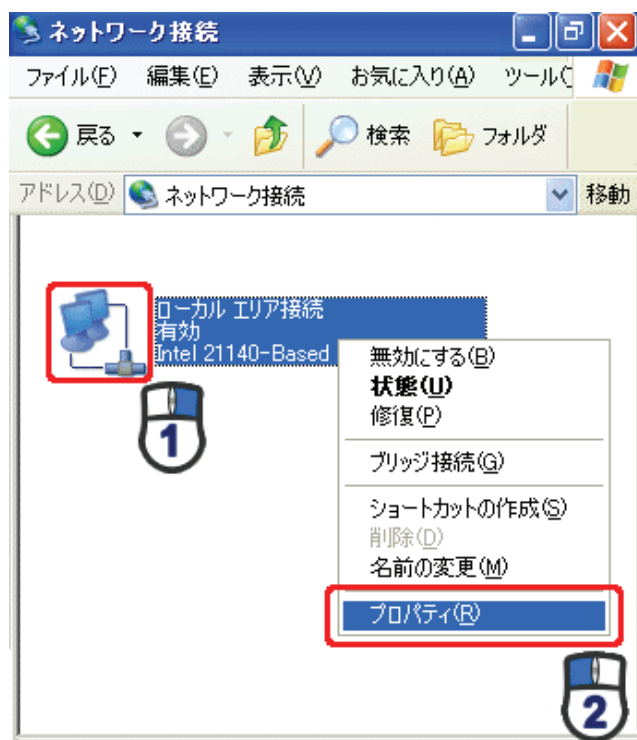
（4）[OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

8. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

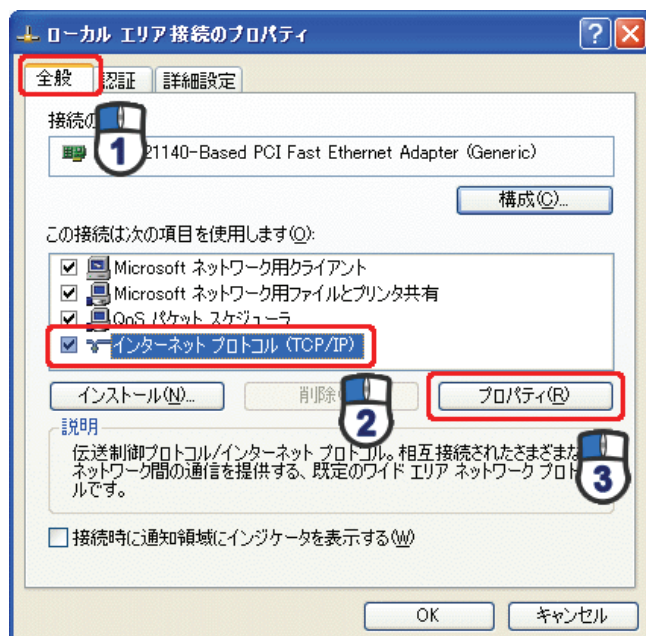
7.3.1.3 Windows XP

1. 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続」をクリックします。

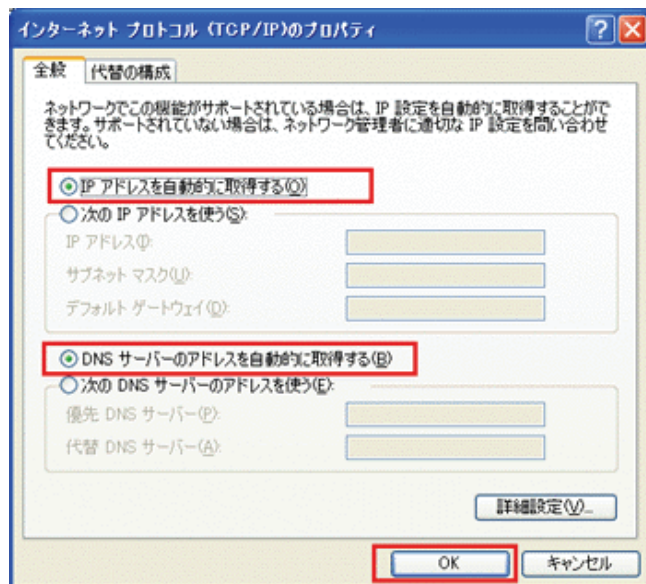
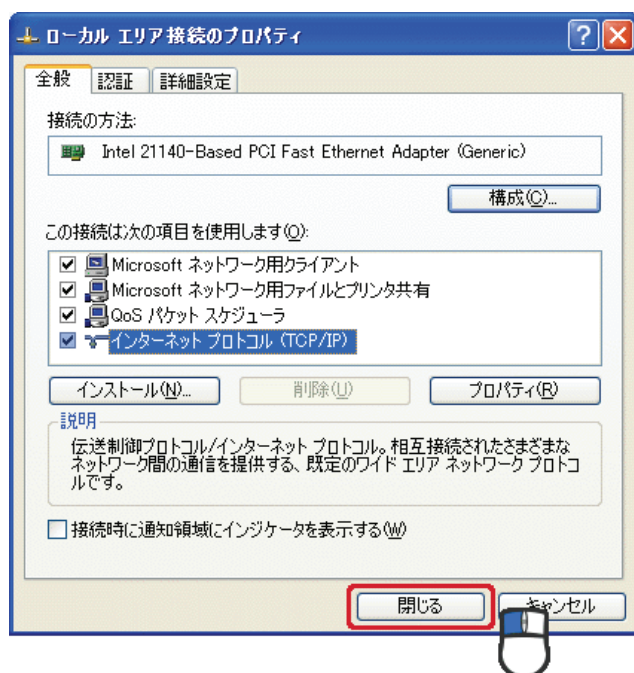
4. 「ローカル　エリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「全般」タブをクリックします。

(2)「インターネット　プロトコル(TCP/IP)」を選びます。

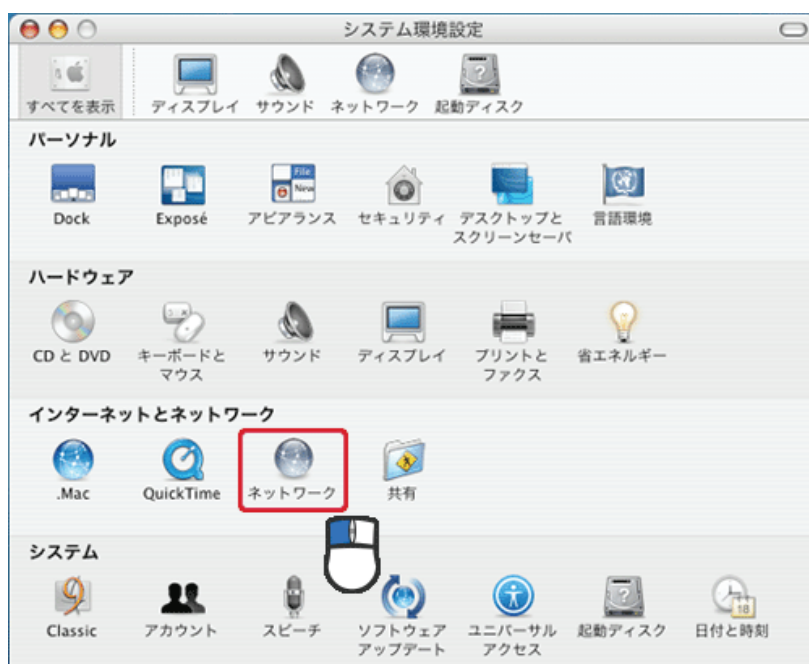
(3)[プロパティ]をクリックします。

6. （1）「IP アドレスを自動的に取得する」にチェックを入れます。

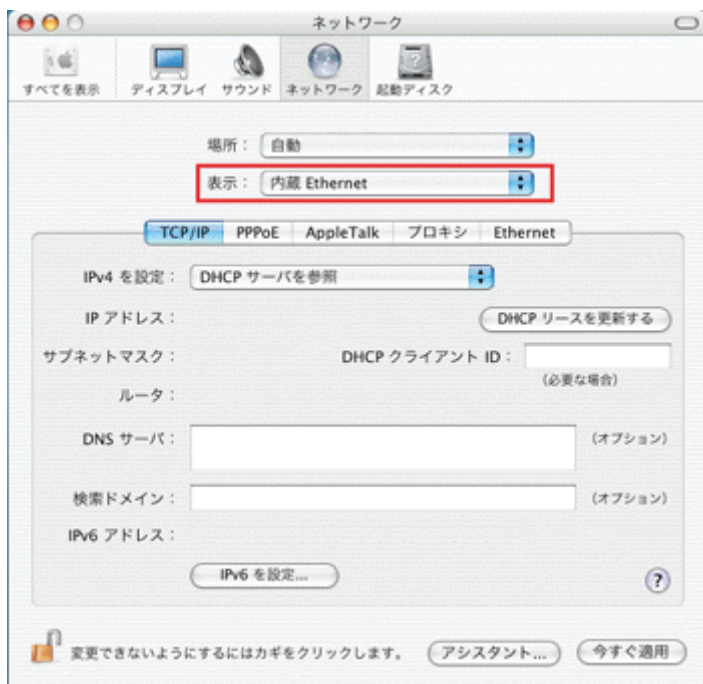
（2）「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」にチェックを入れます。

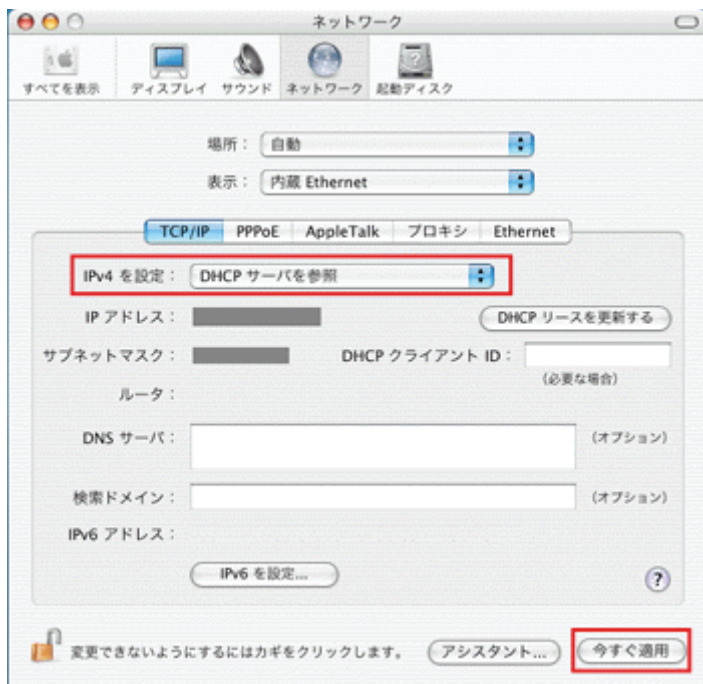
（3）［OK］をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

7. ［閉じる］をクリックします。

7.3.1.4 Mac OS X

1. 「アップルメニュー」→「システム環境設定」をクリックします。

2. 「インターネットとネットワーク」の 「ネットワーク」をクリックします。

3. 「ネットワーク」の画面が表示されます。

「表示」欄から「（内蔵）Ethernet」を選択します。

※［DHCP サーバを参照］が表示されていないときは、［PPPoE］タブをクリックし、「PPPoE を使って接続する」のチェックをオフにします。

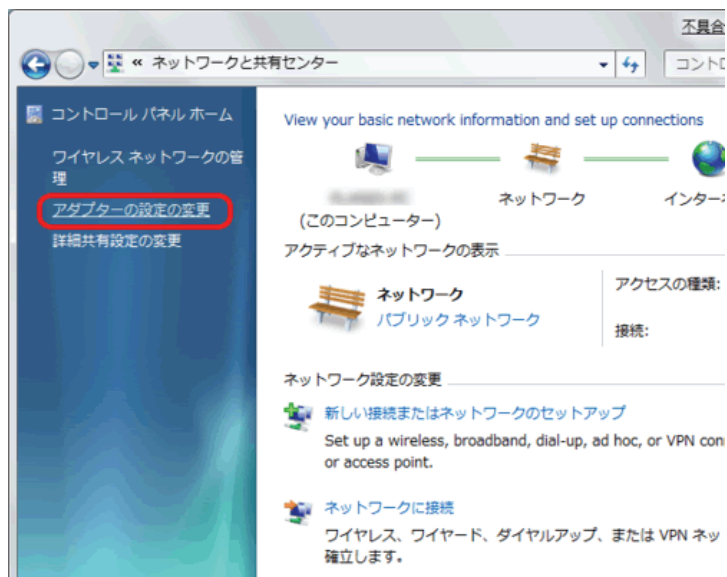
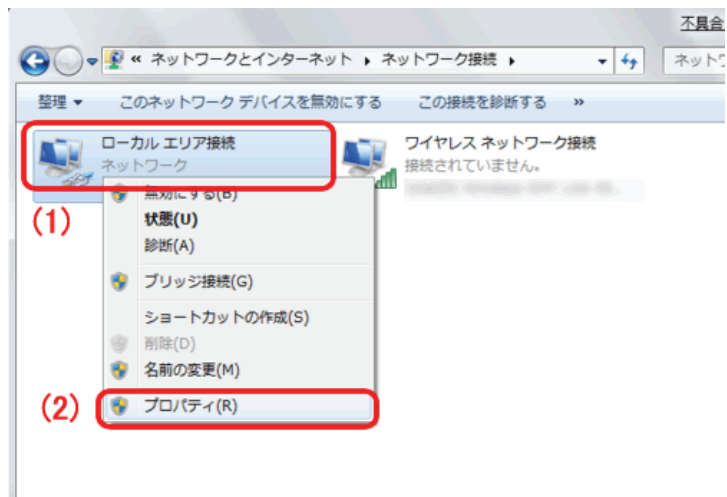
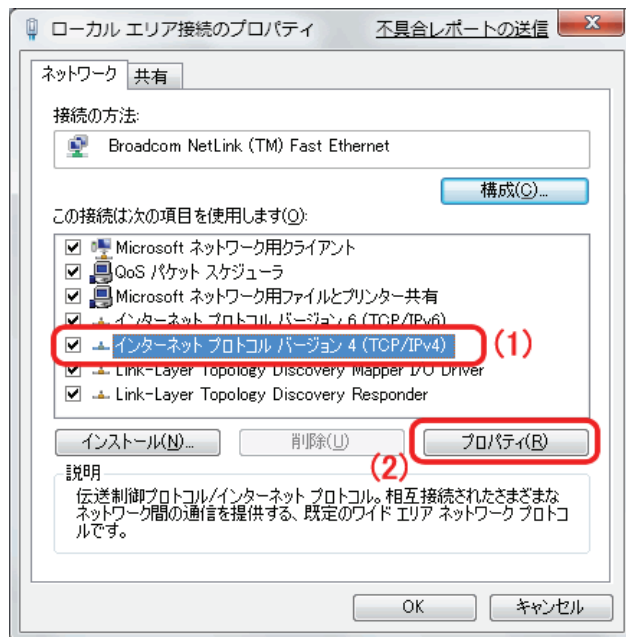
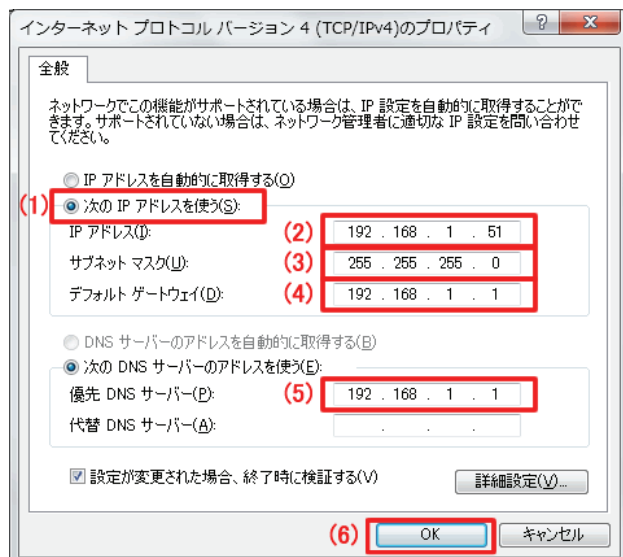
4. 「TCP/IP」タブの「IPv4 を設定」欄から「DHCP サーバを参照」を選択します。

5. ［適用］をクリックします。

7.3.2 手動設定

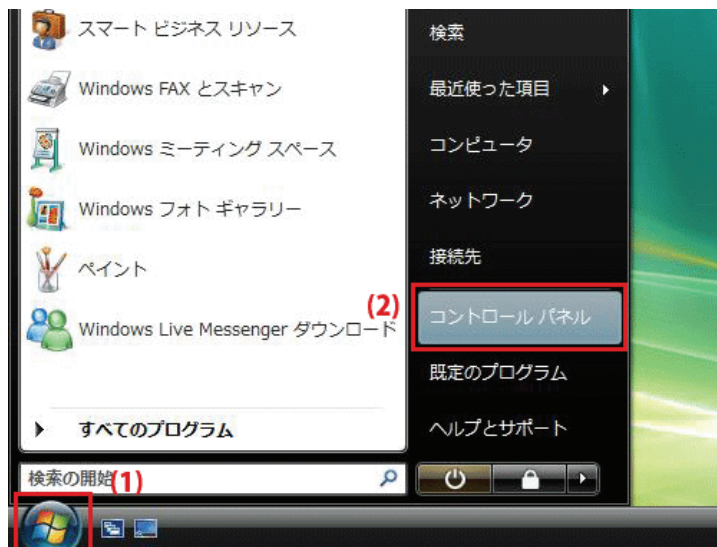
7.3.2.1 Windows 7

1. (1)「スタート」ボタンをクリックします。
   (2)「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※アイコン表示のときは、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「アダプターの設定の変更」をクリックします。

4. (1)「ローカルエリア接続」を右クリックします。
(2)「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選びます。
   (2) [プロパティ]をクリックします。

6. (1)「全般」タブをクリックします。
   (2)「IP アドレスを自動的に取得する」を選びます。
   (3)「DNS サーバーのアドレスを自動的に取得する」を選びます。
   (4) [OK]をクリックします。
   ※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。
   ※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

7. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

7.3.2.2 Windows Vista

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。
   ※クラシック表示画面の場合は、「ネットワークと共有センター」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続の管理」をクリックします。

4. 「ローカルエリア接続」を右クリックして「プロパティ」を選択します。

5. 「ユーザーアカウント制御」が表示されます。
[続行]をクリックします。

6. 「インターネット プロトコル バージョン 4(TCP/IPv4)」を選び、[プロパティ]をクリックします。

7. (1)「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

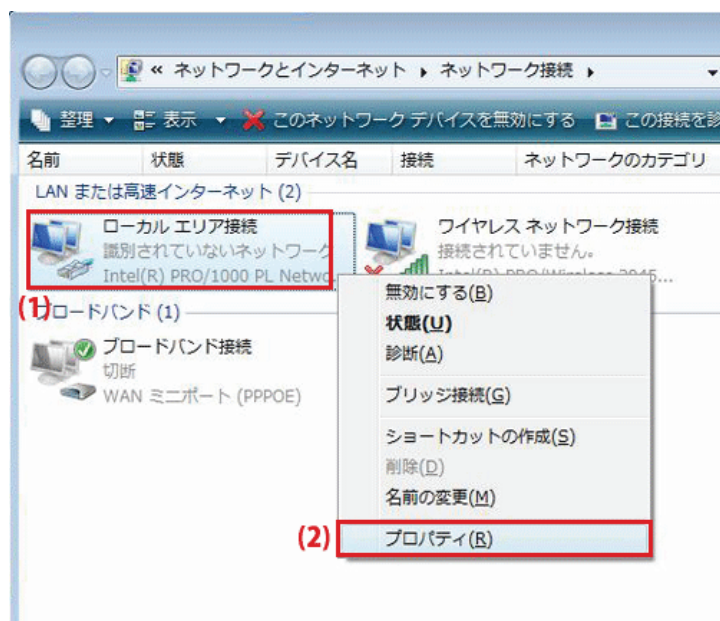
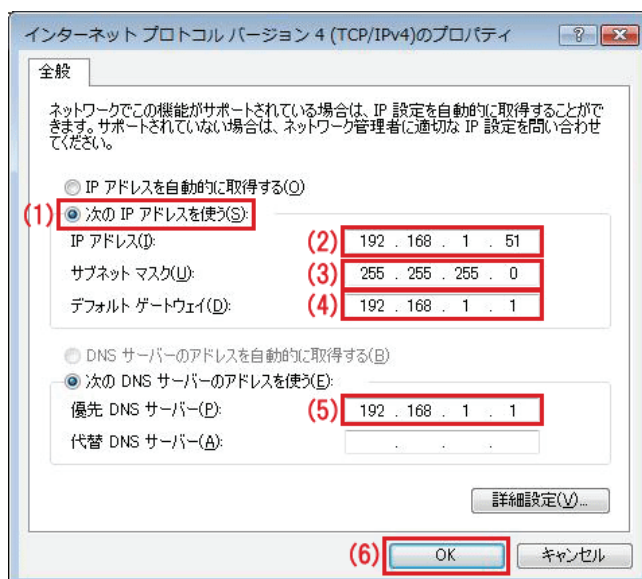
(2)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します※。

(3)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。

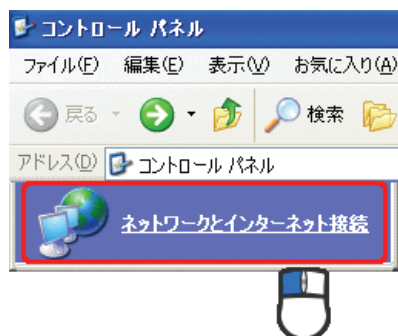
(4)「デフォルトゲートウェイ」に「192.168.1.1」と入力します。

(5)「優先 DNS サーバー」に「192.168.1.1」と入力します。

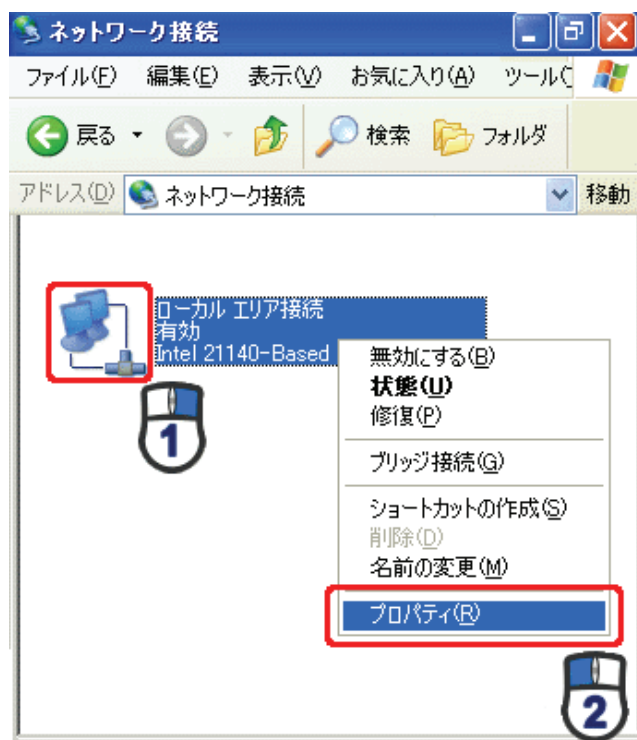
(6)[OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

8. [閉じる]をクリックし、すべての画面を閉じます。

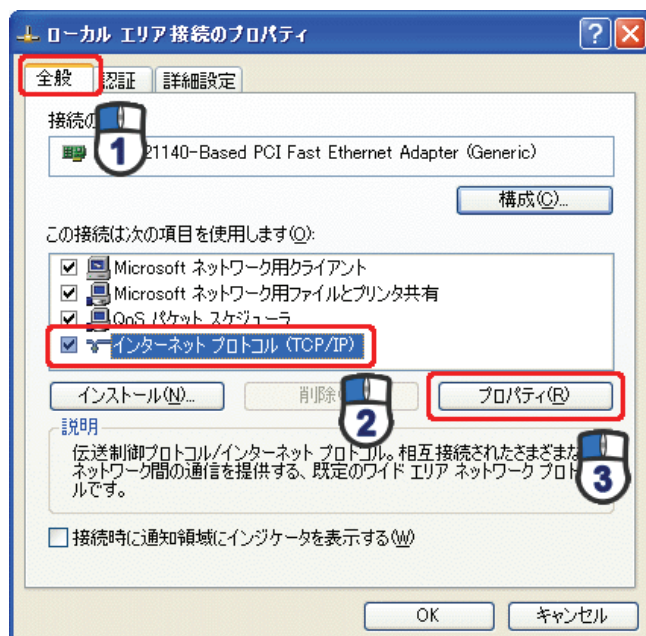
7.3.2.3 Windows XP

1. 「スタート」→「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

3. 「ネットワーク接続」をクリックします。

4. 「ローカル エリア接続」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。

5. (1)「全般」タブをクリックします。

(2)「インターネット プロトコル(TCP/IP)」を選びます。

(3)[プロパティ]をクリックします。

6. (1)「次の IP アドレスを使う」をクリックします。

(2)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します ※。

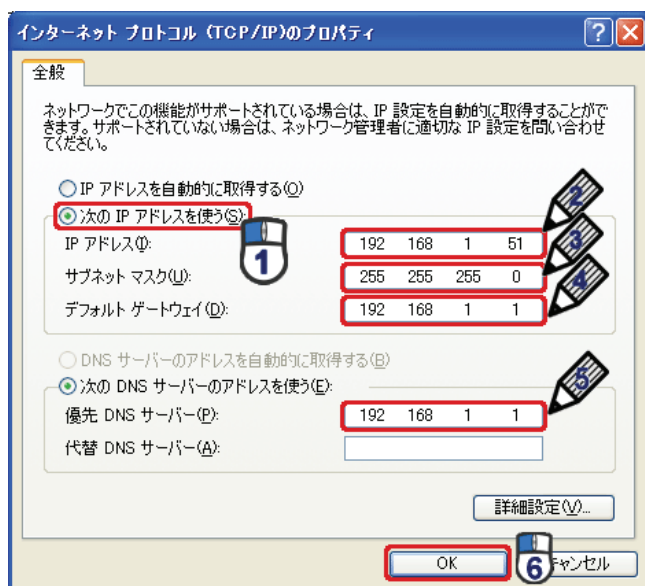
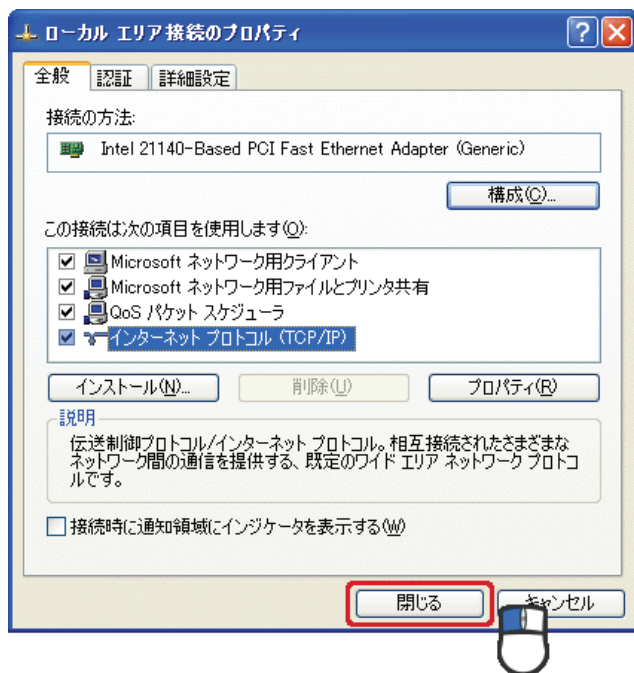
(3)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。

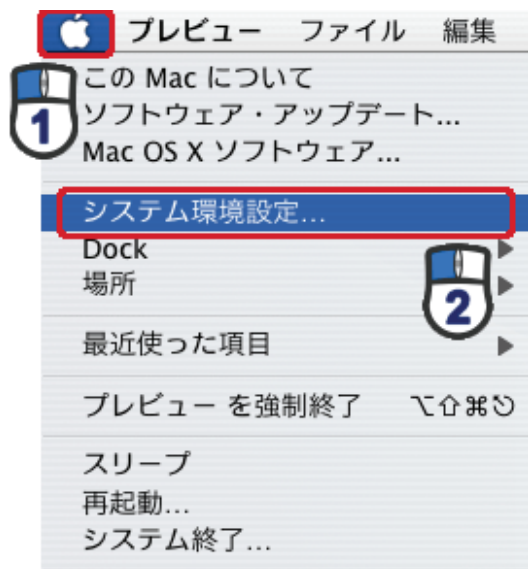
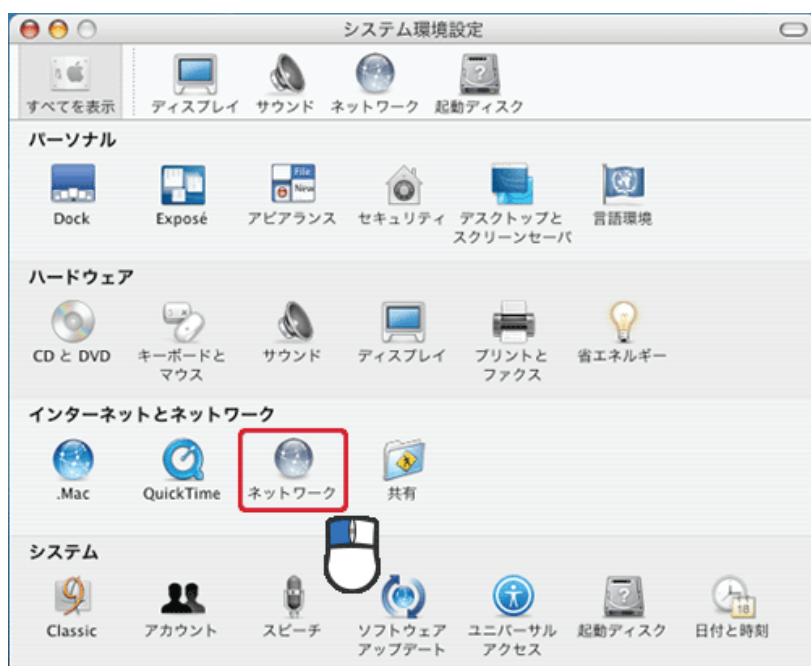
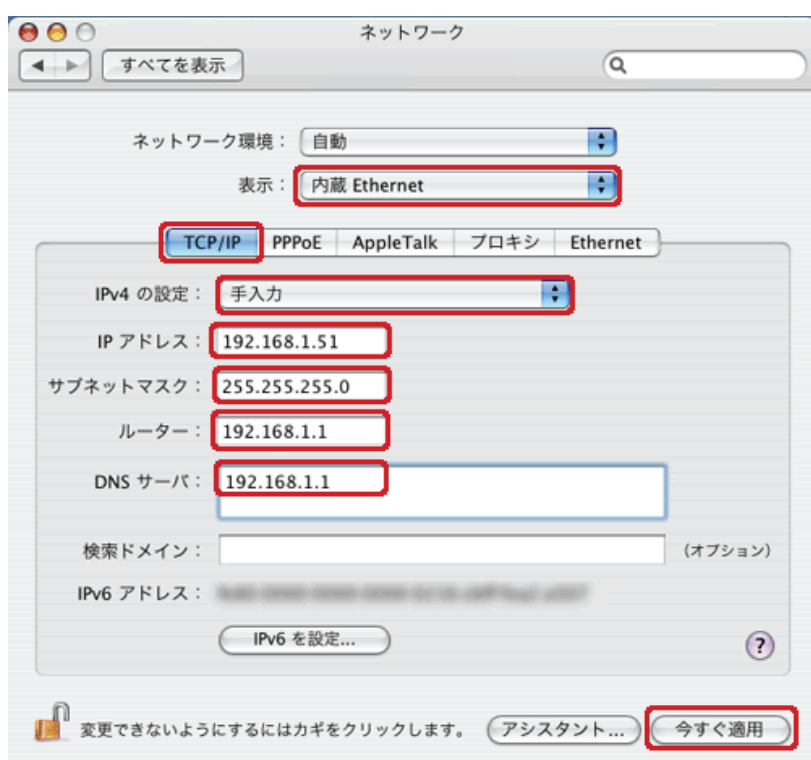
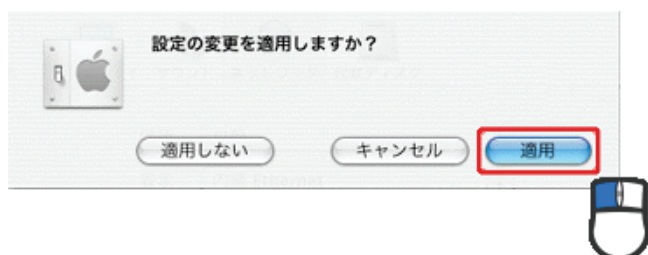
(4)「デフォルトゲートウェイ」に「192.168.1.1」と入力します。

(5)「優先 DNS サーバー」に「192.168.1.1」と入力します。

(6)[OK]をクリックします。

※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。

※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

7. [閉じる]をクリックします。

7.3.2.4 Mac OS X

1. 「アップルメニュー」→「システム環境設定」をクリックします。

2. 「インターネットとネットワーク」の 「ネットワーク」をクリックします。

3. (1)「表示」から「内蔵 Ethernet」を選びます。
(2)「TCP/IP」タブをクリックします。
(3)「IPv4 を設定」から「手入力」を選びます。
(4)「IP アドレス」に「192.168.1.xxx」(「xxx」には 2～19、51～254 の任意の値。パソコンのときは 51～99 を推奨)と入力します※。
(5)「サブネットマスク」に「255.255.255.0」と入力します。
(6)「ルーター」に「192.168.1.1」と入力します。
(7)「DNS サーバ」に「192.168.1.1」と入力します。
(8)[今すぐ適用]をクリックします。
※一時的に設定を変更するときは、変更前の設定をメモしておくことをお勧めいたします。
※複数の機器に設定するときは、機器同士が重複しない値を入力してください。

4. [適用]をクリックします。

第 8 章:製品仕様

無線部仕様	
対応規格	IEEE802.11n、IEEE802.11g、IEEE802.11b
チャンネル数	1～13ch
周波数帯域	2.4GHz 帯(2,412～2,472MHz)
伝送速度	IEEE802.11n(40MHz) :最大 300Mbps
	IEEE802.11g:54、48、36、24、18、12、9、6Mbps
	IEEE802.11b:11、5.5、2、1Mbps
伝送方式	IEEE802.11n:直交波周波数分割多重変調(OFDM 方式)
	IEEE802.11g:直交波周波数分割多重変調(OFDM 方式)
	IEEE802.11b:直接拡散型スペクトラム拡散(DSSS 方式)
アンテナ利得	2dBi
アンテナ	内蔵アンテナ 2 本(2T2R)
アクセス方式	インフラストラクチャモード
自動無線設定機能	WPS
WDS	WDS ブリッジ
セキュリティ	WPA2-PSK(暗号化方式:TKIP)
	WPA2-PSK(暗号化方式:AES)
	WPA-PSK(暗号化方式:TKIP)
	WPA-PSK(暗号化方式:AES)
	WEP(キー長:64bit/128bit、キーフォーマット:ASCII/Hex)
	無効(暗号なし)
有線部仕様	
対応規格	IEEE802.3u(100BASE-TX)
	IEEE802.3i(10BASE-T)
インターフェース	RJ-45 ポート×2(WAN×1、LAN×1)、USB 2.0(Type A)ポート×1
伝送速度	100/10Mbps(オートネゴシエーション)
ネットワークケーブル	100BASE-TX:カテゴリ 5 以上
	10BASE-T:カテゴリ 3 以上
ソフトウェア仕様	
対応 WAN 回線	FTTH、ADSL、VDSL、CATV
WAN 設定	IP アドレス自動取得(DHCP クライアント)
	固定 IP アドレス(手動設定)
	PPPoE クライアント設定
	PPPoE マルチセッション(最大 2 セッション)
	Unnumbered PPPoE

LAN 設定	固定 IP アドレス（手動設定）
	DHCP サーバ（有効/無効）
	DHCP クライアント
ルーティング機能	スタティックルーティング
アドレス変換	NAPT（IP マスカレード）
ローカルサーバ機能	ポートフォワード、仮想 DMZ
セキュリティ	MAC アドレスフィルタリング、IP フィルタリング、URL ブロック
ダイナミック DNS	CyberGate-DDNS-、DynDNS、その他
ハードウェア仕様	
ハードウェアスイッチ	WPS ボタン、Reset ボタン、モード切り換えスイッ（Auto/AP/Converter）
LED	Power、WPS、Wireless
消費電力	最大　約 2.3W
電源	DC 5V 1A
外形寸法	約 75.0（W）×28.8（H）×65.6（D）mm　※突起部を除く
重量	約　60g
動作時環境	温度：0～40℃
	湿度：10～90%（結露なきこと）
保存時環境	温度：-20～60℃
	湿度：10～90%（結露なきこと）
その他	
ログ機能	システムログ
管理機能	リモート管理
対応 OS	Windows 7(32/64bit)/Vista SP2(32/64bit)/XP SP3(32bit)　日本語版
	Mac OS X 10.6/10.5/10.4(CPU :Intel/PowerPC 対応)
各種設定方法	WEB ブラウザ
保証期間	1 年間

■注意事項

※WEB ブラウザによる設定の際に、一部のブラウザでは正常に表示できない場合があります。

※WPA/WPA2 を利用するためには、接続する Wi-Fi 機器も WPA または WPA2 に対応している必要があります。

※WPS を利用するためには、接続する Wi-Fi 機器も WPS に対応している必要があります。

※無線チャンネル幅は初期値が 20MHz となっています。40MHz（理論値 150Mbps）を使用する場合は WEB 設定画面にて、20/40MHz のモードに変更してください。

※WDS ブリッジ機能は同一機種のみサポートしています。

※表示の数値は、Wi-Fi 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

※製品仕様は予告無く変更する場合があります。あらかじめご了承ください。最新情報は、弊社ホームページ（http://www.planex.co.jp）を参照ください。

第 9 章：お問合せ先

●サポート Q&A 情報（FAQ、よくある質問と答え）

ご質問の前に、まずサポート Q&A 情報をご覧ください。

お問い合わせの情報が掲載されているかお確かめください。

http://faq.planex.co.jp/

●オンラインマニュアル

最新版のマニュアルを参照できます。

http://www.planex.co.jp/support/download/index_manual.shtml

●技術的なお問い合わせ・修理に関するお問い合わせ

製品購入後のご質問は、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

豊富な知識をもったサポート技術者が、お客様の問題を解決いたします。

＜お問い合わせフォーム＞

http://www.planex.co.jp/support/techform/

受付：24 時間

＜サポートダイヤル＞

0570-064-707

受付：月～金曜日、10 ～ 12 時、13 ～ 17 時（※祝祭日および弊社指定の休業日を除く）

＜ FAX ＞

0570-088-194

受付：24 時間

●弊社製品の追加購入〈PLANEX DIRECT〉

弊社製品のご購入は、販売店様または PLANEX DIRECT まで。

ケーブル 1 本からレイヤ 3 スイッチまで、お客様が探しているものが見つかります。

http://direct.planex.co.jp/

●製品に関するお問い合わせ〈ご質問/ お見積もりフォーム〉

製品購入前のご相談や、ご質問は弊社専任アドバイザーにお任せください。

ネットワーク導入やシステム構築・拡張など、お客様のお手伝いをいたします。

http://www.planex.co.jp/lan.shtml

●その他

その他のお問い合わせ先は、弊社ホームページからお確かめください。

http://www.planex.co.jp/

上記内容は 2012 年 7 月現在の情報です。

内容は予告なく変更または削除される場合があります。ご了承ください。

第 10 章:索引

●プラネックスコミュニケーションズ、PLANEX COMMUNICATIONS は、プラネックスコミュニケーションズ株式会社の登録商標です。

●Microsoft および Windows は米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

●Mac は、Apple Inc.の登録商標です。

●iPhone は Apple Inc.の商標です。iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

●ニンテンドーDS・ニンテンドーDS Lite・Wii・3DS は、任天堂の登録商標です。

●ニンテンドーDSi は、任天堂の商標です。

●ニンテンドーWi-Fi コネクション・Nintendo Wi-Fi Connection は、任天堂の商標です。

●PSP、PS3 は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

●GALAXY Tab は、サムスン電子株式会社の登録商標です。

●Wi-Fi CERTIFIED ロゴは、Wi-Fi Alliance の認証ロゴマークです。

●その他、記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

●ご注意：ご使用の際は必ず商品に添付された取扱説明書をお読みになり、正しく安全にご使用ください。